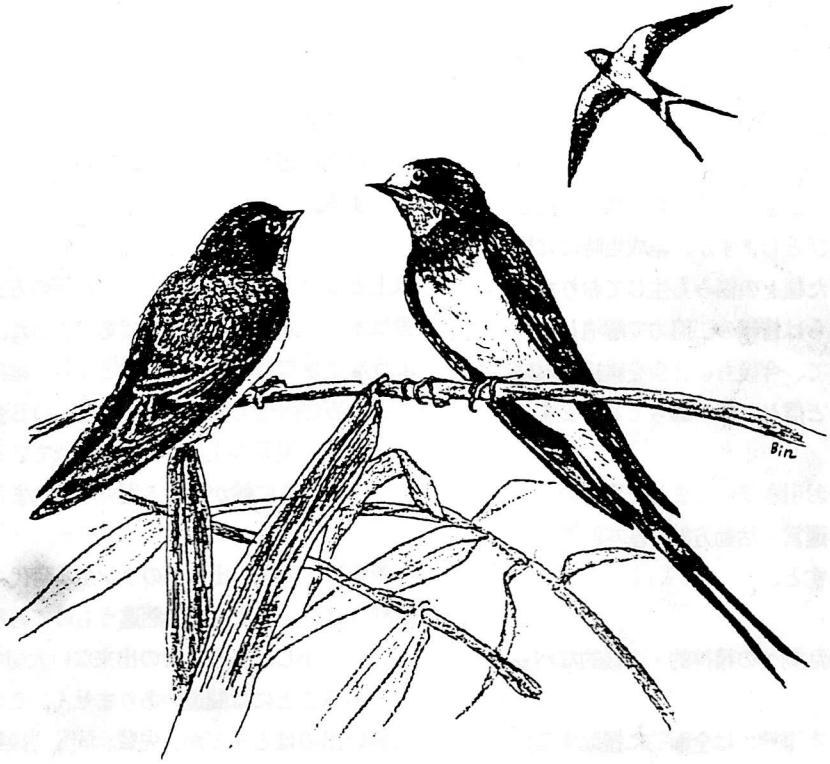
やまざと



ツバメ

会報９号（'９８夏号）

・４０周年記念行事案内
・納入報告
・ＯＢ名簿

金沢大学ワンダーフォーゲル部・ＯＢ会

総会開催ご案内
この５年に思うこと

ＯＢ会会長　13期　大島　良治

早いもので、ワンゲルＯＢ会が結成されて、もう５年の月日がたちました。「５年毎にＯＢ総会を開催する」とのＯＢ会会則第９条に則り、本年９月、医王山の麓「医王の里」にて、ワンゲル創部40周年記念事業と同時に、ＯＢ総会を開催致します。会員の皆様には万難を排し、是非参加下さるようお願い致します。

この５年間、ＯＢ会を維持してこれましたことを何よりの喜びとしますが、結成当時には思ってもいなかった種々の悩みも生じております。とはいえ、それらは皆様のご協力で解消していけることであって、今後もＯＢ会を維持・継続していけるものと信じ、かつ願っております。

ＯＢ会会長をお引き受けしました当時のＯＢ会結成理由や、運営・活動方針の基本的部分を再確認してみますと、

＜結成理由＞

1．現役部員の活動への精神的・金銭的なバックアップ
　(特に、非常事態には全面的に援助する)
2．現役部員と 500名以上のＯＢとのスムーズな連絡網形成
　(500名以上のＯＢに連絡する労力を現役に負担させるのはあまりにも気の毒。かつ、行事参加ＯＢのみが全連絡費を負担するのも不条理)

＜運営方針＞

1．ＯＢ会を将来に渡って運営するためには、全てのワンゲル卒業部員をＯＢ会員と考える。不本意ながら会員となっていたとしても、会費納入以外の制約はない。
　しかし本人の自発意志による脱会、その後の再入会などは自由である。
2．会費に関しては全ＯＢ会員に納入をお願いする。会員の唯一の義務であり、会の運営上の根本の一つである。
3．連絡・案内等は全ＯＢに行う

＜活動方針＞

1．年に１－２回会誌を発行し、全てのＯＢと連絡を図る。
2．年に数回行事を企画し、ＯＢ間、ＯＢと現役間の親睦の場を作り、全てのＯＢに案内する。

以上となりますが、この５年、幹事の方達の苦労は本当に頭の下がるものでありました。どのような小さな会でも、作ることより、維持することの方が何倍も難しいものです。ＯＢ会もそうであり、現実の生活とはかけ離れている分、さらに難しさに輪がかかる面もみられました。

青春時代の思い出の中のワンゲル時代の占める割合は、人によって当然違うものでありましょう。しかし、失うことの出来ない大切な思い出であることには間違いありません。この大切な思い出のほとんどが、先輩、同輩、後輩にまつわるものです。景色その他の思い出は、そんな方達と語り合う時、克明に湧き出て、共に懐かしく浸りあえるものとなりましょう。

ＯＢ会は皆様方の思い出の中にある人達を、会誌の発行、行事の開催という手段で、目の前に出現させる手品師の役目もしております。

現在のＯＢ会の姿に少々不快感を持っておいでる方があるとも聞いておりますが、前述のとおりであって他意は全然ありません。会の維持は現実的、事務的に行わねば進められないものであり、玉虫色では実際の維持はやっていけないように思います。

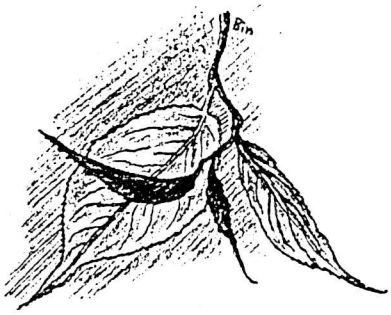
この５年間の経験、及び反省を踏まえ、ＯＢ会を今後も発展させなければなりません。その為には皆様方の変わわぬご協力が必要です。とりわけ、金沢在住のＯＢには、執行部に入り、活動の一端を是非担っていただきたいと思っております。

来る９月のＯＢ総会にて、新執行部が提案、そして承認され、新体制が発足する手筈です。新執行部もまた、言語明瞭・意味不明とされた＜ワンゲル理念＞に基づき、会の維持・運営を行うものと思います。私が先輩より教えていただいた＜ワンゲル理念＞が次期執行部には間違いなく受け渡せますようで、嬉しく思います。

この５年間、ワンゲル部員に再度なったような心楽しい時間を持つことができましたのは、ＯＢ会と、現幹事の皆様のお蔭と、感謝しております。本当にありがとうございました。

新執行部のもとでのＯＢ会の益々の発展と、皆様の御健勝をお祈りして、筆をおきます。

平成10年６月28日



４０周年記念行事へのお誘い

金沢大学ワンダーフォーゲル部４１期主将
佐藤　豪一郎

金沢大学ワンダーフォーゲル部も今年で４０周年を迎えました。
そこで今回は医王の里にて、記念行事が行われることとなりました。

今は遠方にお住まいの方も、この機会に学生時代へ
思いをはせてみてはいかがでしょうか。

先輩方が現役だったころの話を聞かせてください。

先輩！　お待ちしています。

ＫＵＷＶ　ＯＢ各位

１９９８年７月

ＫＵＷＶ40周年実行委員会

拝啓

海・山の季節の到来、ＯＢの皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、本年創部40周年を迎える金沢大学ワンダーフォーゲル部の記念事業が、下記の通りに決定いたしました。なにとぞよろしくご協力・ご参加をお願い申し上げます。

参加の申し込みは8月10日までに同封の葉書でお願いいたします。

敬具

記

1．総会

期日　9月12日（土）午後4時－5時

場所　金沢市大菱池町　医王の里「森の家」（二階　研修室）

（総合案内所　☎０７６－２２９－１３１２）

2．記念事業

(1)　懇親会

期日　9月12日（土）午後6時－（10時）

場所　医王の里・運動広場　　雨天の時：森の家

内容　キャンプファイヤー・アトラクション・各期スタンツ・歌など

(2)　記念山行

期日　9月13日（日）9時－　　雨天の時：中止or大池平散策

A：医王の里－白兀山－医王の里（昼食）　午前11時半解散

B：医王の里－大池平or三蛇ケ滝（昼食）－トンビ岩－白兀山－しがら頸－医王の里　　午後2時解散

C：医王の里－大池平or三蛇ケ滝（昼食）－トンビ岩－白兀山－奥医王山－しがら頸－医王の里　午後4時解散

(3)　ワンゲル歌集発行

総会時に配布（欠席者へは後日郵送配布）

3．その他

(1) 宿泊　森の家　研修室（畳敷大部屋）シュラフor毛布利用　100 人程度可

バンガロー　5人×10棟

貸しテント　5人用多数有り

(2) 食事　9月12日夕食　13日朝食　昼食・行動食までを用意

(3) 費用　大人5,000 円　小人（中学生以下）2,000 円

（宿泊費＋食費＋その他の装備＋現役分の経費）

当日受付にて集金

(4) 交通　北陸鉄道バス　（大人 550円）　（金沢駅－医王山見上峠所用 1 時間）

駅…金沢駅、ス…スポーツセンター前、見…医王山見上峠、園…公園下

行き　駅7：52発（ス）　園13：25発（ス）　駅15：45発（見）

の3本のみ

帰り　ス7：20発（駅）　ス8：52発（駅）　ス14：10発（駅）

見16：46発（駅）の4本のみ

＜スポーツセンター（徒歩15分）見上峠（徒歩25分）医王の里＞

・上記のようにバスの便が悪いため、自家用車相乗りでの参加をご相談下さい。

（駐車場多数あり）

・実行委では　希望の方に車の手配を行います。

午後3時　小立野工学部キャンパス門前にご集合下さい。

帰りは参加山行グループの下山時刻に合わせ手配します。

(5) 装備他　キャンプ泊一般装備をご準備下さい。

山行参加の方は日帰り山行の服装・装備をご準備下さい。

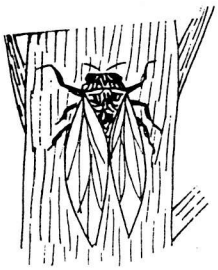
(6) その他

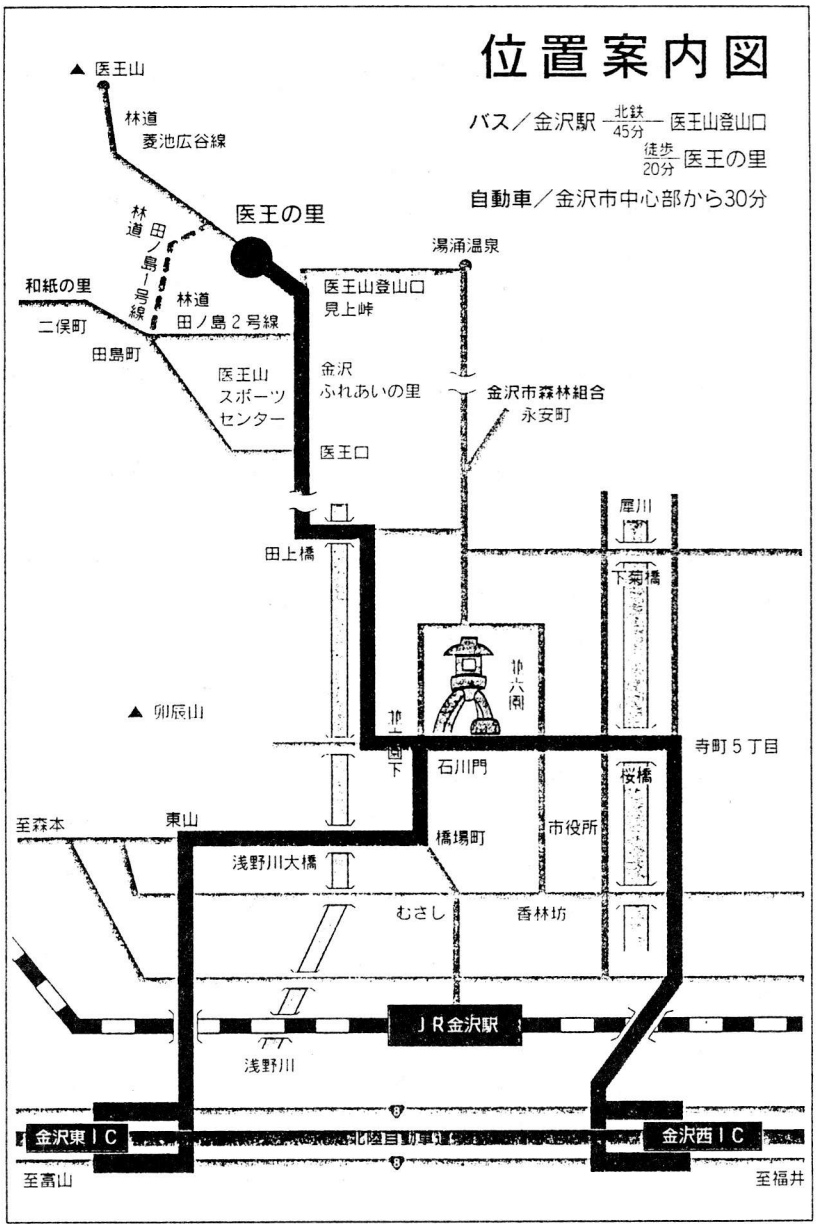
・参加申し込み者には8月末、別途ご案内をさしあげます。

・お問い合わせは下記実行委員まで

椿川　利弘（18期）　☎076-275-3380　（自宅・夜）

舟田　節子（15期）　☎076-222-9288　（自宅・一日）





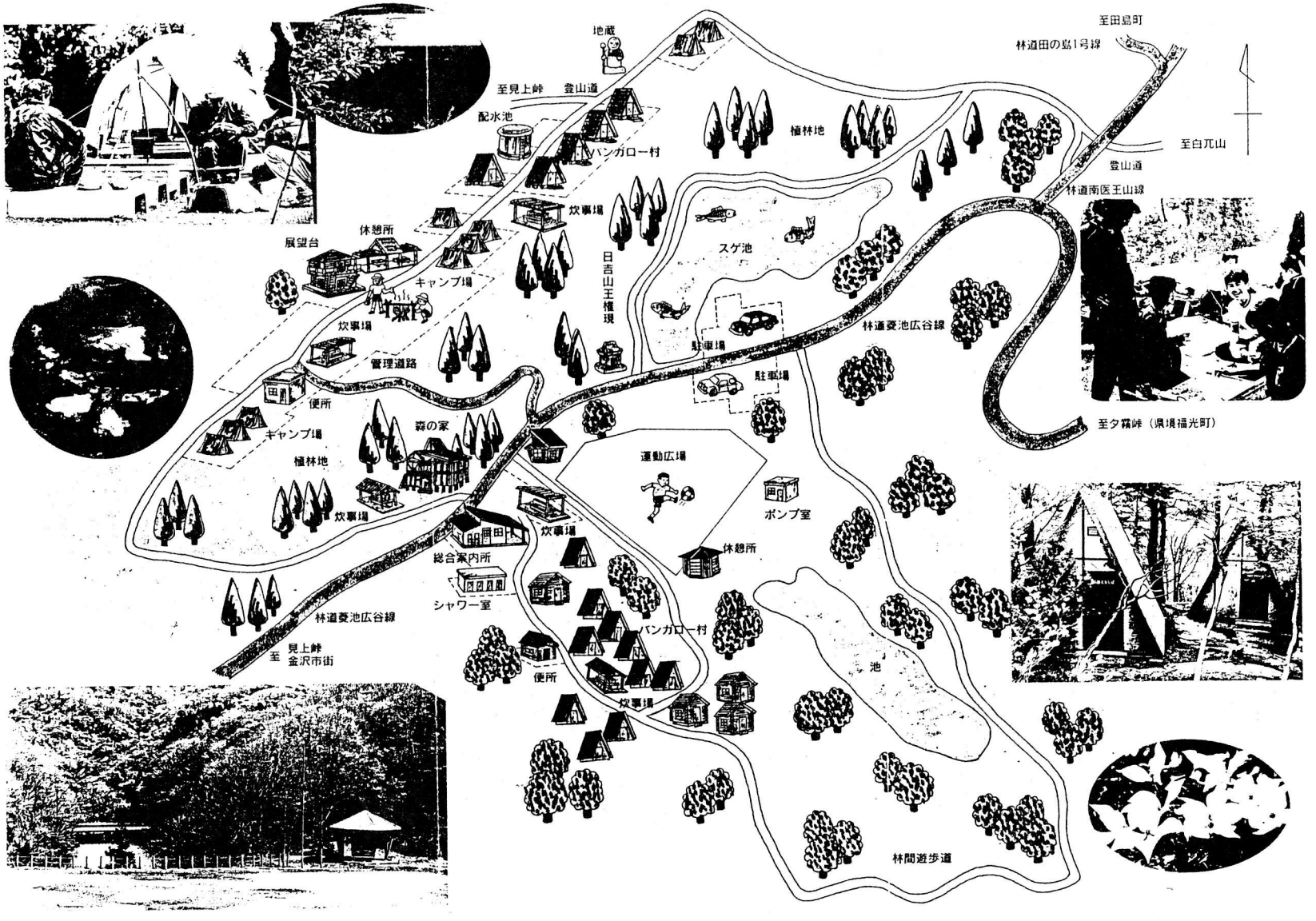
● 利用申し込みとお問い合わせ ●

「医王の里」総合案内所

（〒920-11）金沢市大菱池町　TEL29-1312

金沢市森林組合

（〒920-13）金沢市永安町77　TEL29-1131


地蔵
至見上峠
登山道
配水池
バンガロー村
植林地
至田島町
林道田の島1号線
至白兀山
登山道
林道南医王山線
炊事場
休憩所
展望台
キャンプ場
炊事場
管理道路
便所
キャンプ場
森の家
植林地
炊事場
日吉山王権現
スゲ池
駐車場
駐車場
林道菱池広谷線
至夕霧峠（県境福光町）
運動広場
ポンプ室
休憩所
炊事場
総合案内所
シャワー室
林道菱池広谷線
至 見上峠 金沢市街
バンガロー村
便所
炊事場
池
林間遊歩道

日程・会場決定の経緯

5年前、従来通り白山山行が記念行事とされ、悪天の為中止となったことをご記憶の方もあるかと存じます。

当時も30余名の実働現役に対し、参加希望は家族を含め94名。南竜山荘泊まりを原則とし、テント泊の方も山荘の食事を利用、昼食は下山してから永井旅館で素麺など、チーフ栂さんを始めスタッフの智恵を絞った対応が計画されました。目の回る思いをしたあげくの悪天中止。すでにキャンプファイヤーも認められなくなっており、「もう白山を会場とすることは無理」が反省でした。

そのうえに白山の宿泊設備は予約制にもなりました。予約金がいる訳ではありませんが早い時期に人数を確定するのは難しく、役員ですら春の異動などで見通しがたちません。

白山の麓を懇親会場とし、天候を眺めての日帰り登山…の案もありました。その場合はキャンセル料がかかってくる宿泊施設になりますし、登山をしない人まで不便な白山麓に集める必要があるのかの疑問が出てきます。

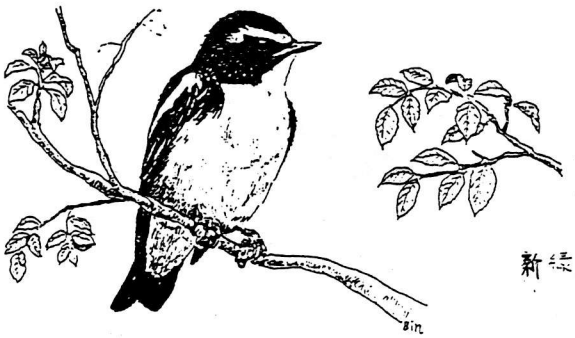
以上の理由により、「白山」は対象としないことになりました。どうしても登りたい方は、個別にお誘い合わせのうえ、天候も判断されてＯＢ会行事とは関わりなく登られて下さい。尚、来年より室堂改築が始まり、３年間は食事の提供がなくなる見込みです。

倉谷会場案も、雨天の対応ができない。一切を人力で運び込まねばならない。不足装備をどこかから借りてこなければならない…で却下されました。

日程については、夏休み中はこれだけの規模の人数でのキャンプ場確保は無理。と、夏休みあけ早々の土日で確保することになりました。

以上の経緯で、医王の里が
雨天の対応が可能（屋根付き大会場がある）
キャンプファイヤーができ、ワンゲル気分を味わってもらえる。
必要装備が現場で借り出せる。
現地までの送迎が容易。
食糧の搬入も容易。
白山と同じくワンゲルにとって十分懐かしい場所
誰もが参加し易いことが、総会開催のために重要なこと
と選定されました。

他の件もそうですが、役員達は時間をかけて、あれこれを検討して、この案・このやり方の決定を行っています。どうかご了解の上創部40周年にふるってご参加下さい。



新緑のキビタキ

今年白山へ登りたい方への
情報サービス

北陸中日新聞　1998年(平成10年)6月30日(火曜日)

毎年7月1日～8月31日の間の白山での宿泊は予約が必要です。

● 対象施設と申込先　（宿泊を希望する日の1週間前までに申し込んで下さい。）

白山室堂	南竜山荘	南竜ヶ馬場ケビン
(財)白山観光協会 ☎07619-3-1001	予約センター☎07619-8-2022	

白山・夏山ピーク時の交通規制（マイカー等の一般車）

夏山ピーク時の交通混雑の緩和、安全確保及び自然保護のため、次のとおり市ノ瀬～別当出合間（6.2km）のマイカー規制を行います。
マイカーは通行できませんので、市ノ瀬で駐車し、別当出合までは路線バス（有料）をご利用下さい。

●規制日	●規制時間	●規制日	●規制時間
◎7月17日(金)～20日(月)…	(金)20:00～(日)12:00	◎8月 7日(金)～ 9日(日)…	(金)20:00～(日)12:00
◎7月24日(金)～26日(日)…	(金)20:00～(日)12:00	◎8月14日(金)～16日(日)…	(金)20:00～(日)12:00
◎7月31日(金)～8月2日(日)…	(金)20:00～(日)12:00	◎8月21日(金)～23日(日)…	(金)20:00～(日)12:00

＊ただし、第1週は月曜日の12:00まで。＊規制期間中5:00～17:00の間、路線バスを運行いたします。

金沢からの'98白山登山バス時刻表

●お問い合せ／北鉄テレホンサービス ☎(076)237-5115

★夏山　【ゆき】

通行期間	金沢駅 発	野町駅(電車) 発	鶴来駅(電車) 着	鶴来駅前(役場前) 発	瀬戸野 発	白峰 着	白峰 発	市の瀬 発	別当出合 着
6:30 7:1・4・5 11・12	急行6:40	→	→	(7:10)	7:35	8:00	8:05	8:25	8:50
7:18～7:24の毎日	急行5:30	→	→	(6:00)	6:25	6:50	6:55	7:15	7:40
	急行6:40	→	→	(7:10)	7:35	8:00	8:05	8:25	8:50
	10:30	→	→	(11:12)	11:46	12:20	のりかえ 12:25	12:45	13:10
7:25～8:16の毎日	急行5:30	→	→	(6:00)	6:25	6:50	6:55	7:15	7:40
	急行6:40	→	→	(7:10)	7:35	8:00	8:05	8:25	8:50
	急行7:30	→	→	(8:05)	(登山9:20) 8:30	8:55	9:00	9:20	9:45
	10:30	→	→	(11:12)	11:46	12:20	のりかえ 12:25	12:45	13:10
8:17～8:31の毎日	急行6:40	→	→	(7:10)	7:35	8:00	8:05	8:25	8:50

【かえり】237-5115

別当出合 発	市の瀬 発	白峰 着	白峰 発	瀬戸野 発	鶴来駅前(役場前) 発	鶴来駅(電車) 発	野町駅(電車) 着	金沢駅 着
急行12:30	12:45	13:10	13:15	13:35	(13:58)	→	→	15:00
急行12:30	12:45	13:10	13:15	13:35	(13:58)	→	→	15:00
急行14:00	14:15	14:40	14:45	15:05	(15:35)	→	→	16:30
急行11:30	11:45	12:10	12:15	15:40	一里野・中宮温泉経路 (12:58)	→	→	14:00
急行12:30	12:45	13:10	13:15	12:35 13:35	(13:58)	→	→	15:00
急行14:00	14:15	14:40	14:45 19:15	15:40 15:05 (登山19:55)	一里野・中宮温泉経路 (15:35)	→	→	16:30
急行12:30	12:45	13:10	13:15	13:35	(13:58)	→	→	15:00

（　）内は鶴来駅役場前停留所時刻　◎別当出合、市の瀬より一里野、中宮温泉へは瀬戸野でお乗り替えください。

急行停車停留所＝金沢駅～武蔵ケ辻～番林坊～片（◎善のりば）町～有松～野々市中央（元茶屋前）～鶴来駅前（アトリオ前）～瀬戸野～桑島橋詰（金剛閣）～白峰スキー場入口（ジャスコ前）～白峰車屋（役場前）～みどりの村～市の瀬～別当出合

■バス・電車運賃

バス

	おとな	こども
金沢駅～別当出合	2,000円	1,000円
金沢駅～市の瀬	1,780円	890円
市の瀬～別当出合	400円	200円
鶴来駅～中宮温泉	1,100円	550円

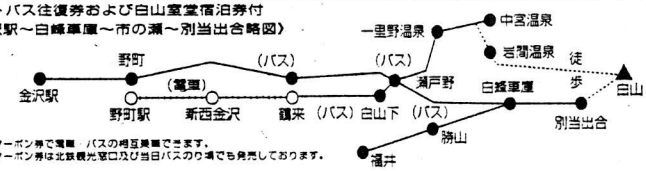
電車

	おとな	こども
野町駅～鶴来駅	460円	230円

■便利でおトクな白山登山クーポン券（要・予約）

電車・バス往復券および白山室堂宿泊券付

〈金沢駅～白峰車屋～市の瀬～別当出合略図〉



（注）クーポン券で電車・バスの相互乗車できます。
クーポン券は北鉄観光窓口及び当日バスのり場でも発売しております。

● 大人／9,800円　● 中学生／8,600円　● 小学生／6,650円

■会員制白山登山定時バス（要・予約）

【予定時間表】

〈期間〉7月20日～8月第2日曜日まで

山間路に付き発着時間に多少の変更及び中止があります。

平瀬駅→大日川登山口	大日川登山口→平瀬駅
9:00	9:55
10:50	11:45
13:00	13:55
14:50	15:45

〔運賃〕●大　人　1,000円
●子　供　500円
●荷　物　300円

荘白川旅館組合　白山タクシー(資)

フリーダイヤル 0120-005-893

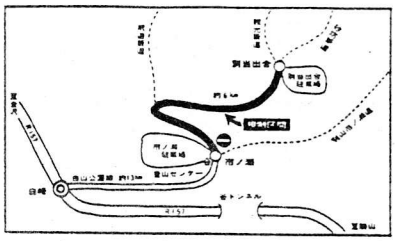
◆交通規制に伴う路線バス運行

区間市ノ瀬～別当出合

運行日　7月18日(土)～21日(火)
　　7月25日(土)～27日(月)
　　8月 1日(土)～ 3日(月)
　　8月 8日(土)～10日(月)
　　8月15日(土)～17日(月)
　　8月22日(土)～24日(月)

時　刻　上記期間中の5:00～17:00の間ピストン輸送します。
　　(ただし月曜日は9:00～17:00)
　　なお、最終下山バス(17:00別当出合発)は、鶴来駅まで運行します。

料　金　大人 400円・小人200円



白山のイベント案内

白峰村　白山まつり
7月17日(金)・18日(土)

尾口村　白山まつり
7月18日(土)（温泉センター天領は当日無料）
白山まつり協賛　小田まゆみ女神展
7月15日(水)～18日(土)　白山一里野温泉ふれあい展示室

吉野谷村　吉野工芸の里フェスタ
8月1日(土)～31日(月)
中宮温泉薬師祭り
8月8日(土)

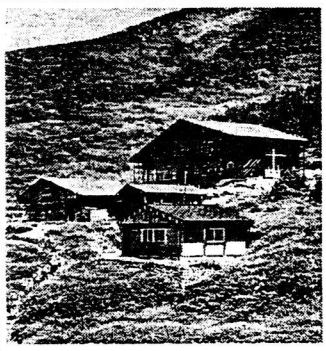
鳥越村　一向一揆まつり
8月13日(木)・14日(金)
手取峡谷ボートレース大会
8月23日(日)

河内村　河内千丈温泉平安祭り
7月25日(土)～26日(日)

鶴来町　サマーフェスタin鶴来
7月25日(土)・26日(日)
鮎フェアin鶴来
7月26日(日)

白山スーパー林道　雪おくりまつり
7月1日(火)　三方岩駐車場
御来光ツアー
7月27日(月)・30日(木)・8月3日(月)・6日(木)

白山文化講座
7月12日(日)・20日(祝)・26日(日)　各午後1時30分　白山比咩神社



雄大な白山に抱かれた……

白山 **南竜山荘**

●開設期間／7月1日～9月30日
●収容人員／150名
●料　　金／1泊2食¥6,300・素泊¥4,300
●T　E　L／(0776)25－0893・0894

●お申し込み・お問い合わせ　予約センター　TEL(07619)8－2022　石川県石川郡白峰村

南竜山荘一帯は高山植物で一杯。

7月・8月は白山盛夏公園の自然が誇る美しいハーモニーを奏でる時期で、特に湿地性のお花畑を持つ盛夏状の南竜ヶ馬場一帯は高山植物、ハイマツの潮海、鳥や昆虫など、自然のすばらしさが満喫できます。

白山で最高のキャンプ場！！

★南竜野営場　約100幕可、駐車、炊事場あり
●貸テント(6人用) 2,200円(予約要)
●毛　布(1枚) 200円　●敷　蒲(1枚) 300円
●清掃料(1人1泊) 300円

登山のあとは、やっぱり温泉！！

★温泉館スプラッシュ
温泉とプール、四季を通じて水と楽しむことができます。ご家族おそろいで、どうぞ。お風呂のみも利用できます。※水着着用で温水浴を楽しむ施設です。貸水着あり。

石川、富山、福井、岐阜 初の連携

環白山ガイド 販売好調

石川、富山、福井、岐阜の四県が初めて連携で企画し、昭文社（東京）が発売しているガイドブック「マップルマガジン 白山」の売れ行きが好調だ。広域エリアのガイドを自治体とのタイアップで一冊丸ごと作るのは昭文社にとっても実験的な試みだったが、地元以外の大都市圏からの反響が予想以上に大きく、〝環白山〟ルートの開拓が新しい観光資源につながる期待を抱かせる。出版に続き、実際のツアー企画に結び付ける動きも始まっている。半面、本格的な商品開発にはまだまだ課題も…。

周辺4県が期待を寄せる環白山エリアの観光ルートづくり。自然の豊かさが魅力だが…＝石川県白峰村で

大きい大都市圏反響

ルート開拓、商品化に課題

同書は昨年三月の発売。自然や温泉、祭りなど多彩な見どころに恵まれた白山国立公園を中心とした地域を対象に、複数県にまたがるドライブコースやキャンプ・スキー場など各所の情報をフルカラーの百四十四ページに満載。アウトドア指向に対応し、初心者用の山歩き案内まで添えてある。

担当する昭文社大阪支社（大阪市）によると、販売部数は十万八千部に達した。これは北陸の各県別ガイドの発行部数のほぼ倍で、十万部を超えればヒットとされる同社のガイドの中でも好調な部類に入る。

部数の半分が地元でその他は東京、大阪、名古屋。自然志向に加え、JRほくほく線開業や安房トンネルの開通など北陸と首都圏を結ぶ交通の改善も影響したらしい。「東京の中高年ハイカーからルートや温泉地に関する問い合わせが来ています」と同支社。

同社が広域エリアのガイドをすべて自治体とのタイアップで作成するのは初めてだが、南九州など他地域でも今後、同じ手法による作成を計画中。環白山の手ごたえが各地の広域ガイド出版につながりそうだ。

関係者によると、白山スーパー林道で結ばれた石川、岐阜両県からまず話が持ち上がり、一九九六年十月に県と関連二十二市町村、四広域観光団体で構成する「環白山観光ガイド作成委員会」を設立。ここが母体となって企画した。

昨秋には、具体的な商品化への第一歩として、観光客の需要を調べるため石川・岐阜両県が互いの県の観光スポットを組み入れた一泊二日の「白山周遊ツアー」を実施。石川側の十回のツアー（定員四百人）には予想を上回る二百六十人が参加、うち九割から好意的な反応が返ってきた。

「一県だけの集客には限界がある。広域的な連携は全国各地でも進んでおり、北陸でも積極的に取り組みたい」と石川県観光推進総室は意気込む。

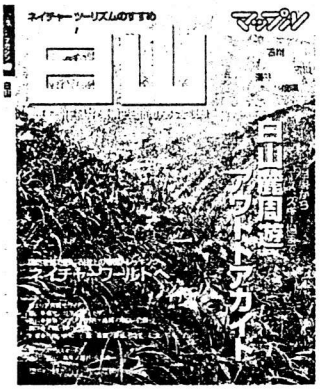
一方、今後のルート商品化には課題も横たわっている。昨秋、岐阜側が募集した試験的ツアーは参加者が多くは集まらず、環白山エリアの知名度が低いことを示した。両県を結ぶ人気コースの白山スーパー林道が通行できるのは六―十一月の半年間だけ。通年型の企画には工夫が必要だ。

また岐阜県観光課は「昨秋のツアーは四県共同でやりたかったが、富山県は立山、福井は海が目玉。各地域の利害を越えて足並みをそろえられなければ魅力あふれるルートは開拓できない」と強調する。

ある大手旅行代理店の企画担当者は、白山周辺だけで一泊以上の商品を企画するだけの観光資源にはまだ乏しいとの見方を示した上で「通年ツアー商品を実現するためには、募集人数に達しない場合でも中止にならないよう費用を支援するなど自治体の協力体制が不可欠」と話している。

試験的ツアーを実施した石川・岐阜両県の関係者は今年三月、話し合いの場を持ち、結果を分析し、全国へ売り込むための方策を検討する。ガイドブックは好調だが、増えるマイカー観光客へのアピールなど、白山の広域観光模索はようやく始まったばかりだ。

（福田 要）



販売が好調の「マップルマガジン 白山」

ほっとくりっぷ メディア

表紙は15期上馬康生氏、山岳ガイドは19期栂典雅氏が担当しています。

北陸中日新聞　1998年(平成10年)4月1日(水曜日)

白峰の「桑島壁」白亜紀前期の地層

新種の亀化石を発見

首引っ込める型で世界最古

うろこ硬いトカゲも

石川県白峰村教育委員会は三十一日、同村桑島に広がる中生代ジュラ紀後期―白亜紀前期（約一億七千万年―一億年前）の地層「手取層群」の一部「桑島化石壁」で平成九年度に実施した調査で、新種とみられる二種類の亀の化石や、よろいで覆われたような体を持つトカゲの化石をはじめとする動物化石約八百点、植物化石約四千点が見つかったと発表した。亀は現代の亀と同じように、首を甲羅の中に引っ込める種類では世界最古とされる。湖や水辺、その背後にあった湿地帯など、異なるたい積層の化石が含まれており、桑島化石壁・手取層群の豊かな生態系もあらためて証明した。（関連記事30面に）

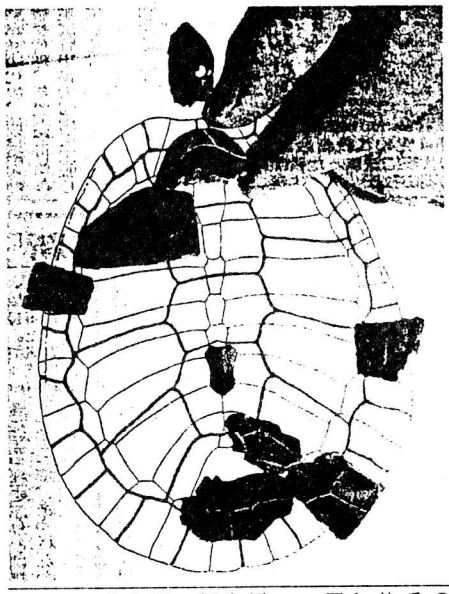
亀類の化石は約三百点が見つかったが、うち新種と分かったのはリクガメ類の一種とスッポン類の二種で、甲羅の一部など約百点。体長はリクガメが約十二㌢、スッポンは大きいもので三十㌢以上になる。

リクガメ類の一種は岐阜県荘川村で二年前に見つかっていたが、標本数が少ないため新種と特定できず、白峰村で見つかった約三十点の化石と照合して新種と判明した。今回の発見によって、当時ユーラシア大陸の海岸部を形成していた日本周辺で、現代型の亀の祖先が生息していたことが裏付けられた。

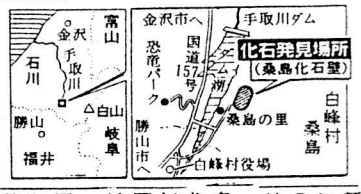
トカゲは後ろ脚の骨盤から足首あたりまでの関節部分の骨の化石や、うろこなど十五点を確認。成長段階の全長約二十㌢ほどで、よろいをまとったような硬い体表をしており、陸上生活していたとみられている。同じ白亜期前期のトカゲ化石は世界でも他に五カ所でしか見つかっておらず、ジュラ紀から白亜紀への転換期の資料として大きな価値を持つという。

このほか今年一月の同村教委の発表で、下あごの歯が見つかったとされたほ乳類型は虫類「トリティロドン類」については、その後の調査で上あごの歯三本と前歯五本も見つかった。

調査は松尾秀邦・金沢大名誉教授を団長に組織された調査団十人によって、昨年五月から実施された。今回の調査対象となった地層は、河川がはんらんした跡（はんらん原）、蛇行した河川の名残である三日月湖など、三種類の場所にたい積した地層と考えられている。



「桑島化石壁」で発見されたスッポンの仲間の亀の化石＝白峰村役場で



手取層群　石川、富山、福井、岐阜県に広がる、中生代のジュラ紀後期―白亜紀前期（約一億七千万年―一億年前）にたい積した地層。石川県白峰村桑島の手取川流域は通称「桑島化石壁」と呼ばれ、昭和六十年に恐竜の歯の化石が発見されて以来、貴重な発見が相次ぎ、昨年五月に「手取川流域の珪（けい）化木産地」として国の天然記念物に指定された。今回の調査は、桑島化石壁の内部を貫くトンネル工事で掘り出された岩石約二万立方㍍を対象に実施。今年一月、同村教委により国内初となるほ乳類型は虫類「トリティロドン類」の下あごの歯が見つかったことが発表されている。

団長の松尾秀邦氏は

ＫＵＷＶ３代目顧問です。

北陸中日　1998年(平成10年)5月25日

「白山禅定道」を復元

市ノ瀬起点に4.6キロ

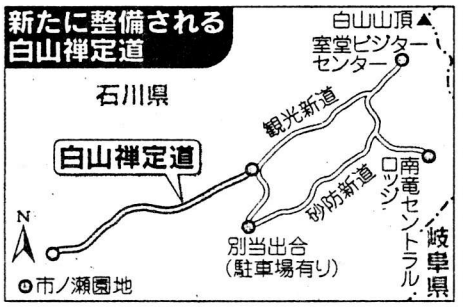
尾根伝いブナ林観察

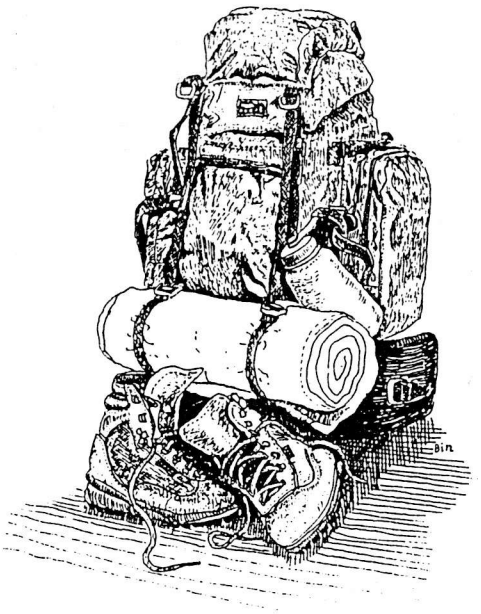
石川県は本年度、白山の魅力を登山者に満喫してもらうため、古くから登山道として使われていた「白山禅定道」の復元工事に着手する。年内の完成を目指し、二十四日までに六月補正予算案に工事費二千万円を計上した。

復元される白山禅定道は道幅一㍍で、市ノ瀬を起点に、鷹松平付近で観光新道に合流する四・六キロの区間。

高度差が大きいことから登りながらスギやブナなどの植生の変化を観察できるほか、尾根伝いを通るため、白山山頂や山腹に広がるブナの原生林を見ながら登山を楽しむことができる。

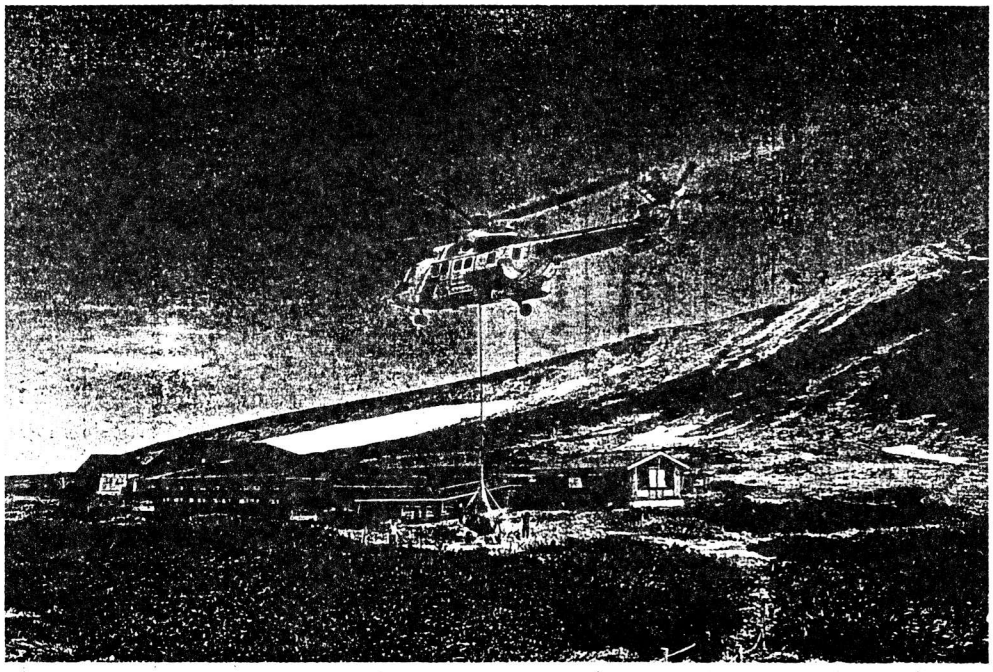
現在の白山登山は、別当出合まで車で行き、そこから砂防新道、観光新道のどちらかのルートを利用するケースがほとんど。このため、古くから白山信仰に使われた市ノ瀬から入る白山禅定道は使われず、廃道状態になっていた。同県環境安全部は「砂防、観光新道に比べ、眺望が優れている。本格的な登山コースとして県民に利用してもらいたい」と話している。





北國新聞 平成10年（1998年）6月8日（月曜日）

食料や医薬品などを運び込むヘリコプター
＝8日午前9時、白山室堂センター



白山・室堂で夏支度

ヘリ、早朝から物資空輸

夏山シーズン入りを前に八日、白山・室堂センターへ物資の空輸が始まり、白山観光協会がチャーターしたヘリコプターが午前四時半から稼働、峰々に回転翼の音を響かせた。

ヘリは白山の市ノ瀬登山口から野菜や医薬品、燃料などの物資をネットでつり下げて、何度も往復した。

この日の室堂センターの午前八時の気温は七度。周囲に積雪はほとんど見られず、山頂に続く斜面はハイマツやナナカマドの緑に覆われており、白山奥宮わきではクロユリがつぼみを膨らませていた。

室堂センターの木下道雄主任は「平年よりも雪解けが一カ月半から二月早い。三十年間、山を見ているがこんなことは初めて」と夏場の水不足に対する懸念をのぞかせた。室堂では防水シートを張って水をため、約四百トンを備蓄しているが、夏場の節水を登山客に呼び掛けることにしている。

6月8日でこの状態です。

０Ｂ会会計報告

（平成９年１１月１日～平成１０年６月３０日）

《 収 入 の 部 》

０Ｂ会費納入	４４３，０００
預金利息	３７６
計	４４３，３７６

《 支 出 の 部 》

０Ｂ会報（やまざと）No.8制作費	７９，６７１
〃　　郵送料	７４，７６０
秋の小屋酒場食費	２，１０９
〃　　備品他	８，８９２
春の小屋酒場食費	９，４８０
〃　　備品他	５，１８１
小屋作業案内等事務局連絡費	４７，６０４
役員会打ち合わせ等費用	２３，８３１
文具費その他	１４，２６９
計	２６５，７９７

《 差 引 剰 余 金 》

前回（9.10.31.現在）繰越金	１，１０８，３１１
収　入　の　部	４４３，３７６
支　出　の　部	２６５，７９７
差　引　合　計	１，２８５，８９０

備考

＊この後、会報９号製作費、郵送費、記念事業参加者への確認連絡費、40周年記念事業歌集製作費、総会報告（会報10号）の製作費、郵送費が支出予定となっています。

＊今期の会計は35周年記念事業残金　７０７，１６９円を繰越算入してスタートしております。

納入報告

35周年記念事業から平成10年６月末までに、当会会計にご納入いただいた方々のご芳名を報告致します。

平成５年３月　35周年記念行事への寄付　一口 5,000円　（名簿、記念誌配布）
〃　　７月　現役より山小屋ＢＨ修復へのカンパお願い　一口 3,000円
６年６月　年会費納入開始　2,000円／年　平成６年－10年分一括納入をお願い
９年１月　部誌ＢＨ33－37号発行資金カンパお願い　1,000円以上

以上のようにこの５年余りの間に実に何度もの懐を痛めるお願いをしてまいりました。お蔭様でそれぞれの目的を達成することができました。改めてお礼申し上げます。

上記のうちご芳名を掲載しましたのは、部誌ＢＨのカンパのみでした。山小屋の方は現役の会計であり関わらずとし、35周年については、一貫して寄付（協賛金）と表現してまいりました。

問題になったのは「年会費」です。これがどの程度会員義務となるのか…。役員会ではこれもお願いのレベルのこととし、未納者の公表は論外として、引き算をすれば間接的に同義となる納入者の公表も控えるべきとしてまいりました。ところが、

＊幾つもの会からの請求がある為、ＯＢ自身が払ったか払わないかがわからなくなってしまった。ＯＢ自身が確認できない不便を生じてしまった。
＊いくつものお願いが重なった為、年会費を払ったはずと勘違いされていたＯＢがあった。
＊払ったことに自分の意志が反映されているのに、その点をうやむやにされていると、不快を示すＯＢがあった。
＊上記の理由から「ＯＢ会会計は不明朗である」の声もあがってきた。

以上の理由により、山小屋修復カンパを含め、すべての領収事実をここに公表することに致しましたのでご了承下さい。

尚、
＊締切期限を大幅に経過していた為、一般寄付金扱いとして処理された場合もあります。
＊35周年時に多額を振り込まれ、年会費相当分も納めたものとされたらしい方も見受けられます。
＊年会費を納入されていない方につきましては、今回会計締め最後の振込票が同封されています。８月10日を最終締切とし、総会での会計報告を行います。
総会後に出される会報内において、追加者名をご報告します。

ワンゲル歌集

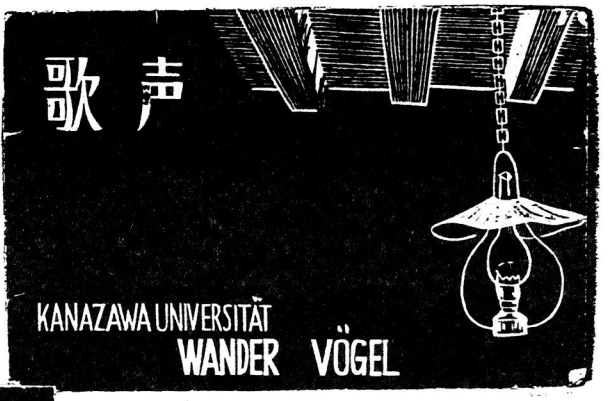
ＫＵＷＶ創部40周年記念品は、ワンゲル歌集復刻版としました。40年の歴史を踏まえ、活字は大きめ（老眼対策！）。携帯版というより、愛蔵版。40年歌いつがれた歌と、その時代を反映する歌を選曲中です。

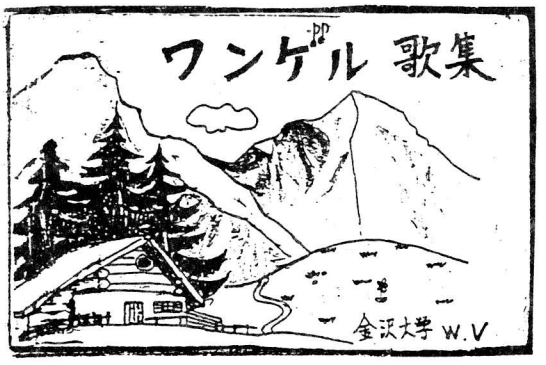
表紙は会報と同じく、21期竹中　敏さんにお願いしました。また、歴代の歌集の表紙は中表紙として再使用。懐かしんでいただけたらと存じます。

歌集は、40周年総会にて配布しますので、懇親会にて早速ご利用下さい。欠席の方へは会報（総会報告号）に同封し配布させていただきます。

歴代歌集の表紙収集につきましては、各期代表の方にご協力いただきましたが、未回答の方、紛失、記憶なしの方もあります。以下掲載以外の歌集をご存じの方、至急ご連絡いただけますようお願いします。

A…歌声　　1－5期
B…ウタウタウタ　　－9
C…ワンゲル歌集　9－20
D…ワンゲル歌集　20－
E…ワンゲル歌集　23－34





ＯＢ会総括 並びに 第Ⅱステージに向けて

事務局長　舟田　節子

５年前「ＯＢ会を作ろう！」と、部室に「35周年記念誌編集委員募集」の張紙を出し、その一方で「発起人依頼」をおぼしきＯＢの方々に発送し、35周年記念事業実行委員会を立ち上げたのは、この私でした。ＯＢ会設立後は、事務局長兼「やまざと」編集長として、ＯＢ会の中枢ともいうべき立場にいましたので、会長をさしおき、総括をまとめさせていただくことにします。

＜35周年からの５年の総括＞

平成５年８月21日、総会・懇親会が石川県厚生年金会館にて開催され、ＯＢ会会則、役員が承認されました。

あの時、蒲原さんの剣岳事故の体験から、現役をサポートできるシステムを整えたいの気運もあり、角間へのキャンパス移転を目前にして、「ＯＢ会を作りたい」は多くのＯＢのコンセンサスとなりました。現実に総会に参加したのは全ＯＢの５分の１です。全ＯＢに総会開催を知らせ、それで集まったＯＢ達に承認された 会則、役員により、このＯＢ会を運営する…さしあたり公正な手順を経たものと思います。

そうやって、誕生したものの、残る５分の４のＯＢ達にもそれが受け止められていくのか…その時点では何の見通しもたちませんでした。

「どれだけのＯＢが賛同してくれるのか？」

「何ができるのか？」

「どんな企画に、どれだけのＯＢが参加できるのか？」

本当に５年後までもちこたえられるのかすら判らないままに、年会費納入のお願いが始まりました。

そんな暗中模索・実績無しの会にもかかわらず多くのＯＢの方々から５年一括の会費が振込まれてきました。それらを何よりの基盤・支援として「５年もちこたえる」の課題を乗り越えることができました。有り難く感謝しております。振込率は８割に達し、ほぼ全ＯＢの正確な連絡先が把握され、会の骨組を整えることができました。

この間に、会報９冊と号外が発行され、40周年記念としてワンゲル歌集を今再編中です。

現役に対しては、部誌ＢＨ33－37号の発行資金をカンパしました。35周年総会とあわせ山小屋補修カンパも行い、３年にわたる補修作業の資金となりました。高三郎の登山道補修に対し、金沢市からの補助金がおりるよう働きかけ、部のバイトとして年間30万円が確保できるようにもなりました。

補修作業完了を記念してＢＨにて月見の宴を開催し、その翌年からは小屋酒場が始まり、小屋の整備がＯＢの手で楽しく行われています。重複しますが、登山道修復の手も今春ついに頂上に達し、高三郎は整備された山に復活しました。

ここまでの実績を上げられたことを、ＯＢ会員の皆様に深く感謝します。その分、多大の負担をこなすことになった役員の皆様には、どう感謝していいかわからないほどですが、人からの評価というより自己評価においておそらく満足がえられたものと思います。

＜第Ⅱステージに向けて＞

以上までなら、シャンシャンといきたい所ですが、実の所はいくつもの問題が出てきていました。５年前はＯＢ会がなかったから、ＯＢ会ができてさえくれれば良かったのです。

ＯＢ会ができて、個々のＯＢが把握されてくるにつれ、40年の歴史、500 人のＯＢの考え方の違いも明らかになってくることになりました。

ＯＢ会ができたこと、いろいろな企画が出されたことで、かえってワンゲル時代と現在との距離にはっきり気付いたＯＢもありました。

「ＯＢ会とは何だ」

「ＯＢであることと、ＯＢ会員であることはどこまでオーバーラップするのか」

「役員はどこまでの義務があり権限があるのか」
「会員にはどこまでの義務があるのか」
「会費は寄付レベルなのか、それとも納付義務なのか」
などに、全体優先の代、中庸の代、個人優先の代、それぞれの意見が出てきて、どうにも収拾がつかなくもなりました。

曖昧にスタートせざるをえなかった第Ⅰステージ。第Ⅱステージは、よりOBの現状にあわせた形態を…とそう願ったものの、それぞれに正反対の意見があるのです。

その上に、何よりの失望は、役員の成り手がいないという現実でした。本当に頑張ってくれた役員達。それなのにいざ引き継ごうとしたら、役員達だけが浮き上がっていて、やろうという人が出てこない。

そのあげくにやりすぎだとか、諸々の活動が良いOBと悪いOBに差別することだとか…私は一時は切れて、「こんなOB会つぶせばいい！」にもなったのです。

そんなご乱心を経て、結果的には事務局長を継続することになり、OB会会則もほぼ継続となりました。

事務局に届いた意見はすべて役員会に公表し考えてみました。会費ランクを分けるもの、会員待遇にいくつかのケースを分けるもの、入会意志の確認など…それらは一部の方にはある程度の納得のいく現状にあった方式であっても、もっと大きな弊害を会全体にもたらしてしまいます。つまり、「分ける」ということは、OBの現状を考えれば、より疎遠の方向に流されることなのです。いつでもいわゆる「正会員」に復帰できる、なりたい時からOB会員になれると規定しておいても、一旦関わりを細くし、断絶してしまったら、ほとんど戻ってこれない。結局一律に会員になっていただき、定期的にコンタクトを取る。コンタクトさえとっていれば機会に恵まれた時に、総会なり行事に参加できるだろう。いつでも参加できるOB会とするなら、ただ一種の会員、ただ一種の会費しか設定のしようがないのだと、役員達は確認しました。

・会則はアバウトでよい。具体的にどう対応していくかは、役員達が最善と思うやり方とする。
…会費納入と会員待遇はどの程度対応するのかや、未納者はどうするのか等は明記しません。
・OB会を育てていきましょう。その為に協力していただきたい額として会費をお願いする。
…一律とする。現役からOBへの移行の際のみ特例となる。
・卒業した方はすべてOBであって、役員の側から分別は一切しない。
…何故強制されるのか。勝手に会員にされるのは迷惑との意見もありました。この種の受け止め方の違いは、もう仕方がないと思います。

以下にOB会会則を再掲します。第5条が実数に合わせ変わるくらいです。

また、会則上の変更はありませんが、同期代表の方には、同期の住所変更のチェックをはじめ、同期のまとめをお願いすることになります。次の5年、同期代表をお引き受けいただけるのかのお尋ねを出します。

次期役員候補者は以下の方々です。

会長	奥名　正啓（15期）		
幹事	北川　隆次（16期）	岡部　伸一（18期）	
	栂　典雅（19期）	久富　象二（20期）	
	深田　進（20期）	森　恵利子（22期）	
	名倉　均（23期）		
会計	鳥越　伸博（23期）		
事務局長	舟田　節子（15期）		
小屋酒場オヤジ		辰野　隆義（13期）	

以上の運営方針と新役員を、総会にてご承認いただきます。

異議、提言のある方は、まだ審議の時間がありますので、事務局までお知らせ下さい。

金沢大学ワンダーフォーゲル部
ＯＢ会会則

第一条（名称）
本会は「金沢大学ワンダーフォーゲル部ＯＢ会」と称する。（以下，本会と称する。）

第二条（構成）
本会は金沢大学ワンダーフォーゲル部に所属した卒業生で構成する。

第三条（目的）
本会は会員相互の親睦をはかるとともに，現役部員の幅広い活動環境の維持を支援し，もって金沢大学ワンダーフォーゲル部の発展に寄与することを目的とする。

第四条（行事）
本会の目的を達成するため，次の行事を行う。
一．会誌の発行
二．会員名簿の整理
三．記念行事
四．その他，目的達成に必要な諸行事

第五条（役員）
本会の目的遂行および運営を円滑に行うため，会員相互の互選により，次の役員を置く。
役員の任期は五年とし，再任を妨げないものとする。

会　長	一名
副会長	五名
事務局　局長	一名
会計	一名
局員	若干名

事務局局員のうち二名は原則として現役部員より選出する。

第六条（連絡員，運営委員）
本会の円滑な運営のため，会長の委託により各期一名の連絡員と，若干名の運営委員を置く。

第七条（顧問）
本会の運営に必要な指導と助言を仰ぐため，顧問を置くことができる。

第八条（機関）
本会に次の機関を置く。
一．総会
二．役員会

第九条（総会）
総会は五年毎に開催するものとし，会長がこれを召集する。総会では以下の事項を決する。
一．本会の会計に関する事項
二．会則の改廃に関する事項
三．本会の行事に関する事項
四．役員の選出
五．その他，本会に関連する諸事項
なお役員会の決定により，会長は臨時に総会を召集することができる。

第十条（役員会）
役員会は第五条の役員をもって構成し，本会の運営に当たるため随時開催できる。

第十一条（役員の補充）
役員に欠員が生じた場合は役員会にて補充する。
補充役員の任期は前任者の残任期間とする。

第十二条（会費）
本会の経費は会員の治める会費と寄付金をもってこれに充てる。
会費は年間二千円とする。
ただし，役員会において必要と認めた場合は臨時会費を徴収することができる。
なお現役部員の部活動にたいし，役員会の決定により，その費用の一部を本会の会費より充当することができる。

（付則）
本会則は平成五年八月二十一日より実施する。
本会の事務局は事務局局長宅に置く。

ＯＢ会役員会の活動経過とＯＢ関係情報

（#は日時の確定していないもの）

11月20日　代表連絡員に転居先不明者住所の問い合わせ

12月６日　会報８号印刷製本済（プリントショップ多田）

12月８日　会報８号発送（舟田）

平成10年

１月10日　北陸地区ＯＢ新年会　あまつぼ
（前田顧問　０期田村　３期北　５期稲葉　７期村田　13期大島　13期辰野　13期吉田　15期奥名　15期舟田　18期椿川　18期岡部　20期久富　23期名倉）

１月12日　ＯＢ会役員会通信NO.1発送（舟田）

１月29日　ＯＢ会役員会通信NO.2発送（舟田）

２月５日　ＯＢスキー合宿第１報発送（舟田）

３月２日　医王の里　９月12－13日予約

３月13日　ＯＢスキー合宿案内発送（舟田）

３月20－22日　ＯＢスキー合宿in野沢
（０期田村　11期青柳　11期上村　11期森川　13期辰野＋友祐君　15期松林＋美乃里さん　15期奥名　15期舟田　19期早川＋家族３）

３月26日　ＯＢ会役員会通信NO.3発送（舟田）

４月２日　各期代表連絡員に、住所チェック、未納者へのフォロー、歌集チェックを依頼（舟田）

４月６日　現役へ余色立体地図寄贈（11期長岡）

４月16日　ＯＢ会役員会通信NO.4発送（舟田）

４月22日　ＯＢ会役員会　ココス元町店
（13期大島　13期辰野　15期奥名　15期舟田　16期北川　19期梅　23期中川　現役主将佐藤　副将谷本）

４月27日　ＯＢ会役員会通信NO.5発送（舟田）

５月１日　春の小屋酒場案内発送　38名（舟田）

５月５日　ＯＢ会役員会通信NO.6発送（舟田）

５月18日　40周年実行委員会
（18期椿川　18期岡部　19期梅　20期久富　20期深田　22期森　23期中川）

５月23、24日　春の小屋酒場
旧道（分岐－頂上）補修　トイレ基礎工事
（０期田村　13期辰野　13期大島　13期吉田　15期上馬　15期坂尻　15期舟田　16期北川　16期清水重　18期椿川　19期梅　20期久富）

５月28日　ＯＢ会役員会通信NO.7発送（舟田）

５月30日　次期体制打ち合わせ（奥名　舟田）

６月１日　ＯＢ会役員会通信NO.8発送（舟田）

６月２日　スポーツ振興課へ作業報告（舟田）

#　40周年企画書作成（梅）

６月20日　役員会　ココス元町店
（０期田村　13期大島　15期奥名　15期舟田　18期椿川　19期梅　20期久富　20期深田　23期名倉　23期鳥越）

#　納入報告リスト作成・ＯＢ会名簿作成
宛名ラベル作成（名倉）

#　会計報告作成（鳥越）

#　印刷（プリントショップ多田）

ＯＢ一言通信

（○…春の小屋酒場案内希望者）

＊前田　達男　　顧問　　○

金沢大学公式ホームページ専門委員会の仕事もしています。ワンゲルＯＢ会でのホームページを開いて頂けるなら、しかるべく所（「卒業生のページ」「「（サークル紹介）ワンダーフォーゲル部」）からリンクを張りたいと思うのですが…。

＊田村　昭夫　　0期　　○

（年賀状より）

明けましておめでとうございます。

それ以上におめでたいのは国会に巣食う政治屋達と霞ケ関の木ッ葉役人共です。彼等は現在の様な経済、情報の国際化の進んだ時代に、自分達が無用の存在になったことに気付いていません。

郵政省は年賀はがき売りで辛うじて食い繋いでいます。郵政省をツブす一手段として年賀状を皆が出さないことです。従って私の年賀状は今年で廃止させていただきます。皆様の御協力をお願いいたします。

…離島のすすめ…

皆さん、魂に皺の寄った人々と観光業者だけを残して日本島を脱出しましょう。国の機能を失った日本民俗は世界に離散して生きるしかありません。

孤島に異常繁殖したねずみが離島して、死中に活を求める様に。

＊佐古　文男　　2期

長い間御無沙汰していた山歩きを再開しました。

＊北　正昭　　3期

＊江竜　喜史　　3期

＊森島　稔　　4期　　○

やまざと８号の内容は実に味の濃い読みごたえのあるものでした。ご苦労に感謝します。

当方は平成４年以来、５年にわたる増設プロジェクト（発電機 330万kw）が完了し、火力発電所として日本最大（470万kw）規模になりました。長い登山？でしたが、満足です。５月を楽しみにしつつ、鍛えます。

（別便）

今年は桜が早く咲いたと思っていたら、梅雨も早まったようによく降ります。

いつもこまめに連絡をいただきありがとうございます。そして、春の小屋酒場のお誘い状ありがとうございました。

ご返事が遅くなりましたが、欠席の返事を出すことになってしまいました。

お誘い状の一行「社会人・家庭人のＯＢともなりますと、直前になるまで予定もたたないもの…。…」は名言であります。そのうえ、予定が確実になり確定する頃はほとんどが、より圧力の高い方が遅くやってきて、結果は断念の方へと導くのです。マーフィーは成功の法則ですが、今の我々には「遅くなる程断念に導かれる」という不成功の法則になってしまいます。

小生も現職場の川越火力発電所で６年になり、６月末には転出することになる予定ですが、その先は人が決めてくれることで未だ見えていません。その先が、緩やかな世界か、さらに多忙の生活か、いずれになりますやら。

でも、小屋酒場への憧れを持ち続け、そのためにボトルキープとして同封しておきます。とりあえず飲んでおいて下さい。空になったら入れてもらえればいいですから…。

皆さんによろしく。天候にも恵まれますように。　　5月10日

＊金岩　孜　　5期

ご案内をお送り頂き感謝しています。年末腰を痛めてしまい、山からはますます遠ざかってしまっています。

経済環境も厳しく、十分な支援も難しくなってきました。（年齢が年齢な為）。その辺り、ご理解の程。

＊大崎　進　　6期

1997年に行った山

5月（福井）三周ケ岳、夜叉ケ池

9月（栃木）奥白根山

その他　福岡県内の山々

＊小出　義夫　　6期

本当はそんなに忙しくないのに、「忙しい」ことを口実に、すっかり山歩きから遠ざかっております。私の愛車（スバルレオーネ　四輪駆動）も今やクラシックカーといえる年代モノになりましたし、私の山小屋（？静岡県県立公園の1100m地点にある）も同じ年代モノで、すっかりボロとなりました。

＊上野　善美子　　6期

いつもありがとうございます。金沢を離れて××十年、なかなか参加できませんので、種々の催しの案内はご不用に願えればと思っています。

＊合津　尚　　6期　　○

（別便）

ＯＢ会の件、毎度お世話になっております。

（事務連絡省略）

9月の40周年大会の時に確認してみてはどうかと思いますが、連絡形態を親子状とすること

（ＯＢ会事務局 ― 各期代表 ― 個人会員
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　個人会員
　　　　　　　　各期代表 ― 個人会員
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　個人会員）

も検討してみて下さい。各期の代表が受け入れるか、代理をみつければ可能と思います。

＊中川　皓三郎　　6期

（転居通知より）

桜の花が咲き、一挙に春がやってきた感じがします。皆様お変わりありませんでしょうか。

ところで、私は、この三月で学院をやめ、この四月から大谷大学短期大学部で学ばせていただくことになりました。自分自身でも意外な展開に驚いているのですが、一から学ばせていただこうと思っています。

二十四才の時、どうしても生きていけなくなって、それこそ駆け込むように入れていただいたのが、この大谷専修学院でした。その入学式の時、信国先生が宮沢賢治の「世界ぜんたいが幸福にならないうちは、個人の幸福はありえない。」という言葉を引かれて、私達一人一人が親鸞上人に教えられて、日常的自己から世界的自己へと新しく生まれ変わることを果たし遂げることが、この学院の使命だと話されたことを今も覚えています。

それ以来、三十一年の学院生活でありました。新しく移ります大谷大学においても、信国先生のお心を憶念しながら生活させていただこうと思っております。

よろしくご指導お願いいたします。

平成10年4月

＊村田　泰恵　　7期　　○

1－8期で他に出席者がいますか。もしいましたら、E-mail 等でお知らせいただけると嬉しいんですが…。

＊飯田　利之　　7期

前略。毎号、懐かしく拝読しております。当誌発行等で、ＯＢ会役員の方々のご苦労いかほどかと推察すると共に、心より感謝致しております。

皆様方の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

＊中山　美津枝　　7期

（ご夫妻連名の年賀状から）

白山、鞍掛山、富士写ケ岳、鳴谷山、大日山（以上石川県）ホノケ山、赤兎山、鷲ケ岳、大長山、大師山、吉野ケ岳（以上福井県）甲斐駒ケ岳、白馬三山（長野県）僧ケ岳（富山）

北陸百山踏破も半分以上きました。教職終了までには完登できたらと思っています。そして、その後は深田久弥さんの日本百名山挑戦と夢を

描いています。

昨年2月14日に生まれた孫の太郎が可愛くてなりません。みんなから「おじいちゃん」（おばあちゃん）と呼ばれるのにも慣れてきました。こうして、ほんもののおじいちゃん（おばあちゃん）になっていくんだなあと思っています。

本年もよろしくお願いします。

＊篠島　益夫　　8期　　○

（E-mail にて）

ＯＢ会ではいつもお世話になり、厚く感謝します。春の小屋酒場の件、舟田さんよりご案内頂きました。残念ながら時間の調整をつけられず、参加できません。

当社グループは全て3月本決算の為、5－6月にかけ関連会社と当社の株主総会が続きます。23日も高知パナホームの総会が重なり、残念な次第です。6月には法文経済同窓（10期卒）の先輩である田尻氏（現当社専務、金沢市高尾町）が株主総会にて社長就任予定であり、後輩としても気の抜けない時期でもあります。

舟田さんにもよろしくお伝え頂くとともに、ご参加の皆様には日頃の煩わしさを忘れた一時をお過ごし頂くよう、祈念申し上げます。

5月6日

＊穴田　昭一　　8期　　○

新年会は何時から、どこでやりますか。懐かしい顔が見られそうで行きたいけれど、ちょっと無理なようです。残念！

春の山小屋酒場、行きたいけれど、これも無理かなあ…。計画が具体化したらお知らせ下さい。

「やまざと」編集者の苦労を感謝しながら読ませていただいております。ありがとう。

＊永谷　洋三　　8期

＊黒崎　史平　　8期

久し振りに白山へ行きたいと思いつつ、時々希産植物の調査の為、兵庫県の低山の谷間をうろついています。

＊吉田　幸造　　9期　　○

（E-mail にて）

いつもお世話ご苦労様です。5月23、24日はセミナーがあり欠席させていただきます。

前回のはがきで9期谷道の住所変更を連絡しましたが、又自宅を建てたらしく、再度変更して下さい。

私は何年ぶりかで、鈴鹿・御池岳へカタクリを見に登りましたが、足腰が痛く、歳を感じています。小屋酒場盛況を祈っています。

平日いつも見るアドレスは

ko.yoshida@screen.co.jpですので、よろしく。

＊清水　一　　9期

1998年3月1日で退職予定

＊平村　耕作　　9期　　○

やまざと8号ありがとう。楽しく読ませていただきました。

来年は創部40周年になるとのこと、すごいですね！総会など楽しみにしています。

＊白井　勇　　9期

拝啓　お手数おかけ致します。谷道兄の新住所下記のとおりご回報申し上げますのでよろしくお願いします。

もう40周年ですか。楽しみにしています。今から足腰のトレーニングに心懸けさせていただきます。

＊伊藤　俊成　　9期

あれからもう5年。

こんなハズじゃなかったのに…デキの悪い（会費は未納、寄付は忘失、行事への意志表示は白紙etc）ＯＢの代表格になってしまい、誠に申し訳なく思っています。

自然体ではダメ。かなりの努力が必要と認識を新たにしました。さあガンバルぞ…。

＊伊藤　博道　　9期

「やまざと」ありがとう。
1997年は経済・金融面とも大変厳しい年でしたが、98年は少しでも回復するよう願っています。後輩の皆さんのますますのご健闘を祈ります。なお、97年6月末から、クレジット会社に勤務しております。（98.1.1記）

＊島林　仁司　　10期

遅くなりました。この所腰の調子が悪く、最後まで迷っていました。春の小屋酒場までには回復するでしょう。3年目ですね。

＊森川　功　　11期

40周年はやはり白山でやってほしい。準備はたいへんだろうが。南龍の小屋泊まりにしてもいいのではないでしょうか。

＊上村　入史　　11期

残念ながら、山行きとはすっかり縁遠くなってしまいました。

私の故郷の岐阜県の山奥で、長良川、庄川、九頭竜川流域ネット（ＮＳＫ流域ネット）を運営することになりました。越美南線（現長良川鉄道）と越美北線をつなぎ福井から岐阜までという、国鉄の果たせなかった夢を、ネットでつなごうというグループです。http://www.nsk.org/をのぞいてみて下さい。活動中、自然保護問題を避けてはいられなくなりました。長良川源流の自然保護を応援する予定です。
http://www.pipi.net/nagaragawaです。

＊小山　清　　11期

お世話ご苦労様です。来年は創部40周年ですが、ますます増えるＯＢ会員に対して、連絡される手間も大変だと思います。ＯＢ会を永続させるためにも、

Ａ会員…すべてを連絡する

Ｂ会員…「やまざと」を送るだけ

に区分するのはどうでしょうか。

＊長岡　正利　　11期

いつもご返事を致さねばと思いつつ、ついそのままになってしまい、申し訳ありません。

年末の確か29日に、晴間を幸いに白山麓を廻ってきました。暖冬が幸いして、かなり奥まで車が入り、かつて訪れていた出作りの地、河内谷、五十谷、赤岩など懐かしい地を、この冬の季節に歩けることが夢のようでした。

その帰路、手取川ダムから鷲走ケ岳への林道を辿りました。さすがに上までは到達できなかったものの、丁度白抜山の下辺りで、笈ケ岳、大笠山の、夕陽を一杯あびた姿が、何か別世界の山々を見ているようでした。

＊津田　伸生　　12期

住所が変わりました。

＊野村　益己　　12期

＊大島　良治　　13期　　○

＊吉田　穂積　　13期　　○

＊柴田　茂樹　訓子13期　　○

＊仁藤　早苗　　14期

4年間住み慣れた北海道を離れ、三重県に来ました。鈴鹿山脈の左側二つの山が食堂から大きく見え、雪が降った次の日の快晴には光り輝いてとてもきれいでした。回りは伊勢茶で有名な茶畑が点在しています。今は鶏のお世話をしています。緑餌、餌やり、集卵と大忙し。鶏糞は堆肥となって、近所の茶畑にまかれます。

＊奥名　正啓　　15期　　○

田村さんが穂積さんと白山に出向いた際、食当たりに苦しんで、その原因が、ベルクハイムに保管されていた桑の実酒ではないかと疑われています。私は一人暇にまかせて少々いただきました。その後別段異常は見られませんでしたので、無実であると思っています。

（桑の実酒弁護人より）

＊間所　新一　　15期　　○

毎回やまざと、楽しく読ませて頂いています。山から遠ざかっている身に、又、山への気持ちを呼び起こしてくれます。今は横浜と、ＢＨからはちょっと遠いのですが、機会をみて、小屋酒場是非参加したいなあと思っています。

まずは今回のやまざとの送付、ありがとうございました。

＊松林　知一　　15期　　○

「やまざと」ありがとうございます。
この秋せっかく買ったゴアの山靴も、小屋酒場へ行った以外は出番がありません。来年こそはフルに履けるよう、この冬はせいぜいスキーで足腰をきたえたいと思いますが、どうなりますやら。

（前号に、楽しい楽しい「山小屋酒場」へのお誘いをしたため、続くＯＢスキー合宿参加と、着々ワンゲルＯＢ編の実績を伸ばしつつあった彼は、小屋酒場１週間前にご尊父様逝去。やむなくの不参加となりました。　合掌）

＊松縄　宏　　15期　　○

いつも楽しく拝読させていただき有り難うございます。情熱のこもった紙面に、責任者の方々のご苦労拝察いたします。ご自愛専一の程お祈り申し上げます。

（別便にて）

今回の小屋酒場のご案内拝受し相当思案いたしました。小生の山小屋を訪ねたいという願望は日をおうごとに強まるところですが、運悪く部下が前の日まで結婚休暇で休みのため、小屋酒場の翌月曜日を小生が休むと、会社の仕事に相当影響を与えてしまうのです。そこで今回はお休みにして、近いうちに月曜日を休暇にして一人で倉谷を訪ねてみようと考えています。いろいろと心配をお掛けしましたがご容赦下さい。小屋酒場にお見えの方にくれぐれもよろしくお伝え下さい。　　5月17日

＊坂尻　忠秀　　15期　　○

やまざと８号ありがとうございます。年々歳々１年の過ぎていくのが速く、思わぬ我が身体の変調に驚くことも…。でも気持ちだけは、張りを持って生きたいと思っています。

40周年でまた多くの人と会えることを楽しみにしています。

＊祖父江　直久　　15期

「やまざと」熟読させていただきました。編集の大変な作業をひしひしと感じました。

小生２年前に整形外科医院を開業しましたが、医療界ももはや右肩上がりの時代ではないので毎日苦心しています。

＊三宅　毅　　15期

＊宇野　潔・和子　15期・17期

2000年への序章。さらなる飛翔か、停年への助走か…今年もよい年でありますよう心よりお祈り申し上げます。

潔…ＢＨの様な別荘と、高三郎に登った体力が欲しい

和子…子供の学費と、贅肉の無い体が欲しい

（E-mail迄の経緯。昨夏伊吹山で、清水氏が、白山－ＢＨＰＷの思い入れこもる赤布を、是非是非高村夫人に受け取って欲しいとの事。それで秋の小屋酒場でＢＨから外してきて、千佳子さんに送り、コピーを作ってと頼んでありました。汚い字にコピーするのがたいへんだったようですが、完成し送付してもらいました。

どうせならと、ご近所の宇野氏に高村さんを誘って小屋酒場に飛入り参加せんか？と案内を送ったその返事）

（E-mail にて）御無沙汰しています。節ちゃんから、小屋作業に高村さんを誘って是非来いとの手紙をもらいました。

高村さんに連絡を取った所、沙織里ちゃんの調子が悪く（高熱の風邪）て行けないとの返事をもらいました。こういう事情なので、行く気

力が失せてしまいました。六甲山の代替で良しとするかと思っている所です。

晴れる事が保証されて、働かなくても良ければ考えなくも無いです。…思案中…5月19日

＊高村　千佳子　　15期

（私信より）

今年は桜の開花も早いとのこと。もうすぐ春ですね。

赤布、去年の暮れには出来ていたのですが、半分を水性ペンで書いてしまって、もう一度油性で上から書こうと思っているうちに今日になってしまいました。

3月21日に山小屋に行かれる（注；スキー合宿との勘違い）と聞いていたのでその前までにと思いながら、まだ時間があると思っているうちに2月も過ぎ、3月に入ってしまいました。本当に言い訳ばかりでごめんなさい。

いつもお世話になりすみません。どうぞ2代目の布、山小屋にお掛け下さい。また機会があれば、私達も現場で見てみたいと思っています。

この前は、家の近く、といっても山道ですが、往復3時間くらいを友達と歩きました。2月だったんですが、冬の山っていいですね。初めは少し寒いかなあ…と思っていましたが、そんなに汗もかかないし、歩き易かったです。これからも時々歩こうとその時は思ったんですが、まだ歩いていません。

では本当に遅くなり、ごめんなさいね。よろしく！

（山小屋で食べて下さいと送られてきた神戸クッキーの方は、3月21日の日付のみ遵守でOBスキー合宿の差し入れに転用致しました。陳謝してご報告申し上げます。）

＊上馬　康生　　15期　　○

体調は少しずつ回復に向かっています。春の山小屋へは行けるようになりたいです。

（E-mail にて）

ワンゲルOB会ご苦労様です。手伝えることがあれば言いつけて下さい。

おかげさまで少しずつ体の調子が戻ってきました。小屋作業に倉谷組として参加します。23日朝8時に車で工学部に行きます。1年3か月ぶりの山歩きで、物も担げず、作業もあまりできないと思いますが、とにかく新たな一歩を踏み出したいと思います。　　5月5日

＊舟田　節子　　15期　　○

エルニーニョ現象の余波…いつもならラッセルしての医王山の納山会。雪がなかった替わりに、なんと管理人がいた！（医王の里のこと）

登山道有料論者の私としては、管理料を払うのはやぶさかではございませんが、共用公示期間外に見つけた！とばかりやられたのはムム…でした。（しかも、水もトイレも使った訳でもなく、使えた訳でもない！）たかが100円でゴタゴタするのも心が汚れる…と、払ったけれど、（おまけに、40周年行事の候補地だもの。マークされる訳にはいかない）…管理人の見回りもしない登山道のゴミ拾い、整備もやっている身にはカチン！のできごとでした。

お金で、労力で、いろいろあることを、管理料の定規だけで計られるのも…。自然は誰のもの？みんなのもの！…でも、方法論が見つからない…。

＊金森　広　　16期

神戸から東京に戻って4年になりました。このまま東京に居そうです。

山小屋酒場…いいですね。20数年前のあの頃に戻れそうです。でもなかなか参加する機会がなくて残念です。

＊山田　容子　　16期

なかなか出席できず残念です。「やまざと」発行、ご苦労様です。毎回なつかしく読ませて

頂いております。ついこの間のようでいて遠い思い出…年月の過ぎるのは早いものです。

＊井上　敏明　　16期

＊北川　隆次　　16期　　○

秋は参加できませんでしたが、来春はまたよろしくお願いします。

＊山内　政司　　16期

今年こそはと毎年思っているのですが…本当に今年はＯＢ会行事に参加したいと思っています。

＊清水　重仁　　16期

今回は特にありません。

＊長田　正文　　17期

先週ＯＢ会の郵便振替口座に３万円送金いたしました。自分では会費を滞納したつもりでおりましたので、その分と今後の年会費をあわせて10年分に充てていただければ幸いです。（年二千円×10＝２万円と計算しました。年会費改訂があれば別途払います。）

残余の１万円は事務局で会合時の茶菓代にして下さい。

今でも年に数回は登山・ハイキングを続けています。特に夏は家族を引き連れ、テントを担いで北アルプスに登っています。いつもＯＢの方や現役の姿をテントサイトで探していますが、なかなか会えません。いつか山で懐かしい人に出会いたいものです。

＊横井　恒雄　　18期

ＯＢ会運営でご苦労様です。久し振りに返信を送ります。毎日の仕事に忙しく、返信も出せずに大分時間が経ちました。出さないと出しにくくなるのも事実であります。

今年は40周年総会が開かれる由、もし転勤していたら出席できるかもしれません。よろしくお願いします。

＊森　博彦　　18期

＊津島　直也　　18期

12月より小松- 高松便の航空路が新設されて、３時間もあれば金沢へ行けるようになりました。学生時代は連絡船に乗り、米原回りで８時間かかっていましたが…。

＊椿川　利弘　　18期　　○

正月は家族でスキーに行きます。

＊栂　典雅・睦美　19期・21期○

今年は心機一転、山に復活します。

＊佐野　吏　　19期

「今年の夏こそは金沢に行くぞ。」と思いつつ年賀状に、今年も添え書きしています。

＊深田　進・厚子　20期　　○

＊久富　象二　　20期

昨夏北海道マラソンで惨敗してしまったので、もう一度挑戦してみようと思っています。

＊竹中　敏　　21期

星野道夫がクマに襲われて亡くなったこと、それに、ジョン・デンバーが亡くなったことがショックでした。

先日「ガイヤシンフォニー第３番」という映画を見ました。星野道夫の自然な生き方がいいと思いました。

＊加藤　万里子　　21期

＊安達　敦子　　22期

＊黒崎　敏男　　22期

やまざと第８号楽しく読まさせて頂きました。事務局の皆様いつもご苦労様です。

＊森　恵利子　　22期

同期青木さんの住所です。

いつも案内ありがとうございます。敏さんの挿絵に山への想いをつのらせています。

＊中川　晃成　　23期　　○

めでたく「クビ」になりました印刷担当。やっぱり、すばやい仕上がりときれいな印刷の方が良かったと思います。これまでの度重なるご迷惑（遅い印刷）は、次回の原稿を約束するということで、お許し願います。

早いもので40周年の年になるのですね。５年に一度なつかしい顔々に出会えることが、このＯＢ会の最大の存在理由と考えている私です。でも日程が厳しいので困っています。早くも３つがガッチンコしています。

＊宮西　康之　　23期

11月に表面の住所に転居いたしました。変更手続きよろしくお願いします。

＊広岡　謙一　　23期

３月一杯まではかなりハードなので参加できません。来年度のことは今はわからない。

それよりも、表のFAX、E-mailも書けとは、何け？時代も変わったな。私は、ちょっと前に始めたワープロなど、いまだ右手人指し打ちやぞ。

＊鳥越　伸博　　23期　　○

＊髙橋　智栄子　　23期

＊石地　隆司　　23期

23期の皆さん、次の同期会は関西の番ですが、恒例の「23期関西支部忘年会」の席上、「細く長く続けるためにも１年置きでいいんじゃないか」ということで来年やることに決まりました。また、名古屋地区にも一肌脱いでもらってはという意見も出ておりましたんで、御検討の程…。

＊辻村　善徳　　25期　　○

今年は一度（春か秋に）ベルクハイムに訪れてみたいと思っています。今年もよろしくお願いします。

＊難波　利行・清芽　25期26期　○

いつもありがとうございます。登山歴○○年にしてゴアテックスの偉大さを知りました。それまでは、ハイパロンのムレムレしみしみカッパデ、やっぱ山って我慢だよなあと思っておりましたが、ゴアテックスのカッパを生まれて初めて着用し、考えを変えました。「やっぱ登山は金を使って装備だよなあ。」

ところで北ア周辺に「Ｋ２」（ケーツー）という何とも素晴らしい山がありました。

（別便）

拝啓　常々のＯＢ会活動、本当に頭の上がらぬ思いです。ＯＢ会誌も毎回楽しみにしております。

先日せっかく小屋酒場の案内状お送り下さったのですが、とても行かれそうもありません。犀奥の５月は大好きです。あの谷側に咲いていたカタクリやキクザキイチゲはもう咲いたでしょうか。ブナの新緑はどこまで登っているでしょう。楽しんできて下さいませ。

＊髙橋　伸治　　25期

事務局の皆様型、大変御迷惑おかけしました。照会の方（細田　晴美）の転居先がわかりましたので御連絡します。

＊山口　雪枝　　26期

定田様の転居先です。返信遅くなって申し訳ありません。いつも本当に御苦労様です。

＊定田　誠　　26期

連絡が遅れて申し訳ありません。'96 年８月より横浜に移りました。労働委員会（組合みたいなものです）の活動をしておりますが、最近ようやく慣れてきたような状況で、未だに横浜

の街中をゆっくり見ることもできずにいます。少しずつ行動半径を拡げていきたいと思います。会報7号、8号ありがとうございました。

＊益川　珠美代　　26期

＊辻　白峰　　27期

長子誕生。「憶良らは　いまは罷らむ子泣くらむ　そを負ふ母も　吾を待つらむぞ」の心境です。

＊二木　博子　　27期

いつも連絡ありがとうございます。1998年1月現在の住所です。書いてない方は今までどおりです。

＊北村　久秀　　28期

「やまざと」いつも楽しく見せていただいています。

＊土井　泰彦　　28期

平成9年3月で、9年間勤めた会社を辞め、関西学院大学大学院で、臨床心理学を学んでいます。

最近金沢に行ったのは、平成7年の12月でした。金沢城内の大学敷地は、石川門までしか入れないようになっていました。それでも中が見たくて、バリケードを乗り越えて中に入ったら、警備の人が車で追い掛けてきて、詰所まで連れていかれました。説教でもされるのかと思ったら、詰所の横に卒業生が建てられた石碑があり、荀子の言葉が書いてありました。警備員さんに「この文の意味が判るか？」と聞かれましたが、「判りません」と言ったらあっさりと放免されました。判る方は教えてあげて下さい。

＊宮崎　俊郎　　28期

いつも会報をお送りいただきありがとうございます。この度、下記住所に転居いたしましたのでお知らせ申し上げます。　10年5月

＊中道　正樹　　29期　　○

学生の頃、薄着で山行を繰り返し、結構寒さに強いと思っていたのですが、今ではすっかり寒がりになりました。

いよいよスキーシーズン。家でもゲレンデでも着ぶくれしています。

＊北村　智明・髙木　美保　29期

年末に父のきわどい手術があったりで、引越や、年始の挨拶が遅れました。すみません。

金沢は雪ですか？こちら乾いています。雪も恋しく思います。

＊深井　嘉浩　　29期

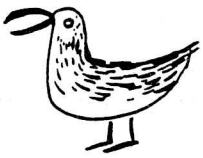
前略

舟田様　先日はお手紙ありがとうございました。実は私、4月1日よりめでたく社会復帰しまして、山渓の広告でおなじみの「アルパインツァーサービス」に就職いたしました。

ＪＴＢ7年間の旅行業界経験と、のべ1年間のアジア＆ヒマラヤ放浪経験を生かしつつ「世界の山と辺境のエキスパート」を目指して参ります。ちなみに主なツァーとしては、夏はカナディアンロッキー、ヨーロッパアルプス。冬はネパールヒマラヤ、ニュージーランドが人気コースですが、この他、ボルネオのキナバル山頂アフリカ、キリマンジャロ登頂、南米アンデス、パタゴニアなど、あらゆる地域を対象にしております。（ＪＴＢでは行かなかった所ばかりですが…）

ワンゲルＯＢの方も、既に海外ＴＲＥＫ経験をされた方、少なからずいらっしゃるかと思いますが、是非今後ともよろしくお見知りおきお願い申し上げます。　　草々

ps 5月20日の締切間に合いませんが、時間見つけてヒマラヤTREK情報お伝えしたいと思います。　　5月20日



＊野田　和裕　　30期

いつもお世話になっております。
ＯＢ会の効率的運営に関し、意見を述べさせていただきます。

現状は、現役引退後、強制的にＯＢ会に入会し、会費も一律となっていますが、ＯＢ個人のＷＶへの思い入れ、ＯＢ会に入会しても参加できない、などの理由から、やや無理があるように思われます。そこで、以下のような規約を設けてはいかがでしょうか。

ＯＢ
- 会員
  - Ａ会員…会費○○円
  - Ｂ会員…会費○○円
- 非会員…会費支払の義務なし

Ａ会員…ＯＢ会誌、ＯＢ会主催の各種催しに参加する人
Ｂ会員…ＯＢ会誌のみ送る、催しの通知なし
非会員…何もなし

これらの会員は一年ごとに申請できる。例えば今まで非会員だったものが、Ｂ会員やＡ会員になることができる。その場合は各期連絡員を通して申請する。また、記念山行などの慣例行事については、会員・非会員を問わず、通知する。その場合の郵送料は、山行費用あるいはＯＢ会費から負担する。などです。　　以上

＊多久　聡美　　31期

＊鮎川　剛　　32期

＊飯村　雅子　　34期

ＯＢ会のお世話、いつも本当にありがとうございます。届けていただいた「やまざと」を読ませていただき、２年間のブランクが埋められてほっとしています。'98.1 以後神奈川県に引っ越す予定です。２年振りの日本の冬に震える毎日です。

＊今井　未央　　34期

お手数をおかけいたしました。

＊松浦　真也　　34期

いつも「やまざと」を楽しく読ませて頂いております。来年６月に結婚します。

＊石川　明弘　　36期

たいして働いてもいないのに、ボーナスをもらいました。こんな私にボーナスを与えるとは。大阪へ引っ越してきて２ケ月。山へ行きたいなと思っているその瞬間、奥出氏よりtel が。「山行かん？」正月は怠けた体で南アの方へ行って参ります。

＊柴田　祐介　　37期

＊若山　悟　　37期

いつも御苦労様です。今年の４月から、摩周湖まで車で10分で行ける弟子屈（てしかが）という所に住んでいます。

＊橋本　征治　　38期

山のない千葉県で頑張っています。

ムナグロ

野沢スキー行きの反省

0期　田村　昭夫

皆の前で「これぞ真のスキー術也」とカッコイイところを披露する筈でしたが、悪条件が重なり御期待に沿えなかったことを陳謝いたします。

その原因は「シルバー割引」のリフト券でありました。六十歳以上割引と云う甘い誘惑につい乗って、ゲレンデの上に運ばれてしまったのが失敗でした。私のスキー術は純粋培養型でして、以下の条件が整わなければ作動しないのです。

条件一、緩斜面であること

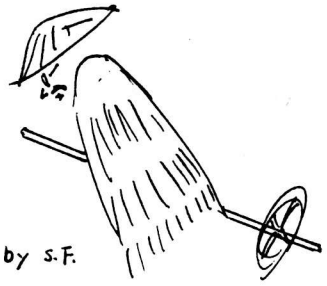
条件二、平滑で新雪が十センチ以下であること

です。通常はこの二つの条件を求めて、スキーを背負ってゲレンデをうろつくのです。

それが急に高い所まで一気に運ばれたので、私はパニック状態になってしまいました。スキー博物館入りの年代物のスキーは全くその機能を失いました。お見苦しい姿を皆様の前で曝した背景にはこの様な理由があったのです。

帰りの車中で、11期の青柳君はさかんに、私のスキー用具の博物館寄贈と、カービングスキーへの履き変えを勧めてくれましたが、長年履き慣れたスキーに別れるのは辛いし、如何にすべきか悩んでいる昨今であります。

いっそ一本杖で、蓑を着て滑るのも悪くないとも思います。



いつも、「私信」の部分もご紹介すべきかどうかと迷います。私信だから省くのがマナーというものです。

でもでも、こっちの方が私の好きな「心」が漏れ出ていて、その方のお人柄が出ているなあと思えることがあるんです。首がかかるとか、家庭不和の種になる内容ならともかく…。

よって私信部分も掲載しました。逆鱗に触れました場合には、次回スキー合宿にてご報復下さいませ。　　かしこ

編集長　舟田様

遅れましたが、「やまざと」原稿をお送りします。

社内文書以外の作文は本当に久し振りで、編集長からの文書が届いて以来、寝苦しい日々が続いたのでした。

何とか仕上げましたので、ご確認のうえ、いかようにも料理して下さい。

原稿を書くに当たり、最近の「やまざと」を読も直してみました。

ワンゲル40年の歴史が、実に多才で有為な人材を輩出しているさまを再確認されられます。その彼等を束ねて、「やまざと」を作り上げる編集長の力業には頭が下がります。

野沢では、カービングスキーに初乗りした嬉しさから、やや身勝手に振る舞わせていただき、反省しています。でもカバーしてくれる気安い仲間がいることがなせる業、お許し下さい。

来年も野沢で会いましょう。その前に、40周年総会がありますね。行事の詳細が決まりましたら、お知らせ下さい。

最近の世の中の動きを、特に政治と金融界の動きを見るにつけ、やはり問題はシステムではなくて、”人間”なのだと－としみじみ感じます。

そして、私には”ワンゲルとそこにいる素敵な先輩と後輩”があることの幸せを、また感じ入るものです。

さあ、本気でアルプス行きを考えよう。

98年4月26日

青柳　健二

カービングスキーの勧め

（ＯＢスキー合宿ｉｎ野沢　報告書）

１１期　青柳 健二

就職した年のアルバムに、三枚の白黒写真がある。すでにカラー写真が普及し前後の写真がすべてカラーの中での白黒であるところがワンゲル的である。メモには「46.2.11 野沢温泉 ＯＢスキー会」まだ大学に残っていた工学部のワンゲル同期の連中がスキーしたさに開いたイベントである。同期だけでは面白くないので、ＫＵＷＶ１０周年記念山行で懇意となった先輩達にも案内状を出して「ＯＢスキー会」とした。写真は、民宿前と上の平ゲレンデでの集合写真と、私がウエーデルン？の練習をしているスナップの三枚である。

妙高をバックにした写真には、１５名。同期が８名。後輩１名。そして高田(４期）・大橋博(５期)・木下(現姓村田７期)・伊藤俊成(９期)・寺本(１０期)・吉田憲正（１０期）の６名の先輩方が写っている。民宿前の写真には、高島（３期）先輩の顔もある。この時高島先輩は、たしか出張帰りにスキー一式を新調して参加されたと記憶している。今ベルリンにおられると聞く高田先輩は、華麗なスキーを披露された。専門は自転車の大橋先輩は馬力のスキーだったか。同期の連中のレベルは、似たようなもので、それでも若栗・蕨平のスキー合宿育ちで、シュナイダーコースにも根をあげず楽しんだものだ。まだ、ゴンドラの無いころで、日陰ゲレンデから上に登るためのリフト待ちがゲレンデを縦断して、上の平ゲレンデまで登るに２時間以上もかかったことも楽しい思い出である。

さて、９７年１２月「やまざと ８号」に、「ＯＢスキー合宿 ｉｎ野沢」の案内をみた。金大ワンゲル創部４０周年行事第一弾！とある。よく企画してくれました。しかも野沢でである。あの時以来、野沢はご無沙汰であった。我が１１期には、ＫＵＷＶ１０周年を挙行し、ＯＢ会の道筋をつけたとの自負がある。そして、５年ごとの周年行事には、可能なかぎり参加してきた。この企画は、天の声である。もちろん参加を即決した。年があけ、Ｅ－Ｍａｉｌにて参加を伝えた。こうして、私にとって２７年ぶりのＯＢスキー合宿が、始まったのである。

９８年は、私の中の“スキーの虫”が、年初

からうずうずとうずいていた。
１月の８日と１５日、二週続いて東京に大雪が降った。積雪実に２０ｃｍを超え、観測史上最大級の大雪であった。帰宅時間を襲った８日の大雪では、電車が大混乱し、３時間かけて自宅に帰ったのだった。今年、金沢の市内には、ほとんど積雪が無かったと聞く。これもエルニーニョの影響なのだろうが、この雪に、わくわくしたのは、私だけではないだろう。長野オリンピック関係者には、天の恵みで雪不足が一気に解消し、２月のあの感動のドラマへと繋がったのである。

わが故郷信州長野でのオリンピックは、存分に私の中の虫を楽しませてくれた。
里谷の大金星に始まり、清水・岡崎のスケート、そしてスキージャンプ陣の大活躍。唯一健司の不調が残念であったが、ドラマとしたは、出来すぎの２週間であったと言えるだろう。

オリンピックの閉会式の日から３日間、私は赤倉にいた。就職してからのスキーの師匠役である、Ｔさんとの、これも８年ぶりのスキーであった。８０年代、ほぼ毎年志賀をベースに、一緒に滑り刺激を受けた大先輩である。自宅のある神戸芦屋に戻られてから、久しぶりでどんな滑りとなっているか、大いに楽しみであった。

さすがであった。今年６３歳。衰ろえを知らない華麗な滑りで、赤倉チャンピオンコースを、常に仲間６人の先頭を滑り降りていた。オリンピックの熱戦の残り火もあり、私の中のスキーの虫は、熱く燃えた３日間であった。

じつは、Ｔさんの滑りには秘密があった。スキーである。昨シーズン新調したものという。負けた。と思った。２つの点にである。１つは、６０歳を超えて、スキーを新調した若さに対してだ。阪神大震災の年は、さすがに１年スキーを休んだが、再びスキーをはいて、まだ５年から１０年はやれると思い新調した－とのことであった。そして、そのスキーだが、これがカービングスキーであった。この数年程前から市場に出だし、いまやスキー界を席捲している最先端のスキーである。常に流行を先取りする、この先進性に対して脱帽であった。

この数年、自分の滑りに壁を感じていた。これは、体力の衰ろえとして、仕方のないこと、と一面では受け止めていた。そう思っていても、怠け癖もあり、その分トレーニングをした訳でもない。今、関西の某銀行の非常勤監査役であり、週一度は、ゴルフコースに出て、スキーは、カービングスキーを愛用する－Ｔ先輩との勝負は、結果が見えていたのである。

自分の滑りの壁を破る鍵は、スキー板にも有りそうである。と気がついた。こうなると、もう止まらない。自宅近くの図書館で、スキージャーナルの、カービングスキー特集を解読する。そして、スキーショップ回りである。そして、買ってしまったのである。新宿のスキーショップで、心に決めていたスキーを見つけた。決算バーゲンであり、まあ高くない買い物と、結果は退職金を担保にした、衝動買いである。３月初め、ＯＢスキー合宿まで、あと二週間という時であった。

ここで、カービングスキーについて解説する。
ＣＡＲＶＥ＝切る、彫る。カーブ＝ＣＵＲＶＥ＝曲がる―ではないので念のため。
トップ、テールとも従来のスキーより幅広いのが特徴。結果として、スキーのサイドカーブが非常に深くなる。カービングスキーとは、「スキーのサイドカーブの“深いえぐれ”を利用して、ターンをキュイーンと切っていきやすくしたスキー」と説明される。ズレをごく少なくすることで、ズレることによって起こるブレーキ現象がないから非常に高い速度感を味わえるのが特徴である。

カービングターンというスキー技術は、すでに１０数年前からあった。オリンピックでは、その優劣により勝負は決まった－と見られるプ

ロのテクニックが、誰でも手軽に楽しめるようになった。さらに、初級者でも簡単に曲がることを覚えられるスキー。幅広いトップにより、スキーを傾けるだけでエッジが雪面をキャッチ。あとはサイドカーブに沿ってカービング。これで、どんな斜面も滑れてしまう。———ということである。

カービングスキーは、４種類に分類される。①レースカーブ ②ピュアカーブ ③イージーカーブ ④ファンカーブ　スキーの形状からすると、①→④ほど、サイドカーブは深くなり、長さが短くなる。初級者には、③がお勧め。中上級者には②を、というのが一般的だが、スキーの性能により、また、楽しみ方により、自分に合ったものを選べば良い。なお、スキーの長さは、幅の広い分短くてよく、身長プラス・マイナス５ｃｍを目安とすると良いようだ。

さて、スキー合宿の本題に進もう。

待望の９８年３月２０日（金）は、雨であった。スキーを新調し、一日早く乗り込んだ「ＯＢスキー合宿ｉｎ野沢」であったのにーである。同期の森川氏と二人、池袋から夜行バスに乗り、早朝６時前に野沢に着いて、目一杯スキーを楽しむ予定だった。この時ほど、雨男？の森川を怨んだ事はない。

今回のＯＢスキー合宿、なぜか予想より参加者が少なく、東京から、これも同期の上村氏を入れて３名、金沢から後輩連５名と家族５名。そして会津から０期の田村御大の計１４名となった。世の中不景気で、３月の期末月ということもあり参加者が限られたのか。でも、田村御大や１３-１５期の倉谷山小屋酒場常連の辰野・奥名・松林・舟田の金沢組とは、ＫＵＷＶ３５周年大会以来の邂逅であり、大いに楽しみとしていたのだ。そう言えば、３５周年も台風による大雨で、白山山行が中止となったのだっけ。

民宿に入り、一眠りしても雨は止まなかった。雨はより強くなり、雪が溶けてしまわないか心配になるほどで、止む無く沈殿を決める。

でもスキーが出来なくても楽しめるのが、野沢の良いところだ。お勧めは、外湯巡りと日本スキー博物館である。温泉は、「クアハウスのざわ」にいった。今や全国のいたるところにあるクワハウスであるが、ここが元祖で本物だ。だが森川は、飲酒コーナーがなく、入浴後のビールが飲めないと文句を言った。相変わらず“本物”が解らない男である。

「日本スキー博物館」は必見である。スキー発祥から今年の長野オリンピックまでの、スキーの資料に満ちており飽きることが無い。特に、スキー板、スキー靴、バインディングの歴史が現物で確認出来るのが楽しい。大学１年の時に、初めて買ったスキーから現在まで、自分のスキー史を確認できた。また、昭和５年、野沢温泉でのハンネス・シュナイダーの滑降写真には感嘆。すごいジャンプターンで、スキーの技術は、スキーの性能の進歩ほどには進んでいないのではと思わせる。博物館を出る時には、雨は小止みになっていた。天然記念物の麻釜を見て、夜の楽しみに信州ワインとつまみを買って、宿に戻った。

民宿ではなくて「リゾートハウスふるさと」の夕食は豪華であった。野沢が好きだと言う森川の理由が、野沢ではどこに泊まっても飯が上手いーであり、相変わらず単純なやつだと思うが、これは真実であった。夕食後お茶を飲んでいるところに、突然田村御大が現れた。会津から普通電車を乗り継いで今着いたとのことで、いかにも田村さん的な出現で、嬉しくなった。さっそく田村さん持参の吟醸酒で盛り上がったが、宿の人に「食堂では持ち込み禁止」と注意され、部屋に戻って心おきなく一杯やる。まあ、スキーは出来なくても、楽しい一日であった。

翌２１日（土）と２２日（日）は、曇り時々小雪・標高千ｍ以上ガスの中であった。結局この野沢では一時も晴れなかったのだ。

早朝にスキーバスで着いた上村を加え、同期３人それでもゲレンデに飛び出した。田村さん

と金沢組とは、お昼に長坂ゴンドラ終点のやまびこ駅のレストハウスで待ち合わせる事にする。ガスの中であったても、一番高いところまで登らないと気が済まないのがワンゲル的で、毛無山山頂下のやまびこゲレンデまで行く。視界は３０m以下。でも標高１６００mにあるゲレンデは、前日の雨の後、うっすら積もった新雪もあり、３月のこの時期としてはバッチリな雪質であった。

上部はややアイスバーンがかったこのゲレンデで、私はカービングスキーの威力と楽しさを思う存分に味わうことができたのである。その報告とともに話を進めよう。

前回の赤倉まで履いていたスキーは、８３年から実に１５年愛用したものだ。HEADホワイトスペシャル。この間毎年滑ってはいたが、年間滑走日数が５・６日程度で、スキー本体の傷みも少なく買い替えられずにきた。しかしスキーを変えるとこんなに違うものかと実感したのである。

新スキーのカタログ宣伝文を記すと、

「SALOMON X-FREE ０９。扱いやすく、乗りやすく、楽しく、面白い。一台で何でもこなす頼もしいモデル。」

クロスフリーと読む。いろんな要素をクロスオーバーするの意で、圧雪された整地はもちろん、ハードバーン、コブ斜面、また新雪や深雪などあらゆる顔を持つ雪山すべてをまるごと楽しんでしまおうという発想のもとで開発されたと言う。まさに、我々ワンゲルスキーヤーのためのスキーだーと、この宣伝文に参って買ってしまったのである。

このスキーの特徴は、サイドカーブにある。一般のカービングスキーと違いテールが細めの、Yプロフィールと呼ぶ形状となっている。ターンの導入がスムーズにいくようトップはワイドだが、テールを細めにしターンの抜けがスムーズになるようにした。また、ターンをスライドさせやすいことでコブ斜面でもスムーズにコントロールできるという。カービングスキーの楽しさに、従来のスキーの味わいもある、カタログ上では、満点である。サイズは、身長よりやや短い１６６ｃｍとした。さて、このスキーの実体験はいかに！

結果は、「充分に満足。」と言えるものであった。ただ、１５年乗ったスキーとの比較となるので、このスキーの性能が本当にそうなのか、実は難しところだが、扱いやすく、乗りやすいのは実感できた。

先ず、新しいからでもあるが、エッジが切れるので、アイスバーンでもスキーがぶれず安心して乗り切れる。軽いエッジングでスムーズにターンにはいれ、しかもスピードをあまり減速せずにターンを仕上げる事ができる。これがカービングターンかーと実感した。全長 1500 m、

平均斜度１９°、最大斜度２５°のやまびこコースを、ほとんど疲れを感ぜず、ノンストップで滑り切ることが出来た。これは、自分にとっても新鮮な驚きで、少し若返った気分になったものだ。

午前の仕上げに、全長５キロのスカイラインコースを降りる。スキーの短さが、この尾根コースでは威力を発揮する。爽快なロング滑降を十二分に楽しんだ。

予定どおり、長坂ゴンドラ終点の「レストハウスやまびこ」で田村さんと金沢組の６名に合流。この時から、翌日の１時まで、実質わずか一日ではあるが、本当のスキー合宿がはじまる。

天気は相変わらずで、ゲレンデはガスの中、でも雪質の良いやまびこコースでほとんど滑った。調子の出た私のペースは、もう誰にも止められない。リフトの上が休む場所、バンバン滑るのが流儀で、田村先輩と奥名君、舟田女史は、少々根を上げたのではないかと思う。（実際、田村先輩と奥名君は、翌日を温泉ツアーに切り替えた。）調子にのって、スピード競争を仕掛け、辰野君ちの友祐君とレースになった。結果は書かない。ただ、２０歳前の滑降系の飛ばし屋と、本来は華麗な滑りを旨とする熟年が、スピード勝負の結果にこだわっても無意味なのである。

親父さん以外の人間に目一杯滑らされて、松林君ちの美乃里ちゃんは、しっかり上達して、いつの間にか親父さんを超えていた。これが若さである。

いつも最後にリフト下に到達していた舟田さんには、先輩の偉大さと身勝手さを、思い知らせたことになったのでしょうが、良く耐えてくれました。翌日には、上級者以外滑降禁止とコースの入り口で音声案内しているスカイラインコースを滑らされ、得意のボーゲンで、無事完走されたのは立派でした。

さて、田村御大の滑りですが、これはもうスタイルから偉大です。実は、あの２７年前の写真に写っていないので、記憶が曖昧になっていたのだが、あの時のスキー合宿に、田村さんも参加されていたとのこと。そしてその時と、まったく同じスキーで今回も滑っておられるのでした。竹のストック、本皮にバックルのスキー靴、ワイヤー式金具付のスキー板と、昨日見た「日本スキー博物館」展示品そのままなのでした。かのトニー・ザイラーと会津のスキー場で一緒に滑ったという田村さん、その時も同じスキーで滑り、ザイラーを感嘆させたとのことで、これは十分に自慢する価値のあることです。(やまざと ８号、Ｐ２８参照)

しかし、ニッカボッカのスキーズボンでの滑降は、そのスキーにふさわしいテレマークスキーで、我々にしっかり着いて滑ってくれました。じつは、いまカービングスキーと同じように、その道の人に注目されているのがテレマークスキーです。アウトドアブームから、山スキーが静かなブームとなっているのですが、山スキーの世界では、すばらしく威力を発揮するテクニックなのです。

ただ、圧雪車で整地したゲレンデが主流となった日本のスキー場では、古くて新しいテレマークスキーの不利は否めません。スピードで負けるので、仲間との滑降では遅れてしまう。ゲレンデでは、私のカービングスキーの方が絶対有利なのです。帰りの電車の中で、カービングスキーの良さを訴え、赤倉でのＴさんとの体験を話したことで、来年田村さんが、カービングスキーに乗り換えるか、実は注目しているのです。

このようにして、スキー合宿は楽しく進んだのだった。野沢に詳しい辰野君と森川が、自然体でリーダー・サブリーダーの役を引き受けてくれた。久しぶりの集合なのに、自然にチームワークが組めてしまい、何とも言えない開放感で、大きな山の素晴らしさの中で、思う存分遊

んで楽しめてしまうのが、ワンゲル仲間とのスキーの楽しさである。

やまびこゲレンデのリフトが止まる時間まで滑り、シュナイダーコースを降りて宿に戻った。近くの中尾の湯が満員で、新田の湯まで足を伸ばして疲れを癒す。

夜は、また豪華な夕食を味わい、家族で自炊民宿に泊まった１９期早川君も加わり、部屋でＫＵＷＶ野沢総会となった。皆が持ち寄ったアルコールが、話を弾ませる。昨日仕入れたワインが入ると、田村ワインシュタイン先生の独壇場となるのは、必然である。とにかく記憶力抜群で博識だから、聞いているだけでも飽きる事がない。ウイスキーの銘柄となっている、オールド・パー爺さんは、百歳を超えてで子供を産ませ、１５２歳まで生きたのだそうである。森川の持ってきたオールド・パーのラベルに、１５２という数字が書いてあり、どうも嘘ではないようである。

今時は、銀行員でなくても、金融危機だ、ビックバンだと、そんな話題が中心になるものだが、文化系と理科系人間が適度に混ざったワンゲル人との話は、仕事も俗世も忘れさせて精神衛生上こんな快適な事はない。期待どおり、十分に気持ちの洗濯ができ、リフレッシュできて、楽しい夜が暮れていくのでした。

翌２２日も、天気は好転しなかった。でも、８時４５分柄沢リフト下集合と自分で決めたのだから約束は破れない。中尾の湯の朝風呂に入り、体調を整え、気合を入れ直し、９時前には、ゲレンデに出る。そして、半日券が終わる１時まで、たっぷり滑って、今回のスキー合宿は終わったのであった。チャレンジコースをおりて、ユートピアゲレンデでの国際デモンストレイター選手権大会を横目に見て帰路についた。デモ選の滑りに歓声が上がるコースの上方、シュナイダーコースの尾根に日がさしてきて、どうや

ら我々のスキー終了に合わせて、天気は回復に向かい、明日は晴れるようである。

唯一、天気に恵まれなかったのが残念であった。カービングスキーにも課題が残った。私のＸ-ＦＲＥＥは、ズレ系の技術にも対応するスキーゆえ、特別にカービングを意識せずにも滑れてしまう。カービングの特性である“彫る”感覚を追求し、ターン時にスキーを走らせ推進力を引き出すテクニックの追求がおろそかになっていた。また、コブの斜面でのスキー体験の時間が取れなかった。課題が残れば、来シーズンへの楽しみも増えるというものである。

ゴンドラの中で、このスキー合宿を今後も続けてくれるように、企画・実行委員長の舟田さんにお願いした。東京からは、金沢はいかにも遠い。北陸以外に暮らすワンゲル人にも、気軽に参加できる行事として定着させて欲しいと思う。場所は、野沢が良いだろう。温泉があって、雨が降っても楽しめるところがあり、やはり食事が上手いのが良い。田村さんが推薦された今回の宿、「リゾートハウスふるさと」を定宿にしよう。今年は、オリンピックもあり、日程が遅くなってしまったが、もう少し早めに設定したら皆が参加しやすくなるだろう。

そして、やはりカービングスキーは、お勧め

である。楽に曲れるスキーとは、疲れが少ないスキーであり、年齢を重ねたスキーヤーには絶対に良い。いや、市場原理から、この一二年で、すべてのスキーはカービング流のスキーとなってしまうだろう。カービングスキーの性能は、今後もアップし続けるのは間違いないが、パソコンと同じで、待っていても限がない。トレンドは早くつかみ、それを楽しむ時間を長くするのが正解である。買う時期を選べば、バインディング付で、予算は６万もあれば充分な性能のものが手に入るはずである。

今年スキーを新調した。当然あと１０年はスキーを楽しまなければならない。その後も、体が動く限りスキーは止められないだろう。偉大なる二人のＴ先輩がいる限り、スキーを止める理由が無いではないか。

この原稿を書き終えて、今シーズンの私のスキーは終わったようである。何とか、今シーズン中にもう一回滑りたいと思っていたが、その機会が無かったのは残念である。

さあ、来シーズンに向け、カービングスキーを完全にものにすべく、体調を整え、筋力の強化にも励むことにしよう。スキーの性能に助けられるだけではだめで、やはり、スキーを完璧にコントロール出来る体力があれば、もっと楽しくなるのだから。

来シーズンも野沢でスキーをしよう。「ＯＢスキー合宿ｉｎ野沢」の継続は、ほぼ決定となり、田村さんは、愛用のスキーを「ふるさと」に預けて帰られたのだった。次回は、より多数の仲間が参加されることを期待したい。

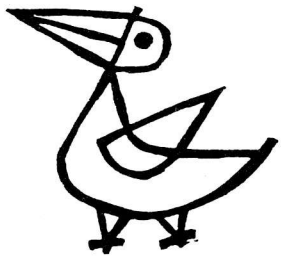
毎年テーマを決めて開催したい。次回は、「舟田女史のボーゲンを卒業させる会」としようか。それとも「田村御大にカービングスキーを教える会」としようか。

そうだ、田村先輩に、スイスアルプスでのスキーを誘われていたのだった。前回行った時に、アルプスの山小屋のコック長に、ご飯の炊き方を教授してきたとのことで、もう一回行って、教えたとおりちゃんとご飯が炊けているか確認したいのだと言う。

さすがに即答を控えたが、アルプススキーは私の夢でもあり、真剣に考えてみよう。田村さんと一緒なら、トニー・ザイラーとも共に滑れるかも知れないではないか。

９８年４月　雨の日曜日

完



舟田様

15期　松林　知一

たくさんの写真をお送りいただいて、ありがとうございました。本来なら、受け取ってすぐお礼のお返事を差し上げるべきところですが、如何せん、ついつい電話をするのも気が引ける状況でした。お察しくださいませ。

「仕事」とあればなおのこと、締め切りが迫らないことにはワープロに向かえないのはやむをえないところと、ご理解ください。ましてや宇野さんのように、娘に押し付けようにも、頭から拒否されてしまっては、打つ手もなし。とうとう、締め切り前日４月１９日

の午後１１時半を回ってしまいました。

いつもいつもおなじ人の原稿ばかり載っていると飽きられますよ、新人ライターの発掘に努めましょうよ……と、弁解の前置きをだらだら述べつつ。

さて、

スキー合宿なんて、何年ぶりのことでしょうか？　指折り数えてみると何と26年ぶりでした。相変わらずのへっぴり腰で“足前”に進歩のあとは見られないのですが、この歳になってなお「スキー合宿に参加しよう」という意欲が残っていた自分をほめてやりたいと思います。これもあの当時、スキー合宿にだけは真面目に参加し、口の悪い先輩のしごきに耐えてきたおかげでしょうか。

四半世紀前のスキー合宿は若栗スキー場でした。若い人たちは知らないでしょうね。今は「白馬乗鞍国際」と名前が変わっていますから。栂池高原のすぐ隣にひっそりと隠れている、全然有名でないスキー場が当時のワンゲルのホームゲレンデでした。圧雪車も通っていない早朝、民宿からゲレンデまでラッセルして通ったこと、民宿に帰って食べたぜんざいのおいしかったことが、今でも忘れられません。

26年ぶりのスキー合宿は野沢温泉に変わりました。ぜんざいがなかったのが唯一残念でしたが、代わりに温泉が付きました。ゲレンデは、石川県内のスキー場しか知らない身には文句なし。さすが、オリンピック会場になっただけのことはあります。３月下旬だというのに美しい樹氷が一面に咲いていました。

今こうしてワープロに向かっていて、あんな楽しいスキーは何年ぶりだったろう、と思います。本当に26年前のスキー合宿以来だったような気もします。当時と変わらぬ先輩がいて、当時と変わらぬ仲間がいて、そして当時と変わらぬ自分がいました。26年の時間の流れを一気に逆戻りしたような、無心に楽しいひとときでした。

そこで、現役の皆さんにもお勧めします。数あるワンゲルの活動の中でも、スキー合宿の楽しさはまた格別です（重たい荷物を担がなくてもいいだけでも）。だまされたと思って、スキー合宿に参加しましょう。幸い、今回の野沢温泉でのスキー合宿は今後もＯＢ会の恒例行事として継続されていくようです。民宿ですから費用もたいしたことはありません。交通も便利です。現役の合宿とドッキングするのもいいかもしれませんね。

問題は時間と気力です。時間の方は私の経験から言うと、なんとかなるものです。最優先事項に指定しておけば時間は作り出せますし、無理をしてでも作り出さなければいけないという気になります。むしろ気力の方が問題です。時間をつくるにも気力が必要です。気力が無くなってしまったら、その時は自分の人生を終了するときだと腹をくくって自分を奮い起たせるしかないかもしれません。でも、一度参加してその楽しさを知ってしまえば、そんな大袈裟なことは言う必要もなし。来年は皆さんも家族を連れて、もっと大勢で集まりましょう。年に一度のスキー合宿は、若返りにも効果がありますよ。

（了）

野沢温泉ＯＢスキー合宿行状記

15期　奥名　正啓

野沢温泉は今回が２回目である。

前回、つまり最初に訪れたのも、もちろんスキーをする為である。今回もＯＢスキー合宿と言うくらいだから、スキーの為である。

けれども違うのは、スキーの為だけではないというところであろう。そう、今回は頭にＯＢという文字が燦然と輝いているのである。いやいや、野沢温泉の「温泉」という文字の方が私には大きく輝いて見える。

つまり、優先順位はまず野沢温泉、次にＯＢ合宿、その次にスキーとなる。

第１日目。朝早く（家を出発したのは４時15分。途中で節ちゃんを拾って西部緑地公園へ５時ちょっと前着。その時、既に松林は待ち状態。しばらくして我々を運んでくれる辰野カーが到着。まだ外は暗い）出発したものの、車の後ろでうとうと眠ったり、お握り食べたり、果ては豪華特大手作りレタス巻ポテトサラダまで食して、ゆったり気分。朝のはよから運転しどおしの辰野さんには大変申し訳なく思っています。

ありがとうございます！

でも運転を楽しまれているようでもあったので、来年もお願いしようか。

そんなわけで移動に費やされるエネルギーを温存できたので、野沢温泉「ふるさと」に到着後すぐさま支度してゲレンデへ飛び出していきました。

民宿は柄沢ゲレンデのすぐ前にあり、リフトまで徒歩５分。距離にしたら50mほどしかないが、歩きにくい靴、重いスキー板、それに何といっても上り坂。リフト券売場でひと休み。

リフト券の料金表を見上げながら、各自しばし思案する。

「半日も滑れば十分かな？」

「明日もあるし、今日はまだ午前だから２日券という手もある」

「でも明日は温泉めぐりも捨てがたい」

「４時間券で、あとはゆっくり酒でも飲んでいようか」……

結局１日券を購入。

ここではリフト券のバリエーションが多く、時間を軸にすると、１回券から始まって、午前券、午後券、４時間券、１日券、２日券、３日券、４日券まであり、さすがにスキーの本場だけある。

さらに、普通は時間の軸しかないのだが、ここでは年齢軸まである。子供、大人、そして、ななな－んとシルバーがあり、１日券は1600円もお得。

田村教祖はリフト券売場の窓口に向かって勇躍「シルバー１日！」と声を張り上げた。しかし皮肉にも、これが後に悲劇の種になるとは、その時は夢にも思っていなかった。

金沢組＋田村教祖一同、スキーを履いていざ出動。ゲレンデの下の方は季節柄既に雪はぐしゃぐしゃで気持ち悪い。そんな柄沢ゲレンデには見向きもせず、連絡リフト乗場へ直行。そして悲劇の幕が開いた。

スキーの本場だけあって、リフト乗場は切符切りおっさんがいる訳でなく、自動改札になっている。自動改札といっても、都会の駅よりはるかに進んでいて、いちいち機械にパスを突っ込むのではなく、非接触式の読み取り装置にパスを近づけるだけで遮断機が上がる仕組みになっている。一般であれば、無言の通過儀礼となるのだが、田村教祖が通過すると

「シルバーです！」の大音声が響きわたるのである。

悪用防止なのであろうが、リフトに乗る度にこれをやられては、ちょっとばかり気分悪いのではなかろうか。わずかの悪用者を防ぐ為に、多くの善良な利用者の気分を害しては、かえって逆効果といえはしないか。ここでも相手の立場でものを考えない拝金主義をかいま見たようで、情けなかった。

さて、柄沢連絡リフトを降りて林道を下る。

途中、ジャンプ台の下をくぐって丁度ジャンプの飛び出し地点辺りを通過する。公認シャンツェだそうだが、ひどく小さく見える。それでも、ジャンプ台の上に立って下を見下ろせば、まっすぐ落ちて行くようなスロープに見えるに違いない。

林道が終わると向林ゲレンデに出る。このゲレンデを斜めに横断して林のわずかな切れ目を抜けて長坂ゲレンデに向い、その最下部からゴンドラに乗って上の平に行くことになっていた。ところが、田村教祖は向林ゲレンデを一人気持ちよさそう滑り下りて行かれ早くもここではぐれてしまわれた。

我々はゴンドラで上ノ平へ。そこからもう一つリフトに乗ってやまびこゲレンデへ。さすがにここまで来ると、季節は一気に2ケ月程前に戻ったような気になる。

天候は悪くはないが視界は悪く、ほとんど前の状態がわからない。スキーの腕前が今一つ（スキーは急には止まれない、スキーは急には曲がれない）の私にとっては、ひたすら前の人について行くだけで、楽しむ余裕はない。

昼食時には田村教祖と合流。さらに先発隊11期の青柳さん、上村さん、森川さんと合流。しばらく一緒に滑った後、私の「もう帰ろう」も虚しく、毛無山の頂上にclosedのテープが張られるまで滑っていた。最後に頂上にいた頃には疲れ果てて体中痛くて、立っているのもやっとといった状態だった。下手な為に、他の人が使うエネルギーの倍以上使っているに違いない。腕前と疲労は反比例する。

それに引き替え、11期の皆さんは、朝からやっているのに元気一杯。それだけ上手いということだろう。最後まで3人で競い合っていた。特に青柳さんと森川さんの壮絶なバトルは、6万円対1万2800円対決として、ワンゲルスキー史に刻まれることだろう。それほどの腕前を持っているんだから、リフトの乗り方を練習しておかないといけませんよ、青柳さん!!

最後はビギナー用林道コースさえ、ままならぬ状態で降りてきた私でした。

第2日目。昨日の疲労が回復しないまま迎え、スキー組を送り出した後、しばらくビールを飲みながら部屋で横になる。窓から見上げると、ガスが随分低い所まで下りてきていて、昨日より視界が悪そうだ。

タオルを一本手にして宿のサンダルを履き、

温泉巡りに出掛けた。一番近い所は「中尾の湯」。ここは、野沢温泉の外湯14ケ所の中でぽつんと南の方角の離れた所にある。建物は比較的大きく、しかも新しい。中に入ると畳1枚分程度の履物を脱ぐ土間があり、それを持ったま脱衣場へ、と入っても、脱衣場と湯殿とは1m程の高さの仕切があるだけで、別の部屋ではない。ここの浴槽は二つに分かれている。今回入った外湯の中で、浴槽が分かれていたのも、木でできていたのもここだけだった。

ここを起点として、北へ北へと進む。2、3分歩くと、大湯から伸びる温泉街のメインストリートにぶつかる。この辺は繁華街とは程遠く、大きな商店街はなく、民宿もまばらにあるだけで見通しがよい。野沢は、東京から近い湯沢や志賀高原等によく見受けられる高層ホテルやリゾートホテル等というものが一つもなく、狭い路地に民宿がひしめきあっている。ワンゲル向き！

すぐ右に曲がって野沢温泉アリーナを回り込むように坂を登っていく。少しなだらかになった所で左折するとすぐ左手に「秋葉の湯」がある。先程の中尾の湯に比べて、ここはかなり小さい。建物はほぼ立方体で、建物自体も他の外湯と違ってただの小屋といった感じ。私が出てきた時にも、2、3人連れの人が、戸の前で躊躇していた。どこにでもあるアルミサッシの戸をガラガラと開けると、風よけらしい土間があり、そこから男湯と女湯に分かれている。中尾の湯は向かって右側が男湯だったが、ここは左側が男湯。男湯は右側が、私のイメージなのだがそうではないようだ。ちなみに、河原湯、滝の湯なども左側が男湯になっていた。狭いながらも脱衣場と湯殿は完全に分かれていて、普通の銭湯と同じ仕組になっている。タイル張りの正方形の浴槽は4人も入れば一杯。洗い湯も水道のカランが3つほどしかなく、しっかり洗える程の空間はない。

全ての外湯を踏破するつもりでいたが、この後「松葉の湯」「河原湯」「滝の湯」と進み、最北端へ到達した時には疲れ果てていた。あわよくばスキー博物館まで行ってみようかとも思ってはいたが、最後の「滝の湯」への上り坂は相当なもので、ここから更に先へ行く元気はなくなっていた。どの外湯も総じてそうなのだが、とにかく湯が熱い。源泉が90度以上もあって、ちょっと油断すると、とてつもない熱さになってしまう。この滝の湯は最も小さい外湯の一つで、3人くらいしか入れないし、洗い場といえる場所もほとんどない。誰もいないこの浴槽はほとんど熱湯ではないかと思われる程熱く、足を突っ込んだ途端、その部分だけがみるみる真っ赤になってしまった。さすがに水を差さないと、体全体をつけることはできなかった。

こうして外湯巡りを締め括り、お土産屋の建ち並ぶメインストリートを真っ直ぐ、宿に向かって帰ってきた。途中「十王堂の湯」「新田の湯」を通ったが、横目でちらっと見ただけで、この次来る時の楽しみにとっておくことにした。

どこでも体を洗えなかったので、宿の内湯でゆっくり洗おうと階段を下りて行くと、無情にも「休湯中」の札が揺れていた。

ＯＢスキー合宿ｉｎ野沢

15期　舟田　節子

春の彼岸の連休の　樹氷の華の咲く頃に
気の若い先輩に　騙されて
ヒヤヒヤ滑った　スカイライン

の替え歌が、すぐにできてしまった、うんと楽しかったＯＢスキー合宿。

21日、金沢組は早朝5時産業展示館に集結。辰野さんのエスティマに乗り合わせ。この歳になっても先輩に世話をかける、総甘えの15期勢なのでありました。

この話が湧いたのは、秋の小屋酒場。行こう行こうで決めたものの、結局皆年度末の連休を空けるのに汲々としてしまったそう。やはり学

生時代のような訳にはいかないもの。それでもシートにホッと体を埋めれば、久しく忘れていたあのパーワンに出立する時のワクワク感が甦ってくるのが実感できるのでした。

高速道路でのパンク（路上落下物のボルトの為）、峠の冬期閉鎖のハプニングも乗り越え、「ふるさと」へは10時過ぎ着。田村教祖様のお出迎えを受け、昨日は雨で温泉巡り、その分も滑るぞとゲレンデに先行している11期連とは頂上レストランで昼に待ち合わせとの伝言も受けました。

心配していた雨が止んだかわりに、頂上部はガスの中。それでも、緯度と高度の関係で、素晴らしいブナ林の樹氷が視界を流れていきます。

下とは雲泥の差の雪質。すごくうまくなった気がした…のは最初だけ。勝手のわからない所で迷子にはなれない。必死でホワイトアウトの中を追い掛けるのみ。部活と受験で三年のブランクという美乃里ちゃんにちょっと期待(?)していたのに、さすが若さ。1,2 本でもうスキーは揃っているではないか！まずい。これでは最下手っぴは私ということになる。気がひけると、ますます腰も引けてくるのでありました。スキー部だったという友祐君に至っては加速をかけているという滑り方なのでありました。

3本滑った所で昼食。無事11期連と合流。金沢組が9時に着くはずがないとみて、もうスカイラインも滑ってきたとの話。「あれ上級でしょ？」「ここかて上級や。節ちゃんかて滑れる滑れる」と森川先輩。隣でニヤニヤの青柳先輩。（正解は明日わかる。）ひとしきりの談笑の後、午後の部へ。

教祖様はもちろん竹ストックにバネ止めのスキー。昨日スキー博物館に行ってみたら、同じものが展示してあったそう。それで「シーハイル！」と雄叫びを挙げられるものだから、もう目立つこと！食堂前での記念写真もシーハイルの連呼で、好奇の膨大な視線を浴び、皆モジモジ。ワンゲル教の修行不足に恥じ入ったのでありました。

ガスと広さもあってなかなかコースが頭に入らず、華麗な滑りの辰野さんや先輩方には申し訳なく思いつつも、待ってもらってはあっちこっちと滑りました。純白の樹氷の林を滑り抜けるのは初体験。石川県なら絶対実現しないコースにうっとりしたいのに、ひたすら暴走族（こっちに余裕がない）を演じるこの辛さ。賑やかしい所へ出てきたと思ったら、そこは広々した緩斜面のゲレンデ。これも野沢なの？じゃあさっきまでのは（私にすれば）半分シゴキ。今度は新米の頃のパーワン気分がほろ苦く甦ってくる私でありました。

長い長い林道コースでようやく宿へ。一番近い中尾の湯を浴びてから夕食。快い疲れとビールは饒舌にする。好き勝手を言っては笑えるこの一時を本当に贅沢な時間と思いました。このうち、偉大なる教祖様を初め、11期の青柳先輩、上村先輩、19期早川氏は、私にとって現役時代

には全く面識のなかった方々。そんな方達とも心が通うのは、この何もかもが末世へ走り出している世の中にあって、本当に有り難いことと、ますますワンゲル教への傾倒を深めさせるのでありました。

翌日もガスは下がっています。田村さんと奥名さんは、今日は温泉巡りをやるとか。ますます私の下手なのが目立ちそう。

ガスの方は時々晴れ上がって、ようやくゲレンデの配置が納得できたりしましたが、ともあれ半日券で一日分滑ろうという意気込みの方が多くて…。丁寧な指導に定評あるという上村先輩も私の足前にはアドバイスの虫が疼かれていたようですが、飛ばせ飛ばせムードのこの中ではどうにもならないとあきらめられたようでした。

スカイラインコースも、せっかく野沢へ来たのだからと降りることになりました。「ここは上級者コースです。…ご遠慮下さい。例え上級者であっても…それはあなたご自身の責任です」のエンドレステープがやけに耳につくのでした。「最初が急なだけやって」との森川先輩の言葉に滑りだしたものの、一難去ってまた一難の連続。どうしようもなくなってプルークボーゲンに徹すれば「あれ、初級が入ってきてるよ」の声が突きささってくるし。「今時はね、女が度胸なの！」と声援されたって…。お邪魔虫のありったけをしてやっとゴール。思わず「シーハイル！」でありました。

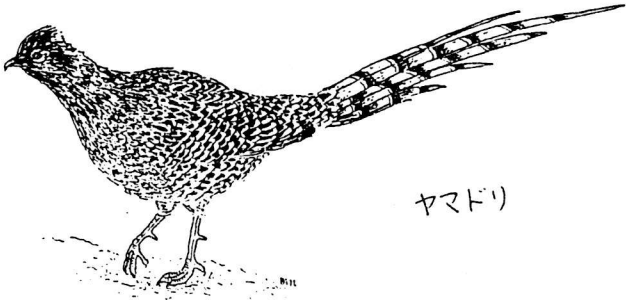
またもゴンドラで頂上へ。これで勝手が分かったとばかり、ますますスピードランサーに拍車がかかり、私は「3時間で登れる所を4時間かかっても楽しめるのが山の良さなんだよ！」と嘯いて、じっと我慢の安全スキーに努めるのでありました。ようやく午前券が切れ、これで一安心と思ったら、シュナイダーコースの上部から、ユートピアゲレンデを迂回するコースを降りようと…最後の最後まで泣く思いをしました。

「これで、野沢のビッグコースを2本降りたじゃん！」そんなあ…。ワンゲルOBの空恐ろしさが身にしみ、この人達に絶対年金はいらん！と、五体満足に帰れる喜びに浸るのみでありました。

さて来年。食事事情から、もろもろからやはり野沢がよかろう。こんな年度末よりもっと早めに、せめて二泊とか…前向きのご要望の数々。教祖様のスキーも早々と担保物件に。

そうそう、早川さんとも帰りがけに再会できました。彼によく似た男の子二人と、ホッとした表情の奥さんと。OBスキー合宿は、考えようによっては山より取り組み易い行事かも。

バス組と、エスティマ組に別れ、バイバイ。部室発、部室着が現役編なら、現地集結、現地解散がOB編。この輪をもっと拡げてやっていけたら…そんな夢も膨らんだOBスキー合宿でした。



北國　平成9年（1997年）12月11日（木曜日）　金沢

遺伝保存林に

動植物の宝庫　犀川源流域

自然そのまま保全と研究

来年3月に林野庁

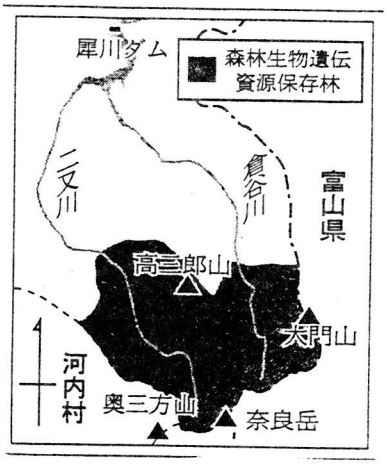
金沢市の犀川源流域の約千八百㌶が来年三月三十一日、林野庁の「森林生物遺伝資源保存林」として選定されることが十日までに決まった。選ばれたのは、全国の十三カ所で、大阪営林局管内では金沢を含めて二カ所。動植物の遺伝子の宝庫と重要な価値が認められたもので、バイオテクノロジーなど学術研究の場としての活用や、イヌワシ、クマタカといった絶滅の恐れがある動植物が生きる環境をそのまま維持、管理するのに大きな役割を果たす。

森林生物遺伝資源保存林は、林野庁が植林、伐採主体の林業だけでなく、多様な生物をその環境とともに維持することも国有林の機能の一つとして平成六年に基本計画を策定した。全国の国有林を予備調査し、計画には八甲田山（青森県）、霧島山（宮崎、鹿児島県）などとともに犀川源流域が選定地として盛り込まれた。

大阪営林局と金沢営林署による現地調査の後、今年九月からは学識経験者を交えた設定委員会で検討を重ね、九日に開かれた最終委員会で骨格がまとまった。保存林は県の自然環境保全特別地区、林野庁のブナ等植物群落保護林となっている八百十一㌶をさらに拡大した区域で、富山県と隣接する大門山や、奈良岳、高三郎山などに囲まれた千七百九十三㌶。

環境庁のレッドデータブックで絶滅危惧種とされているイヌワシ、クマタカをはじめ、同じくレッドデータリストの準絶滅危惧種で淡紫のかれんな花を咲かせるヒメシャガなど多種多様な動植物がみられる。今後は登山者に対する入山規制はないものの、山菜取りや魚釣りをしないよう求める看板などを設置する。

岡崎忠美金沢営林署長は「来年十月ごろには、鳥獣保護区としての指定も予定されている。少なくとも明治初期から保たれてきた日本の貴重な生態系であり、国有林野事業への理解が得られるよう、PRしていきたい」と話した。



金沢に猿の群れ

40頭、犀川上流で確認

暖冬異変

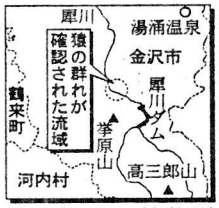
子猿の死亡率減少で繁殖

金沢市の犀川上流域で、ニホンザルの一群が定住し始めたことが白山自然保護研究会の二日までの生息調査で分かった。周辺では二年前、農作物が荒らされる「猿害」が見つかったが、白山ろく以外で群れの存在が確認されたのは石川県内で初めて。同研究会は、ここ十年来の暖冬で子猿の死亡率が減り、集団の繁殖能力が高まったのが背景とみており、金沢山間部が白山ろくのような猿の楽園になるのか、四十頭前後の今回の群れを命名したうえで生態を詳細に分析する。

犀川上流域で初めて確認された猿の群れ。中央部分で、体毛の反射による白色で丸く縁取られているのが猿
＝2月11日、金沢市の挙原山付近（滝澤均さん撮影）

白山自然保護研が調査

犀川ダムの背後にある高三郎山は、戦後の狩猟記録や登山客の断片情報から、猿の生息地と言われてきた。平成七年十二月、熊走地区でダイコンなどを食い荒らす被害が初めて見つかったことで、自然保護研究者で構成する白山自然保護研究会が今冬、手付かずだった金沢山間部の調査に乗り出した。



その結果、犀川ダムと熊走地区の間の渓谷で、四十頭前後が確認された。成獣の雄が十頭、雌が九頭、残る子供のうち昨年春に生まれたばかりの赤ちゃんが七頭含まれ、平均規模の繁殖集団となっている。

調査員が二、三百メートル離れていても威嚇するなど防衛能力も十分で、白山ろくの猿より人慣れしていないという。周辺では木の芽や皮をはいだ「食痕」が少ないことから、研究会はここ一、二年の間に上流から下りてきたと推測する。

金沢山間部で猿が増えたのは、冬の自然環境の厳しさが暖冬で和らぎ、越冬した子猿が繁殖に参加し始めたためとみられる。白山ろくでは七十頭前後で群れが分裂する傾向があり、研究会は今後、繁殖状況を見守り、冬場以外の行動範囲も把握する。石川県内のもう一つの猿生息地、白山ろくとの交流状況を探るのも今後の課題となっている。

群れを確認した県県民交流課の滝澤均企画専門員は「二年前の猿害以降、被害報告はなく、現段階では人間社会と一線を画している。個体数が増加した時に猿がどんな行動を取るかで保護、管理の在り方が変わってくる」と話している。

金沢の降雪量 3カ月で75センチ

金沢の今冬の降雪量は二日現在で七五センチとなり、暖冬傾向が続く平成以降でも最も少ないことが金沢地方気象台の調べで分かった。観測が始まった明治二十年以降でも四番目の少雪で、同気象台は今後、金沢でまとまった降雪が観測される可能性は小さいとしている。

金沢地方気象台によると、金沢の降雪量は十二月が五四センチ、二月が一六センチ。三カ月間の平年値二九二センチの四分の一にとどまっている。

これまで最も雪が少なかったのは明治三十五年度の五六センチ、明治二十二年度の六二センチ、昭和六十三年度の六五センチと続き、今冬はこれに次ぐ記録的少雪となっている。

今冬、平成で最少に

昨冬の九八センチと併せ、観測史上初めてとなる二年連続の二ケタ降雪は確実で、金沢地方気象台防災業務課は「今冬は寒気が長続きせず、ドカ雪もなかったので一層、雪が少ないと感じるシーズンになった」としている。

ちなみに降雪量が最も多かったのは昭和元年度の七一二センチ。三八豪雪の年は五八七センチ。また、今冬の金沢の十二、一、二月の平均気温は五・一度（平年三・六度）で、観測史上十一番目の高さとなっている。

春の小屋酒場

5月23日（土）　晴

午前6時ダム集合　　旧道整備（主に分岐－頂上間）

田村　昭夫（0期）　舟田　節子（15期）　椿川　利弘（18期・日帰り）

栂　典雅（19期）

午前8時工学部キャンパス集合　　トイレ構築（配管・基礎工事・枠組）

辰野　隆義（13期）　大島　良治（13期）　吉田　穂積（13期）

上馬　康生（15期）　坂尻　忠秀（15期）　北川　隆次（16期）

清水　重仁（16期）　久富　象二（20期）

24日（日）　曇　9時頃から雨　　資材準備（木切り出し・石運搬）掃除

大島・坂尻…6時引き上げ

栂・久富…8時引き上げ

残り…11時引き上げ

0期　田村　昭夫

拝啓、先日はお世話様になりました。

膝の痛みは全くなくなり、昨日（27日）会津に帰りました。今後反省して、山下りのトレーニングを積むつもり。

五ケ条の誓文の草案者は、越前藩の由利公正でした。北陸州立大学法学部を福井に移す理由の一つです。

例の論文は金大理学部物理学科に提出するつもりです。

追伸　来年はサッチャー女史歓迎レセプションに、御主人と参加されまして、日英鉄の女同志の友情を築いて下さい。

13期　吉田　穂積

歯科技工士という仕事がら、バイトワックスというものが溜まる。診療室から送られてくる噛み合わせを記録したものである。

何かに利用できないかと考えたところ、原料がパラフィンワックスであり、山小屋でも使えるローソクが良かろうと、ありあわせのもので作ってみることにした。

芯にはティッシュペーパーをこよりにしたもの、ローソクの外形を作るものとしてトイレットペーパーの芯を利用した。

まず水に濡らした紙を敷き、その上に同じく濡らしたトイレットペーパーの芯を立てる。そこに溶融ワックスを流し込み、そのあとのワックスが漏れ出ない為の底を作る。その中に、作っておいた棒状ワックスを詰め込み、中心にティッシュペーパーのこよりを差し込み、隙間を溶融ワックスで埋める。冷却固化したら、まわりの紙をはがして出来上がり。

春の小屋酒場で使用してみたところ、炎は大きく明るかったのだが、煤が多く、融けたワックスが多量にたれてくるし、芯が伸び過ぎて、時折端折ってやらないと危険を感じる程であった。灯油ランプの芯などは毛管現象の強いものであればそれで良いのだが、ローソクでは先端が燃え尽きて芯の長さが常に一定でないと具合が悪いことに気付かされた。

今度は改良版を持って来よう。

登山道整備最新情報！

１８期　椿川　利弘

今春の高三郎登山道整備の参加者は、田村さん、舟田さん、栂君と私の４人と実に淋しいものであった。私自身、高三郎という山が自分たちの山でなくなって久しいＯＢにとって、登ること自体厳しいのに何故今さら登山道整備をしなければならないのかと言う疑問は確かにあった。しかし、実際作業を始めるとそうゆうことは忘れてしまう何かがあってまた参加した。

午前６時過ぎに犀川ダムを出発して山小屋開きをした後、旧道を登り始めた。標高 800ｍまでの急な登りは相変わらずであるが、登山道は十分整備されていた。その後の稜線沿いについても新道との分岐までは、昨年までの整備のおかげか、歩きながら作業を進めることができる程度の状況であった。

分岐に到着したときには、暑さと空腹で既にバテてはいたが、舟田さんのボッカしてきた冷たいビールとシャーベット状のサラダで昼食をとって元気を取り戻した。いよいよこれからが本番となり、登山道を遮っている木の枝や笹を切り払って高三郎の頂上まで進んだ。

頂上はブッシュで全く展望が利かない。確か５月の山頂は必ず残雪があって展望できたはずである。しかし、考えようによっては、残雪があれば登山道整備もできなかったわけだし、雪のない山頂も実感できなかったのである。登山道整備の一応の完成を喜こんではみたが、白山や金沢市街地どころか周辺の山々も見えないことが残念でならない。次回現役に頂上のブッシュを刈ってもらえば、登山道整備のやりがいになるし、高三郎の登山者も増えるのではないかと言うことになった。ただ、一帯は犀川源流の森林保全地域であり、刈りすぎないようにし、ダケカンバは残すように気をつけたい。（栂からの忠告）

帰りは分岐までを手が挙がらなくなるほど更にきれいにした後、栂と私は新道を田村さんと舟田さんは旧道を下りることになった。新道については、成ケ峰分岐までの痩せ尾根は問題なく歩ける程度に整備してあり、その先は非常にきれいに整備が行き届いていた。

ベルクハイムに午後４時過ぎに着いた時にはまだ小屋作業班が一生懸命働いていたが、我々は疲労困憊で手伝う元気はもうなかった。私は日帰りなので一人犀川ダムに向かうことになった。途中、倉谷で出会ったカモシカがご苦労さんと言ってくれたような気がしてとても嬉しかった。

おまけとして、白山の最新の状況も報告することにしよう。

この２週間後の６月７日（日）に日帰りで砂防新道往復の白山登山をした。今年の白山は新聞で報道されているように雪解けが例年より２ヶ月近くも早く、既にクロユリの花が咲いていた。積雪が少ないうえ登山客も多く、もう夏山

の様相であった。私にとって3年ぶりの白山であったが、行きも帰りも標準コースタイムより1時間以上も速く、これも高三郎で鍛えたためではないかと思った。登山道については、室堂から御前峰までは石畳の様に整備されており、何か白山らしくない感じであった。

嘗て、高三郎と白山はワンゲルのホームグランドであった。しかし、今、新トレは医王山がメインとなっているようである。中高年登山客が増えて、白山が変わって来ているのに、良くも悪くも高三郎は何も変わっていない。

高三郎 TWICE

15期　舟田　節子

＜何故か登山道偵察＞

ゴールデンウィークの山は…というよりそれ以前の春山からして、今年は散々という様相になってしまった。暖冬のせいで早々と雪が消えてしまったからである。

残雪をもくろんだナカオ山岳会恒例のテン泊山行はお流れとなり、おまけに天気回りも悪くて、せっかくの連休は高三郎の日帰りのみがメニューとなった。私にすれば…3週間後に登山道補修に行く予定の私にすれば、エッよりによって高三郎！？なのであった。北陸にあっては、残雪の白山を筆頭に、それを遠景にしてのタムシバ、シャクナゲ、水芭蕉に飾られた春の低山はどこもかしこも魅力的で、行きたい所だらけなのである。なのに、2回も、あの藪山かいな…。このあたりフクザツ。高三郎は今も「金大ワンゲルの山」と言われている。それが藪に埋もれて、通い路も定かでなくなって…そう聞いて心傷まない訳はない。こうやって山を続けるなら、金大ワンゲルのOBですと名乗るなら、やはり粗末にできない山なのである。藪でパッとしなくて、犀川ダムの奥にひっそりと世間擦れすることなく鷹揚に構えている…きっと金大ワンゲルの訪れを待っているだろうと、そう思えてしまう山なのである。

ともあれ、軽い溜息をついて、登山道補修の「偵察」ができるもんね、で5月4日、高三郎に向かう。ナカオの一行9名様プラス、夫、プラス小6の三男坊の面々。三男坊の方はこの所サッカー漬けで、当方も十分その母として迷惑を被っているけれど、今日はサッカーで鍛えたお御脚拝見とおだてて連れだしてきた。

ワンゲルの思い出が何層にも重なった山に、こうして今の山仲間や、家族と登りに来るのは結構面映ゆいような気分である。だけど、これ以上の幸せもない。あのワンゲル時代にこんな日が来るなんて、どう想像できただろう。

結婚や子育ての連続で、もう山なんて大昔の話のように思い込んでいた日常に、突然舞い込んだ25周年山行のお誘い。あれで久し振りの白山に登って、久々に寄った書店の山のコーナーでナカオ山岳会の本を見つけて、そして出した入会希望の手紙。当時は「女性は未婚」の前時代的入会規定があって、例外が認められたのはワンゲルのキャリアのお蔭だったし、四季を通じての山行に何ら気後れしなかったのもワンゲルのお蔭だった。ひょんなことで日曜ゴロ寝族の夫も山菌に感染し、家族登山もやれるようになった。地図とガイド本を拡げて、夫とああのこうのと予定をたてている最中にも、ふと夢ではないかと思ったりする。書店の本を手にして手紙を書いての行動をとったのは私自身だけれど、何もかも、あの、こ汚い字の「金沢大学ワンダーフォーゲル部」の封筒から始まった。それを忘れたことはない。

だから6年前の剣岳の滑落事故の時は、ワンゲルOBとして何もできない自分が悲しかった。このままではOBと名乗る訳にはいかない。現役をサポートできるOB会を作ろう！

今、40周年にむけて準備を始めている。先日

は若干こじれて、「こんな甘えと怠慢の充満したOB会なんか、潰せばいい」と思ったりもしたのだ。それが、こうしてナカオ山岳会の人達や家族と高三郎へ向かっていると、なおさらあのこ汚い字の封筒を思い出す。見たこともない現役がくれたあのお誘いが、今日のこの日に繋がっている…。やっぱりOB会、やるしかないんだ…。

前日までの雨でダム湖も沢も水量豊か。順当に旧道で登りだす。普段は登っている最中は頭の中が真っ白の私なのだけれど、さすが見慣れたシーンばかり。あっちもやったしこっちも…で登って行くのは楽しかった。「ここ伸び放題だったんですよ」と言う時には誇らしくさえあった。三男坊は、「あーあ、物好き」といった顔。バテ気味だった夫の方はそう言い切る余裕はなかったよう。こんなキツイ山の整備に来ているオッカチャンの秘めたる「若さ」に恐れをなしたんだべ。

シャクナゲの花はもう落ちており、分岐近くになって、満開の木も見られるようになった。分岐からしばらくの所の残雪の上で15名くらいのグループが昼食中。その50mばかりの道沿いの残雪の他には、頂上手前の窪みに20m四方の残雪があるのみであった。したがって頂上もあいかわらずのススタケの藪の中。昨秋、田村教祖様と記念写真を撮ったその場所で、親子三人の記念写真を撮った。

帰りは新道を通る。分県ガイドでは、「新道が通れなかった」の苦情が多く、第2版では旧道往復に内容を変えざるをえなかった。昨年のM氏が整備しているという情報を含め、ナカオでも是非確かめておきたい箇所だったのである。結果は通れた。しっかり鉈で刈り払われ、すでに踏跡が定まりつつある状態だった。三年前にはコシアゲ谷に道ごと落ちている箇所がいくつかあって、枝渡りをしなければならなかったのに、道状態で通過できた。赤布がいくつもついていて、整備にその団体も加わっているものかは判らなかった。

ともあれ3週間後には、例年なら残雪の下のはずの分岐－頂上間が楽々やれてしまうことははっきりした。

朝8時半に出立したダムに帰り着いたのは、午後5時半。「白山よりずっとキツイ」「さすが覚悟のいる山」の感想を、（んだ、んだ、そんな山の整備をやっているのが我が金大ワンゲルだべ！）と鼻高く聞いていた私であった。

＜本番…何故かワンゲル精鋭軍団＞

紆余曲折を経て、6時にダムに確実に集合するのは3名となった。食糧をどう運ぶ？結局日帰りで個人装備の少ない椿川さんを当てにして、「大きいリュック持ってきて！」で担いでもらった。作業しながら日帰りで頂上までなんて…現役時代以上の重労働。ご苦労様でした。結果的には梅さんもダム出立時刻に間に合って、4人で倉谷に向かう。

3週間前、鼻高く聞いていたけれど、まあ、これが現実。子供でも登れるし（3週間前、新道で擦れ違った家族連れには、小4の女の子がいた）、40過ぎで山を始めたって（夫のこと）登れる。…どうして、ワンゲルOBにとってこんなに山が遠くなったのだろう？

あの偵察の次の週には、公民館の体育委員の人達14名の講師として大嵐山に登った。その次の週には登山教室の臨時講師で70名を引率して富士写ケ岳に登った。そこらじゅう中高年登山者だらけなのに…。これがまた責めていると受け止められるんかいな。山が好きでワンゲルが続いた人達なら、中高年グループの先頭を歩いていても…その方が自然のようにも思えるのに。

ナカオも、医王山のナカオ新道の整備をやっている。その日は普段顔を出さないような会員だって出てくる。誰も「そもそもナカオ山岳会は…」なんて言わないけれど、ここがナカオの原点であって、ナカオの会員と名乗るからには事の優先順位を変えてでも参加すべき山行と皆わかっているのだ。その日は女性軍はナカオのシェフのTさんと三蛇の滝に先行して、リッチな昼食の準備に励むのである。男は男なりに女は女なりにそれなりの役割分担をして「ああきれいになった」「よかったよかった」で酒盛り。楽しい充実の一日だから、さあやるぞと次の年も皆参加してくる。

高三郎だって、金大ワンゲルの原点じゃないか。ダムまで車で入れるし、人数がいれば適宜の分担ももっとやれて、もっと整備し易くなる。

「体育部ワンゲル学科卒」って言ってた人も、ワンゲルの為（とは言えないが）に留年の憂き目にあった人も…あの頃みんなワンゲル漬けだった。ワンゲルを肯定していたから卒業まで部員でいたのだろうし、OBということになったのだろう。それなのに、高三郎の道が荒れていると聞いても、心傷まないのだろうか？

そんなつい口に出てしまうグチに「いいOB、悪いOBと差別している」なんて返し方をされると、絶句してしまう。今の私の山仲間達は、重たいものもザックにしのばせて、山頂でのミニ宴会を楽しみ、これ以上の極楽はないよねえ。さあ来週はどこへ行こう…なんてニコニコしている連中ばかりなのだ。「ワンゲル」って、山に登るクラブでなかったんけ？今頃になって、また「ワンゲルとは？」の疑問が頭をもたげてくる。そんな机上のOB論なんてもちろんやりたくもない。「高三郎が荒れているって」「わぁ、たいへん。行こう。」「やろう。」そんな声が次々と上がるOB会だったらよかった…。

天気回りがよくなった御蔭で初夏。暑い！高三郎ほど沢音が恨めしく、かつ魅惑的に聞こえる山はない。ゲータレードも麦茶も、ポテトサラダもオレンジも皆凍らせて、それにビールやトマトをドッキングさせてきた。これらで騙しつつ、分岐まで這い上がらなければならない。

田村さん、椿川さん、梅さんは作業しつつ登り、私はその間を休憩・歩行時間に回してもらって、それらのボッカに徹しさせてもらった。分岐に着いた時はもうフラフラ。昼寝タイムにしたいくらい。分け合ったロング罐ビールの100mlばかりが、この世にこんなおいしいものがあるか！だった。丁度金沢に来日中のサッチャーさんにからめ、彼女を高三郎に招待しよう、そうしたら3m歩道があっという間にできるぞ…なんて馬鹿話をしつつの昼食の後、作業にかかる。

ウラジロヨウラク、ヒメシャガ、ヤシオツツジ、そしてもうイワカガミの咲く道を刈り進む。リョウブ、マンサク、クロモジ、タムシバ、ブ

ナの木々と格闘し、頂上へ。相変わらずスス竹の真中の、これ以上登らなくてもいい！だけが取柄の頂上に座り込む。ハエもやたらに多く、コップの中にすぐ細かい虫が浮かび、ほんとに「あーあ」の頂上なのである。この頂上の伐開は、秋の現役にお任せすることにしよう。

途方もない話であるようにも思えた登山道整備はついに頂上に達した。ちょっと整備の手が入ると、それでルートが定まって踏跡もたちまちしっかりしてくる。手強い思いをした箇所がそうとは気付かないただの道の一部になっているのを見て、「道」というものはつければみんながそこを歩くんだと今さらのような事実に感動も味わった。

5年前には考えられなかったこと…ホームグラウンド高三郎の伝統が、部のアルバイトとして維持されることになり、小屋もそんな作業の基地として現役が利用するようになった。OBの金脈で資金が調達され、OBの人脈で補助金獲得ができ、OBの技術力で小屋が快適になりつつある。日常の方はグチだらけ、何度も切れているが、やっぱりやってよかったOB会なのである。

＜そして酒場編＞

下りは慣性の法則に素直な私の方が断然早く、スキーで痛めた足をかばわれてもう片方も痛められてしまった田村先輩が意外な時間をくってしまわれた。私のもろもろのグチも会津からの「田村です！もちろん高三郎組で参加します！」には、毎度粉砕されている。創部者ならどこの部にもいるだろうけれど、教祖であり続ける方は極めて稀に違いない。

そんな訳で小屋に着いた時には、新道経由の栂さん達の方が先に着いており、椿川さんも帰った後だった。5時を過ぎているのに酒場隊の作業の手は止まることがなく、久富さん奮闘の釜炊き飯が香ばしいお焦げの匂いを漂わせ始めた。

春とはいえ、一ケ月早い陽気で、どれだけ食材を現地調達できるかわからない。結局近江町で買ってきて、荷運び人夫がいないから加工済で持ち込むことにした。10数人分の皮をむいて茹でたり、炒めたり、凍らせたり…3時までかかって5時に起きてになってしまい、高三郎の上りは三週間前とは比較にならないくらいきつかった。こんなこと書かない方が奥ゆかしいし、くどくもなるし、余計尻込みさせもしてしまうのだろう…。私みたいに書かずに、男は黙っての人達も、皆それぞれの無理をして、なおかつそれでも楽しいと参加してくれて、さらには声をかけている小屋酒場なのである。私も「これ何？」「えっ、これも舟田さんが作ったの？」を楽しみにニマニマ、バタバタとやってしまうということなのだけれど…。

という次第で、ウドのきんぴら、きゃらぶき、

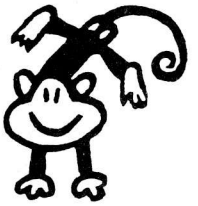
カタハの含め煮他を並べ、用意してきた山菜で天麩羅にとりかかると、タラノメ、ミツバ、アカシヤの花と現地調達も次々加わる。カタハを炒め、ウバユリのスライスは酢味噌和えとなり、これにメインが牛丼で、冷凍カニの鍋付きである。小屋酒場に参加したら食い物での文句は言わせぬと、小屋のオバハンとしての誇りにそれなりに燃えてしまうのである。皆においしいといってもらってさらに持ち込んだ量で過不足なしで、ウン今回は95点！なんて自己採点をして楽しんでいる。

（尚、４期森島さんからの差し入れを食費に流用させていただきました。ありがとうございました。）

ローソクをともせば、寛ぎの酒場タイム。このローソクは穂積さん特製。下界ではつい時間を気にしてしまうが、そんな時計をみなくてもよいことも、テレビの番組はなどと思いもしないことも小屋のよさなのかもしれない。先程奮闘の排水管の接続など、請求書を出せば10万円を越える作業になるそうで、それを時給の高いＯＢが、指図するんじゃなくて自分の手でやっているんだからね…で、大笑いしてしまった。辰野さんが設計した仕事を大島さんが施工していたり、その為に打ち合わせをした相手が上馬さんや栂さんのよく知っている人であったり、いろいろ人間関係が重複していることや、その道のプロならではの話も聞けて楽しかった。

ワンゲルにいる時も、ワンゲルがなければ、こんな異学年の人や違う学部の人との交流はありえないとも思ったものだが、ＯＢ会をやらなければ、卒業してからのこんなひとときもありえなかった。酒場初参加の久富さんも「まさか卒業して20年もたってから、小屋で酒を飲んだり、石を担ぎあげたりするなんて…信じられない。」と言っていた。

現役時代にも「馬鹿になれ」のセリフが好きな人がいた。「ＯＢの資格は…」とか「勝手に」とか「迷惑」とか…あれこれ言っているより、まず参加して、楽しんでほしいなと思う。40周年をひかえて必然的にミーティングの後半は役員会になってしまった。参加者のほとんどが役員に重複してしまう…これがまたウーンの現実なのでありました。



春の山小屋酒場だより

代表オヤジ　13期　辰野　隆義

ワンゲル（大学ではない）を卒業して25年、またこんなに山小屋にのめり込むことになろうとは思ってもみなかった。

秋の月見の宴での山小屋のさびれ様を目のあたりにした時の気持ちを今も思い出す。久々のベルクハイム。卒業以来20年振りか！昔の懐かしい顔が揃い、若い後輩連中の顔も多数揃っている。皆ワンゲルを中心に集った仲間達だ。

しかし、何かが違う。昔の小屋とは何かが違うのだ。十数年前にリフォームされたとは聞いていたが、それだけの違いではない。昔のようなベルクハイムへの「思い入れ」がないように見えたのだ。小屋の前には残材の山、まわりは草ぼうぼう。水もかまども囲炉裏もなく、昔の小屋を知る人間としては、実に淋しい思いをさせられてしまった。

その時、漠然と、ベルクハイムを何とかしたいなという思いにかられた。そして、同期の数人だけで、時間がかかっても少しずつ、昔のような心安らぐ所にしたいと、連中に話をもちかけた。

ところがいつのまにか、それがＯＢ会の一行事として開催されることになり、ほんの個人的思い入れが前面に出てしまうことになった。そしてさらに高三郎の登山道整備ともからまってしまい、私としてはなんとなく釈然としないな

がらもとにかくスタートした。

その時以来、

96年春　小屋入口道の整備、階段取付

〃　秋　水場の整備

97年春　小屋の石積、基礎モルタル補修
　　流し・かまどの整備

〃　秋　便所造りに着手。木材の伐り出し

98年春（今回）便所の骨組の組上げ、及び
　　排水管、給水管の敷設

と、5回の山小屋酒場を開催するうち、あのさびれ感はなくなった。現地の地形を読み、現地の資材を調達しての、ぬくもりと遊び心が漂う空間ができつつある。

「辰野さんは、一生懸命にOB会をされているから…。でも、自分はそこまでやれないし…」の後輩OBの言葉を耳にした。回りから見ればそんなふうに見えるのかな？

この言葉こそ、山小屋酒場のみならず、5年たったOB会のかかえている問題の根源をつくものなのでしょう。

誰かが何かをやらなければ、その会は有名無実のものとなってしまう。しかし誰かが頑張れば（私のように個人的思い入れの延長でやっている場合であっても）、ちょっと距離を置いている人は、さらに距離があいた感じを受けてしまう。活動が具体化し、参加できる機会が増える程、何もなかった時より「参加しない」事実も増えて、かたや活動する人は浮き上がり、かたや活動しない人はかえって活動しないOBのレッテルを重ね貼りされた気分にもなり、ますます気後れする。

このジレンマに落ち込みかけているのが5年を経た今のOB会だと思うのです。この解消に方法論はあるでしょうか？

「一生懸命OB会をやっている」と見做されている私自身も、日常は忙しさに紛れ、OB会のことなど考えている余裕すらないのが現実です。仕事の内容も、山や自然とは掛け離れた殺伐としたものばかりです。

そんな中で、ああそろそろ山小屋酒場の段取りをしなくちゃ…と思う時には、その時点では不意にギヤを入れ違えたようなプレッシャーがかかるのは事実です。このギヤチェンジのショックは私が社会の現役である限り薄れることはないとも思います。しかし一旦チェンジしてしまえば、今回は何人くらい参加してくれるかなと思いながら、作業の内容を押さえだしています。その時点では酒場での時間を楽しみにしている自分がいるだけで、「頑張らなくては」と悲壮な顔をした自分がいる訳ではないのです。「無理せず、楽しく、迷惑かけず」のモットーの範囲でやっていることだからです。

前回の山小屋酒場参加者は3名（登山道補修隊を加えれば6名）でしたが、それもまた良しなのであります。たまたま時間がとれて、たまたま久し振りに小屋へ行ってもいいなあという人がいて、それらの人が負担にならない程度の

作業ができて、楽しく酒が飲めた…ただそれだけなのです。もし私が小屋酒場の段取りが苦痛になったり、参加者の数に不満を感じるようになったら、オヤジを辞退するつもりです。

重ねて言わせてもらいますが、特別気張っている訳でも、張り切っている訳でもなく、楽しいから、リフレッシュできるから、言い換えれば自分の為にやっている様なものなのです。自分の価値感においてやっていることで、他のＯＢにとやかく言うためではないのです。では他のＯＢがどうでもいいかというと、もしこの気持ちをそのままにわかってくれる人がいて、一緒に楽しくやろうと参加してもらえるならと、お誘いする姿勢は持っていたいのです。

私自身のＯＢ会への考え方も同じなのです。役員の方々には確かに負担がかかり、曖昧で済ませられないことが多々あると思います。それでも他のＯＢに強制はできないし、強制すべきでもない。強制はしないけれど、すべての人にお誘いの声をかける、常に門戸を開いているＯＢ会であって欲しいと思うのです。40年たち、500名もいれば、いろいろな考えの人がいるし、案内を見もしないＯＢもいるかもしれません。それでも、金大ワンゲルを卒業した人ならば、心の奥には、もう一度ベルクハイムを訪ねてみたい、高三郎に登ってみたい、総会で昔懐かしい顔に会ってみたいの願いがあるのではないでしょうか。何年たっても、思いたって行事に参加した時には、時間を超越して楽しめる、いつでも温かく迎え入れるＯＢ会であって欲しいと思うのです。

私もいろんな所から案内がきます。ワンゲルＯＢ会、金大工業会、高校同窓会、仕事関係の会など、定期的に来るものだけでも７－８通はあります。その中で気に留めるものはワンゲルＯＢ会ぐらいで、後はたまたま気が向き忘れていなければ会費を納入したり、返信をする程度。こんな自分を省みれば、ＯＢ会の通信が幾つもの通信の１通に過ぎない人があっても止むをえず、模範生のようなことを言える立場でもないと思うのです。その人その人でワンゲルの意識順位が違うのはどうしようもなく、連絡がないからと責める気にはなれないのです。

しかし現実には、自分の貴重な時間を費やして運営されている方々の多大なる労力があることも事実で、それに対して何らかの方法で意志表示することはエチケットだとも考えるのです。方法はいろいろあると思います。一言通信、会費振込の通信欄、企画への返信、電話、はがき等連絡手段はいろいろあります。ホームページも開設されるそうです。今まで面倒臭かったり、忘れてしまったり、どうでもよかったりした、そんな気後れしている方、ほんの一言でも意志表示して下さい。そのちょっとした行動で、５年目を迎えたＯＢ会のジレンマが、少しでもやわらいで行くのではないかと思うのです。

話はとんだ方向へ行ってしまいましたが、山小屋酒場へ戻しましょう。

今回、昨秋伐り出した木材の小屋組から始めました。簡単なスケッチと、私の頭の中にあることの具象化ですから、100 %思いどおりとはいかなかったものの、かなりの出来であるのは確かです。

前回の作業で筋交いのつもりで寸法取りして伐り出した木材が、ちょっと目を離したすきに短く切られて柱にされてしまったり、当初予定の便器の向きが90度変更になったり、それはそれでワイワイ楽しく作業が進んでいきました。

作業の中で意外にきつかったのが、上の方へ腕を上げての筋交い打ちでした。カナヅチを力を入れて打たねばならないのに、30秒と続けられないのです。万有引力に逆らう難しさを痛感した次第です。万有引力に逆らう点ではもう一つきつい仕事がありました。言わずとしれた河原からの砂、砂利、石の運搬です。屈強の成人男子（?）をしても３往復でアゴが上がってしまいます。下界で行う体力年齢測定以上にはっきりと自分の限界を認識できます。体力測定で

自信のある方は是非チャレンジしてみて下さい。

砂が運び上がった時点でいよいよセメントこねの開始です。と思ったところが、昨春に運びあげたセメント袋が湿気を吸ってカチカチに風邪を引いてしまっていることを発見。一瞬、秋にもう一度あの地獄のセメントボッカをしなければならないのか！と不安がよぎりましたが、ハンマーで叩いてみるとカチカチなのは外側だけで、中の方は使えそう。ほっと一安心。

早速1グループはセメントをこね、骨組の基礎の部分を固定する作業に。もう1グループは排水管、給水管の敷設作業に（さすがにOB会長大島君は本職だけあって、実に鮮やかに作業をこなしていく）。もう1グループは便所に取り付けるドアー枠の作成に。と、誰言うともなくさっさと分かれて作業が進んでいく。さすがに皆さん働きざかりの大人だなと実感しました。

1日目の作業は完了。正直言って1日でここまで進むとは思っていなかったので、大いに満足し、全員に感謝。この分だと明日の作業はほとんどしなくても良いくらい。

当初私が考えていた便器は、半割したパイプを底に埋め込み、コンクリートで回りを固めた形式でしたが、大島君から、どうせやるなら便器を下から持ってこようという提案。陶器の便器のボッカは勘弁してくれということで樹脂製を探してもらうことにしました。思いもかけず立派なものになりそうです。

もう一つ予定変更したものに、汚物処理の方法があります。私はある程度の穴を掘って、そこに溜めることを考えていました。どうせ現在の利用人数は限られているからです。それでもいつかは満杯となるでしょうし、その時に新しく穴を掘って配管もやりかえとなると不可能に近い。それで近くの谷へそのまま放流することにしました。（汚物処理については近年研究も進んでおり、継続課題といった所です。）搬入した材料で、伸ばせる所まで排水管を伸ばしましたが、もう少し下まで伸ばしたく、それは次回酒場に回すことにしました。ともあれ今回は皆やる気十分で、「ご飯ですよ」の声がかかるまでひたすら作業をしていました。

その後はタイトル通りの楽しい山小屋酒場。お代（労働）は既に前払で払ってあります。おいしい食事と楽しい語らいを肴に酒を飲むだけ。特に春は恒例ともいえる現地調達の山菜の天麩羅、酢の物などがでてきて「山小屋」のネーミングが一層輝く感もあります。上馬君や栂君のいる御蔭で、山菜に疎い私が「それ本当に食べれるの？」と思った路傍の草木が、酢味噌で和えられたり、揚げたての衣をかぶって次々と出てくる。ぬめりがあったりしゃきしゃきの食感があったり、春の香りが拡がったり…グルメ嗜好の下界なら、結構な器に入り、その分結構なゼロもついて出てくるんであろう…そんな品々

が、ローソクの明かりの元、ほいほい廻ってくる。初めてのものも結構あったので、あるいはまず頑丈なワンゲルＯＢで試してみて…の食材も加わっていたのかもしれません。もちろんお腹は大丈夫でしたし、こんな所にも卒業してからのそれぞれの年輪がにじみでてきているようで、楽しい山小屋酒場なのでした。

朝に弱い私が寝袋の中でぐずぐずしているうちに、大島君と坂尻君の姿がなくなっていた。大島君は９時には仕事の現場にいなければならないとのことだったし、お二人さんご苦労さん。

朝食を済ませ、跡かたづけをする人、作業にかかる人と分かれる。昨日思いのほか作業が進み、半日のんびりでも良かったのだが、秋の完成をめざし少しでも作業時間をとることにする。まず石運び。便所は男女共用スタイルとしたので、便器を一段高く設置する為の石が必要だ。コンクリートを少なくする分、結構な量の石が必要になってくる。それと、便所の骨組を支えている一番大事な部分が今一不安定で、それを補強するための丸太も必要である。

小屋周辺のめぼしい真っ直ぐな木は昨秋ほとんど伐ってしまったし、もっと奥へ探しに行くのも面倒。と、目の前に丁度よいニセアカシヤがあるではないか。大枝が落ちて小屋の屋根を潰すことがあってもたいへんと、一石二鳥とばかりにチェーンソーでアタック。ところがこれが何とも堅い。四苦八苦の末に伐り出し、寸法に合わせて切断し、端部に丸太を支える為の切り込みを入れる…そのいずれの段階もチェーンソーが踊ってどえらい目にあった。安易な選択をすると、後でえらい目にあうという見本のようなひとこまだった。

それでもどうにか処理して１本支え入れた所で、ポツポツと雨の感触。ここが引き時かと、作業終了。秋の作業に引き継ぐことにする。ホッと一息の皆の目は、快い疲労と、これどんなんになるが？といった楽しさで笑っていた。もちろん私の頭の中では、ちゃんと完成した便所の雄姿が、朝日に輝く大聖堂のごとく、きらきらと見えているのでした。

今回の作業に携わって下さった方々、ご苦労様でした。秋には立派な便所を完成させましょう。その便所を使う第一号は、あなたかもしれません。

停年を控えたＯＢ・ＯＧ諸君へ

0期　田村　昭夫

公的年金制度を、現行の「世代間扶養型」から「積立型」に大至急変更すべきである。即ち、各自が現役時代に積み立てた金額の支給を受け取れば、年金終了である。

但し、これは民間の生産企業に勤務した者だけであり、非生産的企業や公務員に適用する訳にはいかない。我々の血税で雇っている公務員は日給制とし、ボーナス、退職金、年金などもっての外。公務員は使い捨てにする為に存在する。彼等の老後の面倒をみる義務など我々納税者にはない。公僕とは、納税者に雇われた奴隷の意味である。

私は、ある民間会社の元月給取りである。現役時代に私と会社で積み立てた厚生年金が切れたら、その後の年金は辞退するつもりでいる。

「働かざる者、食うべからず」と云うではないか。自然の生き物を見倣うべきである。餌をとれなくなれば死ぬしかない。病院では何の義理で、死ぬしかない老人を生かすのか。病院で負担する全てが、生産年齢にある若い人達に依ることは自明である。

そこに安楽死の道が見えてくる。若者達に夢と希望を与え、彼等に未来を託して、私達老人は残された日々を自力で生き抜いて、鮮やかな光芒を放ちつつ、この世を逝こうではないか。

拝啓

めっきり涼しくなりました。雪便りの恋しい昨今です。是非、野沢のスキー合宿を盛大にやろうではありませんか。

私は毎日、朝からワインを飲みながら超弦理論を考えています。これが出来ればノーベル賞間違いなし。今、シュレディンガーの波動方程式を検討中です。

シュレディンガーは物質の極限が素粒子であることを前提とした為に、あの様な方程式を立てなくてはならなかったのです。私ことワインシュタイン馬鹿士は物質の極限は越弦とした為に自分でもがき苦しんでいます。夏、お渡ししました5枚目の論文に少しだけ追加しましたので、それをお送りします。

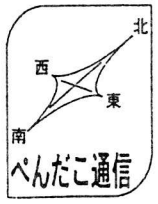
「ネイチャー」からはまだ何の連絡もありません。一足先に「やまざと」であの英文論文を発表いただければ幸甚です。皆さんの意見をお聞きしたいのです。　敬具

(別便)

ネイチャーに投稿した論文は、残念ながら掲載を拒否されました。

新しいパラダイムを作る者は、当初はこの様な仕打ちを受けるのが常です。私の理論はワンゲル諸君には受け入れられるものと信じて疑いません。

会津日報　1998.3



「大学祝典序曲」

田村　昭夫

現在六十歳前後の人で嘗て大学入試を体験された方なら大抵思い出されるであろう。毎晩十一時になると民放のラジオから流れてきた旺文社提供の大学受験ラジオ講座のテーマ曲である。息子が受験期になったので当時を懐かしむ為にCDを買ってきて聞いてみた。なんとつまらぬ曲だろう。私達世代はこの曲に煽りたてられて無味乾燥な受験勉強の彼方に大学合格を夢見たものである。

憧れて入学したところは高校の授業に毛の生えた程度の講義。しかも休講ばかり。期待が大きければ裏切られた失望はもっと大きい。友人達はダンスとマージャンに走っていた。ブラームスの「大学祝典序曲」が色褪せて感じられたのも多分、私の大学生活への幻滅の思い出と重なった為だろう。

現在の日本の大学も四十年前とさほど変わってはいないだろう。猫も杓子も行くようになった現在の大学ではさらに程度が下がっているはずだ。賢い青年は日本の大学へはいってはならない。

God, Existence and Time

A.Weinstein
Bergheim, Kanazawa University, Japan

Introduction

There are known to be four kinds of forces: Gravitational, strong, weak, and electromagnetic. We can find a new force, which I have called 'repulsion', that unites all four forces (Figure 1) by accepting the following three conditions:

i) Absolute time is the surface area of the universe
ii) Time, as measured by a clock, is a parameter of entropy and absolute time
iii) Ultimately, matter are superstrings

Hypothesis

Time can be represented as the surface area of the universe, and can be given by

$$t = 4\pi R^2$$

where t is the absolute time and R is the radius of the universe (Figure 2).

Discussion I

The dimension of absolute time is given by $[L]^2$. The physical image of matter scattered across the surface of the universe is given by

$$\Sigma As/4\pi R^2$$

where ΣAs is the total matter (superstrings) of dimensions $[M]/[L]$.
The dimensional constitution is

$$([M] / [L]) / [L]^2 = [M][L]^{-3}.$$

The dimensional constitution of force, F, is

$$[M][L] / t^2$$

where $t = [L]^2$. Therefore, we can say

$$F = ([M] / [L]) / [L]^2 = [M][L]^{-3},$$

that is to say,

$$\Sigma As / 4\pi R^2 = F$$

Discussion II
Entropy is defined by

$$S = E / T$$

where E is the energy and T is the absolute temperature.
The dimensional constitution gives us

$$S = [M][L]^2 / [T]\, t^2$$

where

$$T = E / N$$

and N is the number of composed matter. Therefore, by substitution, we see that

$$S \quad N.$$

Discussion III
The universe was originally full of energy. However, entropy appeared after the Big Bang. Entropy continues to increase as the universe expands.
Einstein considered that time is the reach distance of light. That is to say,

$$t = ct' \qquad (1)$$

and

$$t = [L] \qquad (2)$$

where t is the absolute time, t' is the time as measured by a clock, and c is the velocity of light. At this time, atoms are considered to have been the ultimate matter. An atom's dimensions are given by

$$[M] / [L^3]. \qquad (3)$$

Substituting (2) and (3) into the formula for the physical image that relates the universe and matter, we get

$$\Sigma \Delta p / 4\pi R^2 \quad ([M] / [L^3]) / [L]^2 = [M] / [L^5] \qquad (4)$$

where Δp represents atoms and R is the radius of the universe. Using the force dimension on one side, we get

$$[M][L] / t^2 = [M][L]) / [L^2] = [M] / [L] \qquad (5)$$

In this theory, no force is induced because time is considered as being one-dimensional. Also, note the strong similarity with Boit-Savart's law.

$$H = \Sigma Ai / 4\pi R^2$$

where H is the magnetic field, Ai is the electrical current, and R is the radius of the current cycle.
Due to the strong similarity of the formulae, it seems apparent that existence equates to a force. I believe that this force unites the existing gravitational, strong, weak, and electromagnetic forces.

Conclusion

I conclude that firstly, existence is the force at the center of the universe by which the universe is expanding. Secondly, this force (named 'repulsion') unites the four existing forces: gravitational, strong, weak, and electromagnetic. Finally, time, as measured by a clock, is only a parameter of entropy and absolute time.

Remarks

I have obtained this important conclusion from a simple hypothesis. I have only discussed details in terms of dimensions. To quote Sir Arthur Stanley Eddington, "The most important thing in physics is to think dimensional equivalency."

Acknowledgment

I wish to thank S.Funada for corrections to my dissertation.

Fig.1 (History of temperature in the universe, during first a million years.)

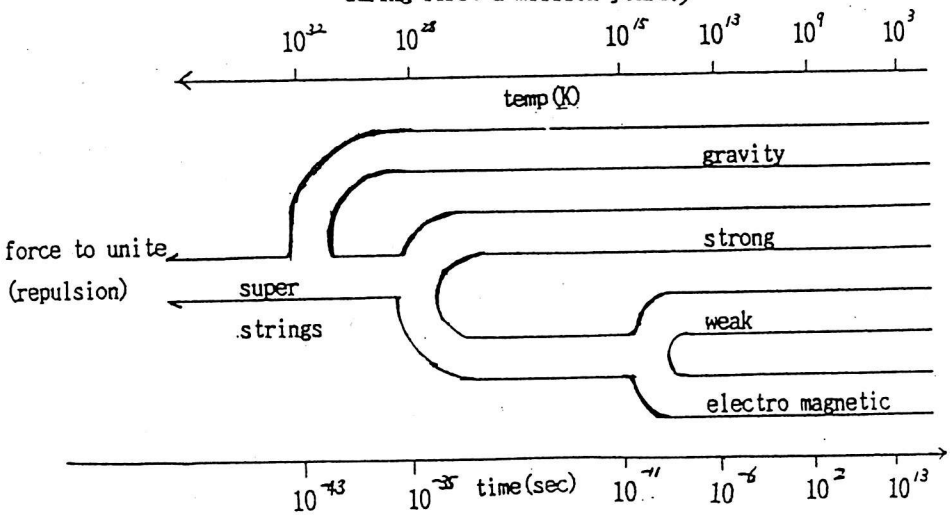
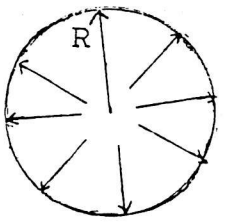


Fig.2 (Big Bang Universe)



$t = 4\pi R^2$

t;universal(true)time

R ; radius of the universe

cf.1

Length of Super String

$l = \sqrt{h \cdot G/c^3} = 10^{-33}$cm

h:Planck constant 10^{-27}g·cm^2·s^{-1}

G:gravity constant 6.7×10^{-8} cm^3 g^{-1} s^{-2}

c:velocity of light 3×10^{10} cm·s^{-1}

cf.2

Einstein's energy equation, $E=mc^2$, was induced approximately from principle of relativity. I, Weinstein obtained easily this equation from Minkowski formula and dimensional constitution.

$x^2+y^2+z^2=c^2t^2$ ------ Minkowski formula

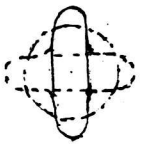
$c^2t^2=[L^2]$ ---------- (A)

$E=[ML^2t^{-2}]$ --------- (B)

substitute (A) to (B), that is $E=mc^2$

cf.3

SUPER STRING(1) observed as waves

SUPER STRING(2)  standing waves on a circle (observed as quantums

ENERGY $(m\,c^2)$ ⟷ MASS (m)

n (T^{-1})

Energy and mass are in proportion to frequency of super string that act as agent each other.

Mass is equal to energy. (色則是空)

m;MASS

n:Frequency of super string

$E=mc^2=hn$

$m/n=h/c^2=(2/3)\cdot10^{-47}$ g.sec

The weight of super string(m) is $(2/3)\cdot10^{-47}$ g

The ether mean super string's sea.

四十年振りの修学旅行

0期　田村　昭夫

三月末に、会津高校の修学旅行で京都へ行ってきた。参加者は約四十人、先生は一人である。

（昭和20年代末の我々の高校時代は修学旅行がなかった。１年下の学年から復活した。）

修学旅行参加者の顔触れを見ると、所謂学校秀才は見当たらなかった。学業とクラブ活動をそれなりにバランスをとっていた連中ばかりである。

秀才達はどうしたのか。私なりに考えてみた。到達した結論は

「秀才達は燃え尽きた」

のである。高校時代は勉強に、社会に出てからは企業戦士として。力尽きた彼等の冥福を祈らずにはいられない。無論、人生のレースはこれで終わった訳ではない。秀才諸君の再度の奮起を促すものである。

私達は幕末の京都で死んだ会津藩士の墓参りもした。会津藩墓地のある黒谷光明寺では、京都会津会の方々の思わぬ出迎えを受けた。

その中のお一人は右京生活を守る会会長として活躍されている由。京都守護職は今も健在である。世界の幕末とも言うべき現在、私達会津人は、堕落腐敗した薩長製のこの国を見限り、世界に目を向ける。先輩達の墓前に額突き、各々誓いを立てた。

昭和55年放映のＮＨＫ大河ドラマ「獅子の時代」の会津藩士平沼銑治役菅原文太のテーマ音楽となった"Our History Again"がその間、私達の耳には聴こえ続けていた。

山で命拾いした話

1990年７月末、私は飯豊山頂をめざして草付きの種蒔山の尾根を一人歩いていた。

青空が急に暗雲に覆われ、雹が降ってきた。雷鳴がとどろき、夕暮の様になった。私はツェルトを被り、嵐の去るのを待った。

網シャツ一枚の上半身で寒さに震えていると、

「もしもし、ここでは危険です。切合小屋まで下がった方がいいですよ。」

と声をかけた人がいた。ツェルトのチャックを外して見ると、山頂から下ってきたらしい完全武装の中年女性だった。

「有り難うございます。しばらくすれば止むでしょうから」

と答えたが、彼女はしきりに下山を勧めた。それでも私が云うことをきかないので、、仕方なく「気をつけて下さい」と云って下っていった。

やがて嵐が止んだようなので、私はツェルトを被ったまま、ゆっくりと立ち上がった。と、突然稲光と同時に雷鳴が轟き、私は大地に叩きつけられた。

それでも私は生きていた。奇跡としか思えない。嵐は去り、青空が戻り始めた。稜線には私一人が茫然と立ち尽くしていた。

先刻の女性は誰だったのだろう。観音様だったのか、マリヤ様だったのか。

私案　北陸州立大学

北陸地方の大学は州立一校で十分である。国立や私立大学はもはや不要である。

北陸州立大学の本部を金沢に置き、医学部、文学部、理学部は金沢大が引き継ぐ。薬学部、経済学部は富山大が継ぐ。工学部、法学部を福井大が継ぐ。教育学部は各県立とする。各地域の伝統と特色を生かすと、この様な配分になると思うが如何なものか。

現在進行中である角間地区への工学部、薬学部の移転を中止して、前者を福井へ、後者を富山へ移す。北陸先端技術大学院大学は現在の辰口で国立のままで良い。

又、学生の数は現在の半分で良い。そして、社会人を受け入れる開かれた大学にする。大学人は角間に籠もらず、香林坊に出没すべし。

少子化がさらに進み、生涯教育が叫ばれる昨今、教育改革は急がねばなるまい。古来金沢は

天下の書府として広く世間に知られてきた。日本の教育改革は金沢から起きて当然である。

以上が私案であるが、これを叩き台として、議論の輪が広がれば幸甚である。

北の都の思い出
紺清君（6期OB）

0期　田村　昭夫

「何時迄大学に居るつもりや！早う卒業せんかいま！」

と彼に叱られたのは、私が大学8年生の時だった。

何とか小立野の専門課程進学が叶った秋、下山君の下宿で飲んで騒いでいた私には、こたえる一言だった。

その場で、彼と一緒に卒業することを約束させられた。もっとも、あと2年半の在籍しか許されない崖っ淵に立つ私としては、彼に云われるまでもなく、背水の陣を敷いていたのだが、率直な彼の言葉を有り難く受けた。

他の諸君も、多分彼と同じ思いだったのであろう。先輩である私に気を使って、口にしなかっただけに過ぎない。

そんな紺清君は、非常に勘の鋭い、早熟な男だった。繊細な神経を持っていた彼は、太宰治の熱心な愛読者でもあった。また、ニーチェを崇拝していて、「ツァラストラはかく語りき」をドイツ語で読みこなす努力家でもあった。

彼の卒論は、教育学部の学生らしからぬものだった。テーマは「愛とは何か」であり、結論は唯一行「愛とは修行也」。

小学校の教諭となってからは「ママゴンとの対決」に疲れて、休職した時期もあった。子供の教育を母親に任せて、小銭稼ぎに専念する父親にも怒りをぶつけていた。多分、現在の教育の荒廃を彼は予知していたのだろう。

短い生涯だったが、彼の残してくれたものは大きい。

＊1　彼の人柄を現す側面

結婚式の時、花婿の彼が、花嫁の肩を借りて酔っぱらって入場してきた。テレ屋の彼のことだから、酒の力を借りなければ晴れがましい場に出れなかったのであろう。

共通した一面を持つ私には良くわかる。

＊2　天国からの紺清君の声

ワンゲルOB会何しとるがいや！舟田にもっと協力せんかいや！しっかりせんかいや！ダラ！

（教祖よりOB、OG会員へ）

会費未納、音信不通のOB・OG会員は、左手の小指第2関節をツメて、舟田事務局長迄、送付すべし。期限5月末日。

（編者注；編集時点で期限切れです。
該当する方、よかったですね！）

背くもの　（遺稿　'69.1）

金沢市立牧山小学校
6期　紺清　敬一

「8時からテレビを見た。ふるさとの歌まつりだ。それも、ぼくたちが今一番関心を持っている沖縄からだ。踊っている。歌っている。でも、歌は何を言っているのか、さっぱりわからない。きっと琉球語なんだろう。しかし、踊りはじょうずだ。きれいなねえちゃん。ほんとに美人ばかりだった。みんな賑やかに楽しんでいる。

でもこの賑やかさの裏で、心はいつもB52等の怖さでいっぱいなんだろう。そう思うと、あまりいい気持ちでテレビを見ていられない。でも、テレビを見る限り、沖縄の人達は楽しそうだった。テレビで中継しているんだし、司会の宮田輝もおもしろいことを言う。それで観客は大いに笑い、賑やかなのだ。

沖縄から早く返事が来ないかなあ。今頃書い

ているのかなあ。ぼくらも手紙を出すまで大部かかったから、あまり急がすことはできないが、返事が楽しみだ。無事に向こうに着いたのか心配だな。そういうことは多分ないだろう。

テレビを見た後、ぼくは年賀状を書き始めた。「おめでとう。今年もよろしく。」「謹賀新年」「賀正」などいろいろ文句を書いている。でも、本当にめでたいから、本当に心から相手に愛を向けて書いているのだろうか。

ぼくが見ている限りでは、そうではないように見えた。ただ、相手が私の所に出してくれるから、出さないと相手が変な気持ちになるから、仕方無しに出すように思えた。そんな年賀状はカッコばかりでだめだ。こんな不誠実な書き方に、ぼくは少し腹が立ってきた。ぼくの所の姉ちゃんは、その点、最高も最高、最低だ。自分で書いて出すものを、かあちゃんに書いてもらっている。ぼくは頭へカッカと来て、はがきを引き取って、「いやいや書いて、その上、かあちゃんに書いてもらっているくらいの年賀状なら書くな。」と言って、引き裂いた。

いやいや書くのだったら書く必要はないんだ。だけど、いったいこんなこと、誰が決めたんだろう。」

この文章は、私のクラスの6年生の奥野正昭が12月26日の生活ノートに書いたものである。この後彼は、私に次のような年賀状をくれた。あの狭い紙面に、虫眼鏡で読まなければならないような小さな字がぎっしり詰まっていた。

「おめでとうございます。ぼくにとってはあまりおめでたくありませんが、先生と知り合ってからは、4年生までの生活とガラリと変わって、先生流、いや紺清流の方法で生活を始めた。田んぼをちらりと見ただけでも思い出すことがいっぱいある。

巨大な雪の芸術。長さ50m、高さ15mのスフィンクス。目のあかぬような吹雪の日でも、寒さに震え、手を痺れさせてながら、絶え間なく作った白い神。体育の時間や図工の時間、放課後と、ぼく達はスコップと一輪車の奴隷となった。ついに完成！

あの時初めてぼく達は働く喜びを知った。終わった時のあの清々しい何とも言えない気持ち。働くということは最高のことだ。ぼくら百姓は稲を作る。ものを作るということは最高だ。人間は創造することが大切なのだ。壊すことは軽いが、作るということはたいへん困難なことだ。そしてそれよりはるか上のもの、人間を作るというところまでいかなければいけないのだ。

それからこういうこともあった。あの頃のぼく達の頭の中は「自由とは、自分の好きなことをやることだ」と思っていた。そしてぼく達はそのことを先生に要求した。ぼく達の先生は変わり者だから、ちょっと考えていたが、ぼく達に自由な日を一日くれたのだ。ぼく達はそれぞれ学校で自分勝手に行動した。勉強する者、寝る者、スキーに行く者。だが二時間、三時間とたつうちにだんだん飽きてき　。結局全然おもしろくない一日だった。あの一日のぼく達のだらしなさ。まるで死んでいるような生活を送った一日。ぼく達はそこで初めて新しい一つのことを発見した。自由とはそんな生易しいものではない。もっと深い意味が、自由の中にはあるのだということが。

こんなことをしながらもぼく達の生活は、その頃いきいきとしていたようだった。いつも苦しみにぶちあたり、それを乗り越えていった。大きい山、小さい山を越える。人間の一生は山登りをしているのと同じだ。そして、先生のいう真理、愛、誠実がいつも頭の中にあった。

それが、6年生になると、複式になったため、5年生がぼく達の新しい仲間になった。それから少しずつつぼく達はボロが出始めた。全く班に協力しないヨッチ。どれだけ追求しようがヘッチャラ。毎日毎日遅刻、忘れ物のオンパレードだ。のろまで、毎朝家へ呼びに行ってもなかなか出てこない。みんなで背中を押しながら学校へ連れてくる。どれだけ皆と一緒に遊ぼうと言っても一人でいる。班員が交替でヨッチの家へ毎日掃除に行っても、次の日行くと、部屋はまたバタバタ。とにかくやる気がないんだから。刑務所へ行ってもいいと言うんだから。「真理なんかいらん。ぼくなんかどうなってもいいも

ん」だから、誉めても怒っても叩いても、みんなダメ。4月から7月までの間、ぼく達の生活ノートはヨッチ、ヨッチでギッシリ。家の人は「ウチのダラ」といって全く関心なし。先生もホールドアップでノイローゼ。ぼくらもノイローゼ。先生は一度物凄いのに叩いたけれど、ワーンと泣くだけで一時間もたつとケロリ。先生は、人を叩いて言うことをきかすことはできない、ダメだということがわかった。そしてついに先生は決断した。今はルンペンだ。先生もぼく達も、これがヨッチンを良くする最後の方法だと思ったのだ。

それからもう4ケ月が過ぎた。以前として班に入ろうとしない。先生は時々「おまえ、そろそろ班へ入れてもろたらどうや。」と言うが、「どうせみんな入れてくれんやろ。」で終わってしまう。今は広い体育館を一人で掃除している。先生はぼく達に「どんなにヨッチを見てイライラして、何か言いたくなってもグッと我慢しろ。つらいだろうが、見ていられないみんなの気持ちはよくわかるが、そうしないといつまでたってもヨッチは、協力の素晴らしさがわからないんだ。かまうな。怒るな。もうしばらく一人でじっと考えさせてやれ。」と言う。初めはぼく達も辛かったが今は慣れてきた。時々物凄く憎らしくなることがあるが、そんな時、先生は「ヨッチはおまえらの鏡だ。宝だ。」と言う。ヨッチを憎らしく思う心が起こった時、自分の心から愛が消えていくからだ。一人でも嫌いな人間ができたら、真理ははるか向こうへ去って行く。それで、三学期こそヨッチが班に入ってくれることをぼく達も先生も願っている。

こんなふうにして、ぼく達は段々変わってきた。二学期は説教の連続だったが、そのたびにぼく達は先生からいろいろと大事な事を盗んできた。

だが、これくらいではまだまだダメだ。森本中学を引っ張っていく力なんかつくはずがない。反対に引っ張られる。卒業まで日は短い。一日一日をぎりぎりいっぱい生きていかなかったら「ああもう卒業か。」というふうになってしまう。だからこの冬休みの間いっぱいエネルギーをためておくぞ。そして三学期はエネルギーのあるだけを出して考える。中学に行ったらすごい奴がうじゃうじゃいるからな。ボサーッとしておれんぞ。ぼく達は森本中学を引っ張ることで満足しない。宇宙の支配者になるんだ。その第一歩として森本中学だ。三学期はもう目の前だ。のんきにしていられないぞ。忙しく、厳しいんだ。たるんだ根性でいるなよ。と、いつも自分に問い掛けることが大切だ。自分との対決であり、21人との対決だ。そして先生との対決だ。いつもギラリとした目で対決。

最後に先生、あまり酒飲むなよ。自分だけの体でない。みんなの体、世界の体であることがわかっているのなら、ちょっと手加減しなきゃ男がすたるぞ。十二指腸が泣くよ。今度休んだら承知しないぞ。バイバイ。またね。一月八日に久し振りに会おう。元気でね。

金沢市不室町ト110 奥野正昭(ふじみな男)」

虫眼鏡片手にこの年賀状を、ある意味では喜び、ある意味では「ああまだまだやな。」と思いながら読んでいるうち「森中を引っ張る」という所に引っ掛かった。

それで今日は一時間、このことについて話してみた。「おまえ達はすぐに森本中学を引っ張っていくと言う。それは、先生の心の中にもそんな意識があるから言うんだろう。しかしだ。おまえ達が一番可愛いのは誰だ。」「ユン子、どうだ。」「ちょっと考えさして下さい。」「よし考えろ。」…しばらくたつと皆ボソボソと「やっぱり自分が一番可愛いな。」「そうだろう。自分が一番可愛いんだ。協力、協力、団結、団結と言って、それが最高のものだと自分に思い込ませ、他人に要求する。…もう一つ、おまえ達はそんなら可愛いと思う自分を信じとるか。」即座にユン子が手を上げ「信じていません。いえ、信じられません。」「それは何でやろうなあ。」その時、勝一が「先生、ぼくは自分が可愛いと思わんな。よくわからんけど。」「うんそうか。それもよかろう。そんなら今日家でゆっくり考えてこい。」「自分が可愛い。自分を信じていない。そんな悪人であるおまえ

達が、どうして森中を引っ張っていけるんだ。そうでないか。いやまた新年早々弱ったことになったな。これが三学期の勉強の中心だ。みんな本当の人間になりたいんだろう。どれだけ金儲けして好きな物を買っても、好きな所へ行っても、たとえ総理大臣になっても、それでよしと言えん自分をもうみんなは知っているからな。そう言う先生も、自分が一番可愛いんだ。オレはおまえ達によって生かされていると言いながら、愛を見とらんのだ。だからこの三学期はこのことについてゆっくり一緒に考えていこう。もう一つ、一日最低4時間勉強というおまえ達が決めた目標を忘れるな。」「先生。」「なんだ。」「なんでぼくらは、こうすぐボロが出るんやろな。こんで結構先生に参ったと言わしとるがやけど、最後になるとコッテンパーにやられてしまうな。いつかコッテンパーにやっつけてやろうと思って新聞読んで、テレビ見て、かあちゃんやとうちゃんともゆっくり話して、学校の勉強も班でとことん教え合いして、家でも鉢巻きしめて頑張っとって最後はホールドアップ。ぼくらもうわからんがになってきたじゃ。」それはな。構えるからだ。ハダカにならんからだ。おまえ達の言葉で言えば、イイカッコしようとするからだ。ぼくも結構いいこと言うし、少しはましな人間やと思うからだ。そんなものをパッと捨てるんだ。そこで初めて本当の勉強が何かわかってくるんだ。多分おまえ達は中学、高校と進むうちに、紺清は真理やら愛やら誠実やら変なこと言うとったわいと思い出すことがあるやろう。真理は在る。真理を実現する課題として愛が在り、実現する自己の態度として誠実。ようするに、みんな流で言う、ギリギリいっぱい生きるということが出てくるわけで、この三つはどこどこまでも深い意味があり、それは皆がどれだけ逃げても追っかけてくるんだ。もう知ってしまったからと言っとった。そんなことわかるかい。気違いでないか、と思う時もあるだろう。それが人間なんだ。精神病院へ行った方がいいんじゃないか。それはそれで生きていける。何かの為、例えば大学へ入る為とか、社長になる為に生きとるとしたら、それが実現した時にはまた何か探さなアカンやないか。「為」にする生活はダメなんだ。今ここに生きていることが生き甲斐である生き方、苦しいからこそ生きられる。苦しみが生き甲斐である生活をせなアカンのだ。スフィンクスを作った時のことを思い出してみろ。あれは、でっかいスフィンクスを作って皆に威張るのが目的ではなかったんだろう。作っている時は、先生がなかなか休ませてくれんの不満もあったし、先生の目を盗んでサボル者もいたが、結局最後には目もあけられん吹雪の日でも勇んでスコップ担いで行っただろう。苦しいことが喜びであったじゃないか。あれなんだ。これでいいか。」「まあ半分くらいは分かるな。」「三分の二わかる者、半分、三分の一、サッパリ。いろいろいるだろうが、大事なことだということが分かればいいんだ。」という所で今日の一時間は終わった。

一ケ月程前のある日、私は学校で読み切れなかった生活ノートを10冊ばかり家で読んで赤ペンを入れていた。12時頃それも終わり、少し頭が冴えてきたので、西谷啓治さんの「ニヒリズム」を時間を忘れて読んでいた。

ハッと気が付いてみると朝の6時。慌てて布団の中に入って寝た。さあ、7時になってかあちゃんが起こすが、頭が朦朧としていて、起こされていると気付くまで30分ほどかかったらしい。かあちゃんはうるさく「あんたの命が学校で待っとるぞ。行かんつもりか。愛はどうでもいいがか。」と皮肉まじりにいろいろ私の存在を脅かしてくるが、私は「いいがじゃ。子供なんかどうでもいい。とにかく寝さしてくれ。真理も何もいらん。寝さしてくれ。」と意識朦朧とした中でとにかく言い続ける。布団がまくられる。また引っ張る。しまいにはベッドから落とされる。それでも行く気が起こらない。ただ眠りたい一心。

どうにかこうにか目を開けたのが8時。飯も食わず、いやいや学校へ。10分遅刻。そして皆に背いたこんな私を22名の子供達に告白した。22名は口を揃えて言った。「学校へ来たんやさ

かいカンニンしてやる。」

何故、いつも命だと思っている者にさえ私は背くのか。それは「愛がなければ弱る。」という所に私が立っているからなのだと最近判り出した。私が愛によって生きること、私が生きようとしていること、私の救いだけが問題になっている。

この態度自体がエゴイズム、我執なのである。我執そのものが人間なんだという形にならないで、我執を捨てることで人間になろうとしている私がいる。「愛がなければ弱る。」という事と、「愛を探す」という態度は少しずれているような気がする。

「愛を探す」という態度即、これが生きるという事であり、ここにこそ、苦しいからこそ生きていけるとい態度が生まれてくる。「愛がなければ弱る。」という意識で立っていると、苦しみこそ生であるという形なしに、行きつく所そこで立てない自己を知っている故に、なければ死んでやるぞという傲慢さになって表れてくる。だから、そういう態度を純粋に見なければ駄目な訳だ。愛に目覚める事、即ち、我執そのものをよく見れる所から、子供達に対する責任をとる態度が決まってくる。

しかし、ここで責任をとるという事は、自分がどうかするという意味での責任のとり方であり、それは私にとってどうにもできない事である事を知った上で言っている訳で、それにもかかわらず、その事態そのものを責任をとれるとして見ている私がいる。この事自体、全く許されざる事なのである。

それ故、この事が開かれ解かれていく道は、この傲慢さをもう一度、純粋に見ることでしか開かれてこない。意識が人間を見た場合、人間は醜い。しかし人間は、醜いと言いながらその醜さを内で見ず、まだ外で見ていて、醜さそのものになっていない。醜さそのものになった時、その時初めて、愛を求める意外にないという態度、愛を求めるといういう事が私の生きる事だという態度が出てくる。

しかし、それは、現在の私がこの事実そのものを純粋に見ていないからだ。だから前にも書いたように、愛がなかったら死んでやるという傲慢な態度になって表れてくる。子供達に対して責任をとれない私が、責任をとったような顔をしてのうのうとしている傲慢さ。これは罪以外の何ものであろうか。私にとっては私が、やはり一番可愛い。

そんな意識を抱えた上での教育。常に背かない子供達に向かって、私は背く。この事が本当に私に響いてきた時、初めて私はただ頭が下がるだけである。この事を踏まえずにいると、私の教師という仕事、かけがえのない命の創造者としての私が生きてこず、子供達も生きてこないのである。さらに言えば、この背かない子供達に甘えている私。ここでもまた、私自身の背きがある。以上述べたごとく、あくまでも、私の意識はつまる所、子供達を覚醒させる事ができず、経済、政治の中で滅んでいく。

結局、私と子供達を結びつけているものは何なのか。何によって一つになるのか。この考えは転ずるならば、一つになるのではなしに、もうすでに一つであるものを見出さなくてはならい。これは何故か。一つに結びつけようとすることは既に分裂しているという事が前提になっている。この分裂という基盤の上で一つに結びつけようとする所に倫理的に根本的矛盾がある。

一つにしようとするのではなしに、既に一つであるものに従って生きる。一つであるものの発見が教育の場で明らかにされなければならない。

はぐくむことの中に大変な苦悩がある事。この苦悩を堪え、引き受けていく事。自己自身でこの問題を開いていく事。それが創造なのである。背く者の自覚を通してしか、子供の魂の創造は生まれてこない。世界の心に響く子供達を創造する事、言いかえれば、愛に目覚める事、これが私の願いなのである。

國　新　聞　平成10年（1998年）1月3日（土曜日）

夫婦で挑戦「百名山踏破」

戸水の向さん　登頂10年目　足跡を写真屏風に

あと「64」今年は北海道へ

金沢市戸水町の高校教諭向沖継さん(五二)、小学校教諭幸子さん(五〇)夫妻は二人で日本百名山登頂を始めて、今年で十年の節目を迎えた。昨年、銀婚式を終え、これまでに三十六の山を制覇。登山の足跡を手作りの写真屏風にも収めている向さん夫妻は百名山完全踏破へ大張り切りである。

写真屏風を背に今年の登山に思いをはせる向さん夫妻
＝金沢市戸水町

県バスケットボール協会理事長を務める沖継さんは十年前、同僚に誘われて白山に登ってから登山に興味を覚え、学生時代、ワンダーフォーゲル部だった幸子さんを誘い、夫婦での日本百名山挑戦が始まった。

向さん夫妻は毎年平均して五、六カ所の山に登り、昨年は福島県の安達太良山など九つの山に登った。

これまでの百名山挑戦で、富士山に次ぐ高度を誇り、沖継さんが軽い高山病にかかった北岳など、思い出深い山が多く、向さん夫妻は日本百名山挑戦の歴史を残したいと三年前から、登山した際の写真を集め、写真屏風作りも始めた。

写真屏風には百名山挑戦のスタートとなった白山をはじめ三十六山の風景が収められ、「夫婦登山―写真屏風」として鞍月地区や沖継さんが勤める星稜高の文化祭にも展示された。

向さん夫妻は十三年後に百名山を制覇する予定で、沖継さんは「今年は北海道も攻めてみたい。百名山を終えても、金婚式を迎えるまで夫婦で登山を続けたい」と二人三脚の登山に夢を広げている。

銀婚式を終え、ただいま青春真っ最中

13期　向　幸子

昨年12月末のある日、主人が唐突に「おい！新聞記者がｲﾝﾀﾋﾞｭｰにくるぞ」といいます。どういう主旨なのかを聞く間も無く、取材を受けて、１月３日の新聞に載った記事が別掲のものです。後に引けなくなりました。

鹿島槍で銀婚式を祝いました。

主人は高校の体育教師です。結婚当初から「部活動の熱血先生」で私は「ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ未亡人」のようでした。

その主人が61年に同僚と白山登山をして感銘を受けたようです。それから「お母さん山へ行こう」というようになりました。

家族と甥や姪もいっしょに唐松岳、五竜岳、白馬岳、西穂高、木曽駒、御嶽などに登りました。

両親や叔父、叔母の年寄り組といっしょに車やﾛｰﾌﾟｳｴｲを使える、谷川岳、草津白根山、乗鞍岳、北八ケ岳に登りました。

二人で初めて本格的にｱｲｾﾞﾝをつけて春の八ケ岳、赤岳に登りました。

奥穂高や南ｱﾙﾌﾟｽ北岳を登った年あたりから深田久弥の「日本百名山」がヤマケイなどの本に載り、ＮＨＫの特集で放映されるようになりました。

その影響で主人は「うちは夫婦で百名山を目指す」というようになりました。

「青春とは年齢ではない！

目的意識を持って行動しているうちは青春である！

百名山完登をﾗｲﾌﾜｰｸにしようとしている向夫婦は青春真っ最中」

ということらしいです。

カナダやスイスで思いきり滑りたい

長女も交えて妙高や志賀高原でよくスキーをしました。

娘が３年前、コロラド州立大に留学していたとき訪問して、飛行機の窓から見えるロッキー山脈や、広大なコロラドの大地を目の当たりにし、感動して帰りました。

いま長女はモントレーの大学院で英語教授法の勉強をしています。

娘が就職する前に、娘を通訳にして、主人ともども、カナダやスイスで思いきり滑りたいと思っています。

金婚式は百名山のいずれかの頂きで

トレーニングを兼ねて自転車通勤を28年間続けています。

金婚式は百名山をクリヤーして、その中の一番印象の良かった山で迎えたいなと考えています。

その時、主人は77歳、私は75歳です。

夫唱婦随。離婚はもちろん、どちらが倒れても目的は達成できません。

いつまでも仲良く、健康夫婦でいたいと思います。

ＮＳＫ（ナスカ）流域ネット

3川流域で、町村を越え、インターネットで情報交換しながら、地域の未来を考え、実践していくグループ

ナスカの地に情報産業を

ナスカとは

NSKは長良川、庄川、九頭竜川の頭文字。ナスカの地上絵のように、次世代に何かを残したいという希望を現した。

●越美南・北線で福井ー岐阜間を開通させるという、20世紀の住民が待ち望んだ「鉄道による地域交流」構想を引継ぎ、我々の手によって、21世紀の「ネットワークによる」地域交流構想へと発展させよう。

●156号線でつながっている愛知と富山の恋人たちの「遠距離恋愛」を応援しよう。

●太平洋と日本海とを結ぶ軸を形成する連携グループとして活動しよう。

●「太平洋と日本海を桜で結ぼう」と夢見た旧国鉄バス車掌、故佐藤良二さんの遺志を継いで、ネットでつなぎ、そして心をつなぐ という夢を実現しよう。

活動目標

生き生きとした生活ができる広域コミュニティ、自然や文化を大切にする産業のある地域作りを目指す

インターネットを活用して、仲間と意見交換しながら、実験をして確かめつつ、ビジョンを作り、それを地域に提案していこう。

・地域の未来は自分で考え、自分で確かめて選択しよう

・ナスカの地に情報産業を育てよう

メンバーの所属町村

富山県：庄川町

岐阜県：白川村、高鷲村、白鳥町、八幡町、明宝村、美濃市

福井県：美山町、大野市

アドバイザー

スマートバレージャパン

地域活動の専門の方多数

'97.9.5

ホームページ　http://www.nsk.org/

連絡先　上村人史　kami@takasu.org

活動について

●合意形成原則

タブーなし、中心なし、全員が対等、地域外からも議論に参加、ラフコンセンサス、プロセスからの情報公開

●一般公開型、無料のメーリングリスト

・情報交換の場、出会いの場として、誰でもいつでも参加できるメーリングリスト。

・参加／退会はいつでも自由、無料。

・実名で自己紹介された方がメンバー

自己紹介の後、できるだけ早い機会に写真をお送り下さい。

メンバーとメーリングリスト参加者はメール機能に関して全く同等です。

●プロジェクト

まずは話し合いから。講演会、セミナー、ミーティングなどを順次企画。

目標実現のための活動はプロジェクトで。プロジェクト立ち上げのための合意形成過程にも、目標とするコミュニティのプロセスで（情報の開示→メンバーの議論→合意の形成という一連のプロセス）。

役割、責任分担、費用などはプロジェクト毎に。

写真集第３集を出します

15 期　　上馬　康生

先日、約１年半ぶりに白山へ登ってきました。私にとっては長いブランクでした。それというのも、平成９年２月に一人で山スキーをはいて白山へ登り、帰りに転倒したのが引きがねとなり、腰椎椎間板ヘルニアで入院、手術となりました。無理をしなければよかったのですが、退院後の不養生がたたって、なかなかよくならず、そのうち頸椎にもヘルニアが見つかり、もうさんざん。約１年間、仕事もまともに出来ない状態が続いていました。しかし今年の２月頃から、十分といえないまでも、ようやくまともに動けるようになり、５月の山小屋を皮切りに、少しずつ山歩きを再開しています。

久しぶりに高山の空気に触れ、山の生き物に接してきました。病気になる前までは何とも思っていなかったのですが、普通に歩けるということは本当に幸せなことです。もう二度と繰り返すことのないことを願って、毎日簡単な筋肉トレーニングを続けています。皆さんも腰には十分注意してください。必要に迫られ本など読んで腰痛について少し勉強しましたので、悩んでおられる方は、たいしたことは出来ないと思いますが一度ご連絡ください。

さて、本当なら一年前に出版を予定していたのですが、遅れてしまっていた写真集の第３集がまもなく出来上がります（７月上旬予定）。昨年２月に白山へ行ったのも、実はどうしても厳冬期の山の上の様子を第３集に載せたく、写真撮影が目的の一つだったのです。ワンゲル関係者の方々にもたくさん買っていただきましたが、「白山の四季」、「白山の四季Ⅱブナ林」は、おかげさまで版を重ね、全国の方に白山の自然のいくらかを知ってもらえたものと思っています。まだの方は、各都道府県立図書館に贈ってありますので、そこまで足を運んでもらえば見ていただけると思います。今回の第３集「白山高山帯」は、白山の標高 1700 mから山頂までに至る範囲の自然についてまとめたものです。そこは、ほとんど人の手の入っていない白山でも最も白山らしいと言えるところと思います。私が出合った様々な自然とそこで感じたことを一つ一つの画面で表現し、それに解説を少し付けました。雪や地形、植物の他に、空の雲や太陽の光など、高山ならではの自然を取り上げたつもりです。書店などで一度手に取って見ていただければ幸いです。

出版といっても、あくまでも私の趣味の範囲の行為で、その費用の一部を負担し、まったく儲けはありません。費用負担分の本がたくさん手元に届きますので、手渡しできる近くの方は直接私の方まで申し込んでいただければうれしいです。石川県内の書店の他に、大都市の主要書店には出ると思いますが、なくてもどこの書店に注文しても取り寄せてくれるはずですので、申し込んでいただければ幸いです。

金大 6キロの散策路整備

観察湿地、あずま屋設け

50周年事業 12年春完成

金大は十八日までに、来年の創立五十周年記念事業として、敷地内に総延長六キロの散策路を張り巡らせ、大学全体を自然体験エリアとして整備する計画概要をまとめた。全国的に大学の郊外移転が進む中、自然に調和した二十一世紀型キャンパスのモデルとなりうる空間を創出する試みで、散策路には湿地帯やあずま屋などの観察拠点を配して地域住民が自然に親しみ、環境保護を考えられるような場にする。

計画では第二期移転用地を含めた敷地内に散策路の幹線部分四キロ、支線部分二キロを整備し、昆虫や植物などの自然観察ができる「観察湿地」、あずま屋やベンチなどを配置し、エントランスゾーンには展示室や集会室のある管理棟を設ける。

総事業費約一億七千万円を投じ、来年五月に着工、平成十二年春の完成を目指す。

金大は広大な自然環境を最大限に生かし、大学施設と自然が溶け合うキャンパス作りを創立五十周年記念事業のメーン事業に位置づけた。角間移転後、地域と孤立しがちな立地環境にあるだけに、自然と親しむ仕掛けを作ることによって地域住民をキャンパスに呼び込む狙いも込められている。

金大庶務課では「一般市民が気軽に足を運べるような地域との交流を念頭に置いた整備を進めたい」としている。

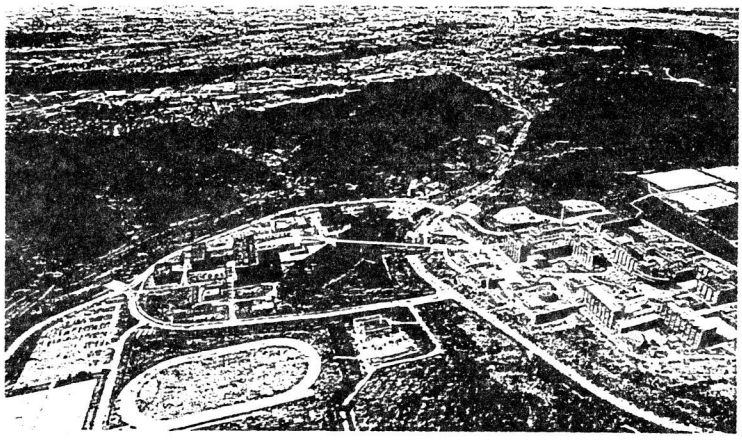
国際シンポや立花隆氏講演も

金大は来年五月二十九日から六月一日まで創立五十周年記念事業を展開する。地球の水資源をテーマにした「地球―水―人間」と題した国際学術シンポジウムでは米国、ロシア、カナダ、中国四カ国の専門家を迎え、地球規模の視点で環境問題を考える。

また、北陸の水辺をテーマにした市民シンポジウム、二、三十代の若手研究者が金大の現状と問題点を討論する「若手研究者シンポジウム」、評論家の立花隆氏を招いた特別講演もある。

五十周年記念展示では旧制四高関係の資料などが公開される。

地域に開放 自然体験型キャンパス



地域への開放を目指す自然体験型キャンパスの構想が動き出す金大＝金沢市角間町、北國新聞社ヘリ「あすなろ」から

石川軍政隊記者の思い出

大戸 宏

四年間の軍務を終えて復員し北國新聞社の記者として就職、最初の部署が金沢に進駐していたGHQ第八軍傘下の石川軍政隊詰めの仕事だった。空き腹をかかえて二の丸の旧第四師団司令部、本多町の旧海軍館、西町CIC（Counter-Intelligence Corps）に日参、軍が発表する県市当局むけの示達文書を記事に翻訳して本社に届ける業務に専心した。別に激しい取材競争がある訳ではなく、耳新しい覚え書きと称する機関済みの記事を書くだけのことで、ずいぶん先輩記者に羨まれたものだった。

隊長以下の将校は威張らず、気さくな人たちばかりで、顔なじみになるほど親切にしてくれる。当時は貴重な煙草や缶詰にありつける役得をありがたく思ったものだった。

駐屯将兵三百人が利用する石坂の米軍専用慰安所の統計を広報係のスミス中尉から入手し記事にしようとした時、隊長の中佐から大目玉を食う。「当局が発表する以外のものを報道するのはまかりならぬ」と中尉ともどもしかられ、一片の角砂糖をポケットにねじこまれたこともある。

戦災を受けなかった石川県は軍政移管が最もスムーズに運んだ土地とされ、GHQの評価は高かった。供米、ヤミ撲滅、隠退蔵物資摘発、農地解放などの初期の占領政策は数カ月で終わり、昭和二十一年夏ごろから第二段階の民主化政策に移る。軍政隊にいた将校の大半が本国へ引き上げ、CIE（Civil Information and Education）の民政官にとって代わる。オズボン、マーチン氏やギーボード中佐といった文人肌が大勢をしめる陣容になり、これが県政の将来を左右することとなる。

かつての軍都を学都に転換しようとの方針がGHQから示されるのが、二十二年の九月アイケルバーガー第八軍司令官の金沢視察で本決まりとなる。隊長のギーボード中佐らがキャンパス候補地とした金沢城址をくまなく案内し、三十間長屋や石川門、旧七連隊兵舎をみて回るアイケルバーガー中将は大満悦だった。

「これは素晴らしい史跡である。軍から移管後も、教育文化施設として県市が守り立てていくよう指導すべきである。大学設置にはもってこいの土地と建物がある」

当時は県知事や市長の権限を上回る行政力を持つ、GHQ高官の金沢城址を核とすることの都市計画構想は、まさに金鉄の重みがあった。以来、石川軍政隊の精力的な働きかけに拍車がかかった。

一方で県民の関心も大きく、真宗大学案など、さまざまな提案が百出した。何と学識者の豊かな土地柄だ。折り目正しい英文の投書が、多くの情報をもたらしてくれる。中傷や軍批判もあるが、献策、提言も少なくない。さすがに学都、文化の都市だけある。当時の将校の言葉が、それを裏付けている。

いつのまにか、投書を整理しリストを作るのが記者の仕事になった。そのうち隊には多くの文人、学識者が招かれ、民政官らと懇談する機会が生まれる。大沢衛、伊藤武雄、川口久雄、大士井源、大河内一男教授らざっと三十人、ほとんどが郷土文化遺産の維持発掘と教育改革に建設的な意見を述べる。これらの提言を受け入れ、軍政隊の文化都市建設五カ年計画の青写真ができあがる。このほど金大で見つかったギーボード中佐から知事にあてた覚え書きは、その一端が垣間見えるもので、「石川門と三十間長屋を歴史地域として独立の機関が保有にあたること」といった文面には、金沢城址に対する石川軍政隊やGHQの高官らの執着がにじむ。

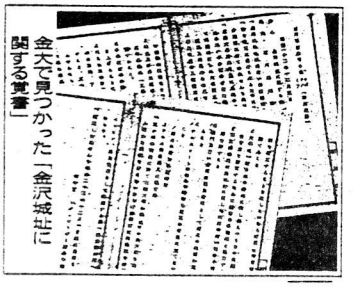
金沢城址を三心二号大に次ぐ総合大学建設と講堂館、図書館、公会堂新設の覚え書きが完成したのは、昭和二十二年の秋ごろ、ギーボード中佐が県庁に出向いて、柴野知事、井村金沢市長に協力を求め、三県要路を集めた大学設置期成同盟会の発足となる。この時点で真宗大学案は消え、真宗ゆかりの尾山御坊に記念碑建立の構想が加えられた。

昭和二十四年七月の金沢大学開学。一般教養部の授業が旧七連隊兵舎ではじめられるというスピーディな運びの裏にGHQの存在があったことを知る人は少なくなった。（おおと・ひろし＝随筆家・金沢市）

金大開学の裏にGHQ

高官ら「金沢城址」に執着

北國文化



金大で見つかった「金沢城址に関する覚書」

平成10年（1998年）6月11日（木曜日）　北國新聞

幅20メートル　金沢城址で最大級

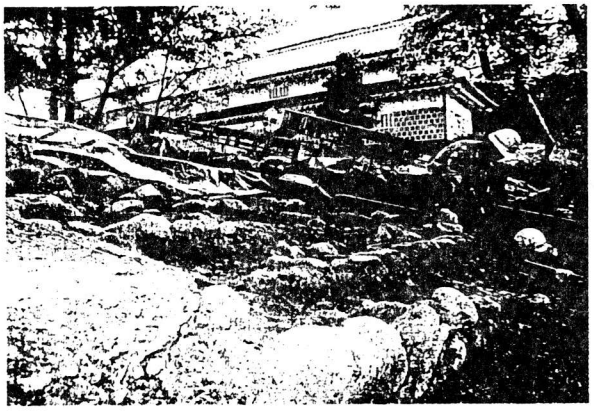
二ノ丸、本丸結ぶ石段確認

江戸中期から末期に使用

数回にわたり改修か

県埋文センター

石川県埋蔵文化財センターは十日までに、金沢城址の二ノ丸と本丸を結ぶ極楽橋周辺の発掘調査で、江戸時代中期から末期まであったとされる石段を確認した。石段は幅二十㍍にも及ぶ城内でも最大規模のもので、数回にわたり改修されたとみられることから、同センターでは、寛永の大火（一六三一年）後に藩主の殿舎が二ノ丸に移って以降も、本丸が城内で重要な位置を占めていたとみて、引き続き、詳しく調査していく。



江戸中期から末期まで使われたとみられる二ノ丸から本丸に続く石段　＝金沢城址

極楽橋の本丸側で確認された石段は、明治期に造られた階段から約二十㍍掘ったところにあり、幅は二十㍍、延長も二十㍍となっている。一段の高さが約二十㌢、奥行きは約七十㌢で、斜面を階段状に削り取った表面を細かな丸石で補強してあった。また、石段の上部からは、警護などの目的から幅を狭くするため巡らされた塀の基礎となる石列も見つかった。塀は、城内の絵図などから、江戸後期に設けられたと推定されている。

今回、確認された石段について、県埋蔵文化財センターでは、宝永年間（十八世紀初）以降の金沢城の絵図に階段状のものが明確に記載されていることから、江戸中期から末期にかけて二の丸から本丸への移動に使用されたとみている。本丸は宝暦の大火（一七五九年）に三階櫓が焼失して以降、倉庫などしかなかったとされているが、今回の石段の確認で、引き続き本丸が城内の要所であった可能性が出てきた。

県埋蔵文化財センターの滝川重徳主事は「今回確認されたのは、石段の基礎部分で、上に平らな化粧石を置いたとも考えられる。石段周辺から出土している瓦などから石段の詳細な設置年代を特定していきたい」と話している。

4/9
北國　¥3,925円(朝刊3,007円)朝刊1部売り(消費税込み)110円　第3種郵便物認可　⑫

「金大生」にここまで言うか！

万引は罪、あて逃げは道交法違反

大学側、全新入生に手引書

学生反発「子供扱いやめて」

金大の合格発表で番号を探す受験生や保護者。大学側は学生に社会のルールを守れる「一人前の人間」として期待している　＝3月、金大角間キャンパス

金大は八日までに、初の学生生活の手引書を作製し、新入学生全員に配布した。手引書では、学生保険や訪問販売の注意事項のほか、カンニング、酒の強要は厳禁とするのをはじめ、万引、車のあて逃げ、自転車泥棒が犯罪であることを明示するなど、手取り足取り、社会のルールを記している。旧制四高の伝統を受け継いで半世紀、学生気質の様変わりに頭を痛める大学側は「細かに説明しないと社会常識の規則を守れない学生が増えている」と苦しい内情を打ち明け、ルールの順守を指導していく考えである。

手引はA5判三十一ページで、「心と健康」「ルールを守ろう」「交通事故に遭ったら」「犯罪の被害者にならないために」「学生生活に役立つ保険」の五項目で構成されている。

「ルールを守ろう」の項目では、最近学内で目立つルール違反として、カンニングや大学の備品持ち出し、駐車違反、ごみのポイ捨てを挙げ、それぞれ処分内容を記した。このほか、「万引はどんな安いものでも立派な窃盗罪」「自動車のあて逃げは道交法違反の事故不申告に相当する」「自転車の寸借は軽く見られるが、被害届が出れば逮捕される」と自覚を促している。

金大が全新入生に配布した手引書

また、金大の学生がかかわったケースとして平成八年度に八件、九年度に十三件の交通事故が発生しているとし、「飲酒運転は事故のもと」「バイクに運転する時は必ずヘルメットを着用すること」と訴えている。

金大保健管理センターによると、新入生の中には、親元を離れて解放感に浸り、羽目を外す者も多いという。手引の作製に当たった大場義樹前学生部長は「今の学生は手取り足取り教えないと分からない面もある。学生には、大学時代に常識ある社会人としてのトレーニングを積んでほしい」としている。

手引を受け取った入学生からは、「もう子供ではないのだから基本的なことは分かっているつもり」（教育学部）、「大学生にもなって細かく注意されたくない」との声が上がる一方、「案外知らないことが多く、参考になる」（工学部）など反応も分かれている。

体裁悪いが必要

久野能弘金大文学部教授　手引書に出ているようなことは大学生であれば本来、分かっていて当然のことである。しかし高校までの教育が受験をにらんだ暗記中心で、生徒が社会で必要な一般的常識を教わる機会が少ない以上、（社会常識を教える）手引書を出すこともやむを得ない。大学としては体裁の悪いことかもしれないが、学生に本当の知識と知恵を学んでもらうためにも必要だ。

主将挨拶

４１期主将の仕事

・主将の挨拶と、部の近況の原稿作成

・ＯＢ会との連絡

・宴会での芸

この程度である。

近年主将という役職は、さほど重要ではない。ただ椅子に座っているだけでワンゲルはどんどん動いていく。たとえばもしここで僕が半年ほど失踪したとしてもワンゲルは変わらず動いているのであろう。そのような立場であるワンゲルの主将でありながら、僕が１年生の時の主将老田さん、２年の時の主将山崎さんの２人は常にその存在感を示しておられました。このような優秀な主将たちの後を継ぐことになるとは考えてもいない事柄でした。ただ現在は、この二人を追い抜くことのできる主将になれるよう日々精進している毎日です。

部の近況

・今年の１年生は何と１６人もの入部者がおり、例年よりもかなり多くなっています。部全体としては、４回生が９名、３回生が１０名、２回生が１１名、１回生が１６名の４６名となっています。今年の新入生トレーニング山行は、高三郎山でおこなった去年の新トレ、及び秋の小屋作業で、１回生が相次いで滑落したことにより安全面を考慮して医王山で行いました。今年の夏合宿は、北アルプス３パーティー、南アルプス１パーティーの計４パーティーが有り、普段は体力作りを行っています。

＊冬合宿偵察　経ヶ岳　12/13~14

Ｌ中野　SL上田

＊冬合宿　経ヶ岳　12/27~29

CL中野　CSL上田　（３年７名　２年６名　１年６名）

＊医王山雪上訓練　2/22~23

Ｌ竹内　SL上田　老田　田村　林　得田　野沢　青木　笹田　志賀　矢内　久保寺

＊春合宿偵察　大門山

Ｌ上田　SL小川

＊春合宿　大門山

Ｌ上田　SL小川　（３年３名　２年４名　１年３名）

＊１・２年山行

＜佐渡　3/25~31＞

Ｌ市山　SL得田　角谷　越前　中内

＜天ぐ岳　3/31~4/1＞

Ｌ森田　SL竹内　佐藤　田村　笹田　矢内

＜屋久島・宮之浦岳　3/11~14＞

Ｌ谷本　SL長谷川　河村　青木　岩崎

キツネ

９８年度

＊新トレ偵察　医王山　　4/29

　Ｌ長谷川　SL田村　（３年２名　２年４名）

＊新トレ　医王山　　5/23~24

　CL長谷川　CSL市山　（４年４名　３年６名　２年１０名　１年１４名）

夏合宿

＊峠パーティー　８泊９日　８月上旬

　Ｌ田村　SL河村　志賀　坂本　越前　小倉　加藤　田中　杉村

　立山－剣－五色ヶ原－針ノ木峠－鹿島槍

　・第１回トレーニング山行　人形山　6/20~21

　　Ｌ河村　SL田村

　・第２回トレーニング山行　白山　7/4~5

　　Ｌ志賀　SL田村

＊北ア　上高地パーティー　７泊８日　８月上旬

　Ｌ森田　SL竹内　笹田　伊藤　中内　神谷　清水　谷上　阿納

　上高地－蝶ヶ岳－大天井岳－槍ヶ岳－双六岳－笠ヶ岳

　・第１回トレーニング山行　人形山　6/20~21

　　Ｌ竹内　SL山崎

　・第２回トレーニング山行　白山　7/4~5

　　Ｌ笹田　SL森田

ハチクマ

＊北ア　林パーティー　７泊８日　８月上旬

　Ｌ林　SL佐藤　谷本　石川　角谷　青木　村松　藤井　奥野　矢田部

　燕－槍－鷲羽岳－水晶岳－黒部五郎岳－薬師岳

　・第１回トレーニング山行　白山　6/27~28

　　Ｌ未定

　・第２回トレーニング山行　白山

　　Ｌ未定

＊南アルプスパーティー　８泊９日　８月上旬

　Ｌ市山　SL得田　長谷川　矢内　久保寺　大西　西脇　伊澤　芝

　塩見岳－農鳥岳－間ノ岳－北岳－仙丈－甲斐駒ヶ岳

　・第１回トレーニング山行　赤兎山　6/27~28

　　Ｌ市山　SL得田

　・第２回トレーニング山行　白山

　　Ｌ矢内

「初夏の尾根にて」
イラスト：竹中敏

自然人NO.44 （橋本確文堂）イラストより

ＯＢ会報「やまざと」　９８夏号

発 行 日　平成10年７月　金沢大学ワンダーフォーゲル部ＯＢ会
発 行 者　大島 良治　事務局 920-0911 金沢市橋場町10－49
編集責任者　舟田 節子　☎ 076-222-9288 舟田 節子
印　　刷　プリントショップ多田 （ 名倉 均 nagura @wnk.njk.co.jp ）